

Oracle® Solaris 11.1 デスクトップ ユーザーズガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are “commercial computer software” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	11
1 デスクトップ入門	15
デスクトップの概要	15
デスクトップのコンポーネント	16
デスクトップセッション	17
セッションの開始	17
画面のロック	18
ログイン時に自動的に起動するようにプログラムを設定する	19
セッションの終了	20
2 デスクトップウィンドウの使用	23
ウィンドウの概要	23
ウィンドウの種類	23
ウィンドウの操作	24
ウィンドウの移動	25
ウィンドウのサイズ変更	25
ウィンドウの最小化	26
ウィンドウの最大化	26
ウィンドウの最大化の解除	26
ウィンドウを閉じる	26
ウィンドウにフォーカスを与える	27
3 デスクトップワークスペースの使用	29
ワークスペースの概要	29
ワークスペースの操作	30
ワークスペースの切り替え	30

ワークスペースの追加および削除	30
4 デスクトップパネルの使用	33
パネルの概要	33
上側エッジパネル	34
下側エッジパネル	34
パネルの管理	35
パネルの移動	35
パネルの非表示	35
新しいパネルの追加	36
パネルの削除	36
パネルのプロパティの設定	36
「一般」プロパティータブについて	37
「背景」プロパティータブについて	37
パネルオブジェクトの管理	38
パネルオブジェクトの操作	38
アプレットの選択	38
オブジェクトをパネルに追加する	39
オブジェクトのプロパティの変更	39
パネルオブジェクトの移動	40
パネルオブジェクトのロック	41
パネルオブジェクトの削除	41
アプレット	41
ランチャー	42
ランチャーをパネルに追加する	42
ランチャーの変更	43
ランチャーのプロパティ	44
ボタン	45
強制終了	45
画面のロック	46
ログアウト	47
実行	47
ファイルの検索	47
デスクトップの表示	47
メニュー	48

▼メニューバーまたはメインメニューをパネルに追加する方法	48
▼パネルにサブメニューを追加する方法	48
引き出し	49
▼メニューを引き出しとしてパネルに追加する方法	49
▼引き出しにオブジェクトを追加する方法	50
▼引き出しのプロパティを変更する方法	50
パネルオブジェクト	51
メニューバー	51
ウィンドウの選択アプレット	51
通知領域アプレット	52
ウィンドウの一覧	52
Command Assistant アプレット	53
5 デスクトップアプリケーションの使用	55
アプリケーションの概要	55
ファイルの操作	56
ファイルを開く	57
ファイルリストのフィルタリング	57
フォルダの選択	58
場所を開く	58
リモートの場所を開く	58
ブックマークの追加および削除	59
隠しファイルの表示	59
ファイルの保存	59
別の場所にファイルを保存する	59
既存ファイルの置換	60
フォルダの作成	60
6 メインメニューバーの使用	61
メインメニューバーについて	61
「アプリケーション」メニューについて	62
▼アプリケーションを起動する方法	62
「場所」メニューの使用	62
「システム」メニューの使用	63
「管理」メニューの使用	63

パネルメニューバーのカスタマイズ	64
▼メニューを編集する方法	64
7 タイムスライダの使用	65
「タイムスライダ」設定ペイン	66
タイムスライダサービスの有効化と無効化	66
タイムスライダのスナップショットの操作	67
タイムスライダを使用したスナップショットの管理	67
ファイルマネージャーからスナップショットを管理する	70
8 ファイルマネージャーの使用	75
ファイルマネージャーの概要	75
空間モード	76
空間モードウィンドウ	76
空間ウィンドウでのホームフォルダの表示	79
親フォルダの表示	79
ブラウザウィンドウでのフォルダの表示	80
フォルダを閉じる	80
場所を開く	80
ブラウザモード	80
ブラウザウィンドウ	80
ファイルブラウザウィンドウのコンポーネントの表示と非表示	83
場所バーの使用	84
ホームフォルダの表示	84
フォルダの表示	85
親フォルダの表示	85
サイドペインのツリーの使用	85
ナビゲーション履歴の使用	86
ファイルを開く	87
デフォルト操作の実行	87
デフォルト以外の操作の実行	88
▼あるファイルタイプに関連付けられた操作を追加する方法	88
▼操作を変更する方法	88
ファイルの検索	89
検索の保存	89

ファイルやフォルダの管理	89
ビューを使用したファイルやフォルダの表示	90
ファイルやフォルダの操作	94
ドラッグ&ドロップの使用	99
ファイルまたはフォルダのプロパティーの表示	99
アクセス権の変更	100
ファイルやフォルダへのメモの追加	102
テンプレートを使用したドキュメントの作成	103
ブックマークの使用	104
ゴミ箱の使用	105
隠しファイルの表示	106
項目プロパティーの使用	106
▼ 「アイテムのプロパティー」 ウィンドウを表示する方法	107
ファイルやフォルダの外観の変更	107
アイコンとエンブレムの使用	107
リムーバブルメディアの使用	111
メディアのマウント	111
メディアの内容の表示	111
メディアのプロパティーの表示	112
メディアの取り出し	112
リモートサーバーのナビゲーション	113
リモートサーバーへのアクセス	113
ネットワーク上の場所へのアクセス	113
特殊な URI 場所へのアクセス	114
ファイルマネージャーの設定	114
表示	115
動作	115
表示	117
一覧の項目	118
プレビュー	119
メディア	120
ファイルマネージャーの拡張	121
スクリプト	121
拡張	122

9	デスクトップツールおよびユーティリティの使用	123
	アプリケーションの実行	123
	▼コマンド行からアプリケーションを実行する方法	123
	スクリーンショットを撮る	124
	Yelp ヘルプブラウザの概要	125
	Yelp ヘルプブラウザのインタフェース	126
	Yelp の操作	126
	Yelp ヘルプブラウザのナビゲーション	130
	コマンド行からドキュメントを開く	130
10	デスクトップの構成	133
	設定ツールについて	133
	支援技術	134
	キーボードショートカット	134
	お気に入りのアプリ	136
	「ルック&フィール」設定	137
	外観	137
	ウィンドウ	144
	スクリーンセーバー	145
	インターネットおよびネットワークの設定	147
	ネットワーク	147
	ネットワークプロキシ	148
	デスクトップの共有	149
	キーボードの設定	151
	キーボード	152
	入力方式セレクタ	158
	ハードウェアの設定	159
	「モニター」設定ツール	159
	「サウンド」設定ツール	161
	セッションの設定	163
	起動アプリケーションの構成	164
A	マウスの使用	165
	マウスボタンの表記規則	165
	「マウス」設定ツール	166

マウスポインタ	169
B キーボードの使用	171
グローバルショートカットキー	171
ウィンドウショートカットキー	172
アプリケーションキー	173
アクセスキー	174

はじめに

『GNOME デスクトップ用 Oracle Solaris 11 ユーザーズガイド』では、Oracle Solaris デスクトップの機能を構成、カスタマイズ、および使用方法について説明します。このガイドの情報のほとんどは、デスクトップのすべてのリリースで共通です。共通の情報でない場合は、プラットフォームが示されています。

サポートされるシステム

このリリースのデスクトップでは、SPARC および x86 プラットフォームで Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムを実行するシステムをサポートします。

このガイドの対象読者

このガイドは、ユーザー、システム管理者および Oracle Solaris デスクトップの使用に関心のあるユーザーを対象にしています。

内容の紹介

このガイドは、次のように構成されています。

- **第1章「デスクトップ入門」**では、デスクトップの基本コンポーネントの一部を紹介します。このようなコンポーネントには、ウィンドウ、ワークスペース、アプリケーションなどが含まれます。この章では、デスクトップのログインとシャットダウン、およびデスクトップセッションの開始、管理、終了に必要な情報についても説明します。
- **第2章「デスクトップウィンドウの使用」**では、デスクトップウィンドウ、使用可能なウィンドウの種類、およびウィンドウを使用する方法について説明します。
- **第3章「デスクトップワークスペースの使用」**では、ワークスペース、および Oracle Solaris デスクトップで使用可能なワークスペースを管理する方法について説明します。
- **第4章「デスクトップパネルの使用」**では、Oracle Solaris デスクトップの上下にあるパネルを追加、カスタマイズ、および使用方法について説明します。

- 第5章「デスクトップアプリケーションの使用」では、標準のデスクトップアプリケーション、およびファイルやフォルダを作成する、開く、保存する方法について説明します。
- 第6章「メインメニューバーの使用」では、デスクトップのパネルメニューバーを使用する方法について説明します。
- 第7章「タイムスライダの使用」では、自動的にスケジュールされたホームディレクトリの増分スナップショットから個々のファイルまたはディレクトリを復元する方法について説明します。
- 第8章「ファイルマネージャーの使用」では、ファイルを整理および検索する方法、リモートサーバーを接続する方法、およびCDを作成する方法について説明します。
- 第9章「デスクトップツールおよびユーティリティーの使用」では、デスクトップでいくつかのツールやユーティリティーを使用して実行できる操作(スクリーンショットを撮る、ヘルプドキュメントを参照するなど)について説明します。
- 第10章「デスクトップの構成」では、設定ツールを使用してデスクトップをカスタマイズする方法について説明します。
- 付録A「マウスの使用」では、マウスの操作、およびさまざまなマウスポインタについて説明します。
- 付録B「キーボードの使用」では、キーボードを使用する方法、およびデスクトップとアプリケーションの全体で使用できるショートカットキーについて説明します。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子的なサポートを利用することができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

関連ドキュメント

Oracle Solaris 11.1 OS を使用しているときには、次のドキュメントの参照が必要になることがあります。

表 P-1 より詳細な情報の記載箇所

トピック	参考
Oracle Solaris に付属するデフォルトのデスクトップでアクセシビリティ機能を使用する	『Oracle Solaris 11 デスクトップのアクセシビリティガイド』

表 P-1 より詳細な情報の記載箇所 (続き)

トピック	参考
Oracle Solaris に付属するデフォルトのデスクトップで管理機能を使用する	『Oracle Solaris 11.1 デスクトップ管理者ガイド』
マルチユーザー環境向けにデスクトップを最適化する方法	マルチユーザー環境の Oracle Solaris デスクトップの最適化
有線ネットワークと無線ネットワークを自動的に構成及び管理する	『Oracle Solaris 11.1 でのリアクティブネットワーク構成を使用したシステムの接続』
Oracle Solaris 11.1 のすべてのドキュメント	Oracle Solaris 11.1 Information Library

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。

表 P-2 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

Oracle Solaris OS に含まれるシェルで使用する、UNIX のデフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを次に示します。コマンド例に示されるデフォルトのシステムプロンプトは、Oracle Solaris のリリースによって異なります。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

デスクトップ入門

この章では、Oracle Solaris デスクトップ (GNOME Desktop バージョン 2.30.2 がベース) の基本コンポーネントの一部について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 15 ページの「デスクトップの概要」
- 16 ページの「デスクトップのコンポーネント」
- 17 ページの「デスクトップセッション」

デスクトップの概要

デスクトップは、画面上にあるその他のすべてのコンポーネントの背後に位置します。表示されているウィンドウがないときは、デスクトップは画面で上部パネルと下部パネルの間にある部分です。簡単にアクセスできるようにするため、デスクトップ上にファイルおよびフォルダを配置できます。

デフォルトで、次のアイコンがデスクトップに表示されています。

- 「ここから開始」 - デスクトップのカスタマイズやヘルプドキュメントの表示にアクセスできます。
- 「ソフトウェアの追加」 - ソフトウェアを追加または更新できるパッケージマネージャーを開きます。

CD、フラッシュドライブ、またはその他のリムーバブルメディアを挿入すると、そのデバイスを表すアイコンがデスクトップに現れます。

すべてのウィンドウを最小化してデスクトップを表示するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「デスクトップの表示」 ボタンをクリックします。
- **Ctrl+Alt+D** を押します。

または、別のワークスペースに切り替えてデスクトップを表示することもできます。

デスクトップの背景色や表示されている画像を変更することもできます。デスクトップの背景を変更する方法の詳細は、[139 ページの「デスクトップ背景設定」](#)を参照してください。

注- デスクトップ上のファイルとフォルダは、ホームフォルダ内にある Desktop という名前の特別なフォルダ内に格納されます。Desktop フォルダの内容は、デスクトップに表示されます。

デスクトップのコンポーネント

はじめてデスクトップセッションを開始するときは、パネル、ウィンドウ、各種アイコンのあるデフォルトの起動画面が表示されます。

次の表では、Oracle Solaris デスクトップの主要なコンポーネントについて説明します。

表 1-1 Oracle Solaris デスクトップのコンポーネント

コンポーネント	説明
パネル	<p>パネルとは、画面の上下に表示される2つのバーです。デフォルトで、上のパネルにはデスクトップのメインメニューバー、一連のアプリケーション起動用アイコン、通知領域、ボリュームコントロール、および時計が表示されます。下のパネルには、「デスクトップの表示」ボタン、ウィンドウリストアプレット、ワークスペーススイッチアプレット、およびゴミ箱アプレットがあります。</p> <p>パネルは、その他のメニューやランチャーなどのツールや、パネルアプレットと呼ばれる小さなユーティリティーアプリケーションを含めるようにカスタマイズできます。たとえば、現在位置の今の天気を表示するようにパネルを構成できます。パネルの詳細については、第4章「デスクトップパネルの使用」を参照してください。</p>
ウィンドウ	<p>ほとんどのアプリケーションは、1つ以上のウィンドウ内で動作します。デスクトップには同時に複数のウィンドウを表示できます。ワークフローに対応するために、ウィンドウをサイズ変更したり移動したりすることができます。各ウィンドウには、上部にタイトルバーがあり、ウィンドウを最小化、最大化、および閉じることができるボタンが付いています。ウィンドウの操作の詳細は、24 ページの「ウィンドウの操作」を参照してください。</p>

表 1-1 Oracle Solaris デスクトップのコンポーネント (続き)

コンポーネント	説明
ワークスペース	デスクトップは別々のワークスペースに分割できます。各ワークスペースには複数のウィンドウがあり、関連するタスクをグループ化できます。ワークスペースの操作の詳細は、29 ページの「ワークスペースの概要」を参照してください。
ファイルマネージャー	ファイルマネージャーは、ファイル、フォルダ、およびアプリケーションへのアクセスを提供します。ファイルマネージャーは、フォルダの内容を管理し、ファイルを適切なアプリケーションで開きます。ファイルマネージャーを使用する詳細は、56 ページの「ファイルの操作」を参照してください。
設定	「システム」メニューにある「設定」を使用して、コンピュータをカスタマイズできます。各設定ツールを使用すると、コンピュータ動作の特定の側面を変更できます。「設定」の詳細は、第 10 章「デスクトップの構成」を参照してください。

デスクトップセッション

セッションとは、ログインからログアウトまでデスクトップを使用している間に費やす時間です。セッション中に、ユーザーはアプリケーションを使用したり、出力したり、Web をブラウズしたりしています。

セッションの開始

デスクトップにログインするとセッションが開始します。ログイン画面は、Oracle Solaris デスクトップの出入り口です。

注- ログアウトするとセッションが終了しますが、セッションの状態を保存して次回デスクトップを使用するときに復元するように選択できます。セッションの復元の詳細は、19 ページの「ログイン時に自動的に起動するようにプログラムを設定する」を参照してください。

▼ デスクトップにログインする方法

- 1 ログイン画面で、「セッション」をクリックします。使用可能なデスクトップ環境のリストから **GNOME** を選択します。
- 2 「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力し、**Return** キーを押します。

- 3 「パスワード」フィールドにパスワードを入力し、**Return** キーを押します。
はじめてログインすると、セッションマネージャーが新規セッションを開始します。前にログインしていて、以前のセッションの設定を保存した場合は、セッションマネージャーが以前のセッションを復元します。

ログインする前にシステムをシャットダウンまたは再起動する場合は、ログイン画面で「システム」をクリックします。ダイアログから関連するオプションを選択し、「OK」をクリックします。

▼ 異なる言語を使用する方法

- 1 ログイン画面で、「言語」をクリックします。使用可能な言語のリストから必要な言語を選択します。
- 2 「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力し、**Return** キーを押します。
- 3 「パスワード」フィールドにパスワードを入力し、**Return** キーを押します。

▼ 異なるキーボードレイアウトを使用する方法

異なる言語を使用してセッションにログインすると、ユーザーインタフェース言語は変更されますが、キーボードレイアウトは変更されません。

- 1 ログイン画面で、「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力し、**Return** キーを押します。
- 2 ログイン画面の下部に表示される「キーボード」アイコンをクリックし、使用可能なレイアウトのリストから必要なキーボードレイアウトを選択します。
- 3 「パスワード」フィールドにパスワードを入力し、**Return** キーを押します。

参照 ログインしたあとで、キーボード設定ツールを使用して別のキーボードレイアウトを選択することもできます。キーボード設定ツールの詳細は、[152 ページの「キーボード」](#)を参照してください。

画面のロック

画面をロックすると、アプリケーションや情報へのアクセスが防止されるため、コンピュータの前から離れることができます。画面がロックされている間は、スクリーンセーバーが動作します。

画面をロックするには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「システム」 → 「画面のロック」を選択します

- 「画面のロック」ボタンがパネルに表示されている場合は、クリックします

注-デフォルトで、「画面のロック」ボタンはパネルに表示されていません。「画面のロック」ボタンをパネルに追加する方法の詳細は、[39 ページの「オブジェクトをパネルに追加する」](#)を参照してください。

画面をロック解除するには、マウスを動かすか任意のキーを押し、ロックされている画面のダイアログにパスワードを入力し、Return キーを押します。

ロックされているコンピュータをほかのユーザーが使用する場合は、マウスを動かすかキーを押し、「ユーザーの切り替え」をクリックします。ログイン画面が表示され、各自の証明書を使用してログインできるようになります。アプリケーションや情報にはアクセスできません。ログアウトするともう一度画面がロックされるので、画面をロック解除して自分のセッションにアクセスできます。

ログイン時に自動的に起動するようにプログラムを設定する

セッションにログインしたときに自動的に起動する特定のプログラムを選択できます。たとえば、ログインしてすぐに Web ブラウザを起動できます。ログインしたときに自動的に起動するプログラムは、自動起動するプログラムと呼ばれます。自動起動するプログラムは、ログアウト時にセッションマネージャーによって自動的に保存され閉じられ、ログイン時に再開されます。

自動起動するアプリケーションの設定ツールを使用して、起動プログラムを定義できます。「自動起動するプログラム」と「オプション」の2つのタブがあります。

「自動起動するプログラム」タブについて

「自動起動するプログラム」タブを使用して、自動起動するプログラムを追加、変更、および削除できます。

自動起動するプログラムのリストがこのタブに表示されます。リストには各プログラムの簡単な説明と、自動起動するプログラムが有効であるかどうかを示すオプションが表示されます。有効でないプログラムは、ログイン時に自動的に起動しません。

自動起動するプログラムの有効化/無効化

プログラムを自動的に起動できるようにするには、そのプログラムに対応するオプションを選択します。

プログラムの自動起動を無効にするには、オプションを選択解除します。

▼ 新しい自動起動するプログラムを追加する方法

- 1 「自動起動するプログラム」タブで、「追加」をクリックします。
「自動起動するプログラムの追加」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「名前」テキストボックスに、新しい自動起動するプログラムの名前を指定します。
- 3 「コマンド」テキストボックスに、アプリケーションを起動するコマンドを指定します。
たとえば、コマンド `gedit` は Gedit テキストエディタを起動します。正確なコマンドが不明な場合は、「参照」をクリックしてコマンドのパスを選択します。
- 4 「コメント」テキストボックスに、アプリケーションの説明を入力します。
プログラムの説明は、自動起動するプログラムのリストに表示されます。
- 5 「追加」をクリックします。
アプリケーションが自動起動するプログラムのリストに追加されます。

自動起動するプログラムの削除

自動起動するプログラムを削除するには、自動起動するプログラムのリストから選択し、「削除」をクリックします。

自動起動するプログラムの編集

既存の自動起動するプログラムを編集するには、自動起動するプログラムのリストから選択し、「編集」をクリックします。プログラムのプロパティを編集できるダイアログが表示されます。このダイアログで使用可能なオプションの詳細は、[19 ページの「「自動起動するプログラム」タブについて」](#)を参照してください。

「オプション」タブについて

ログアウトするときに実行中のアプリケーションがセッションマネージャーに記憶されるので、再ログインしたときに自動的に再開できます。「ログアウト時に実行中のアプリを自動的に記憶しておく」を選択すると、再ログインするたびに実行中のアプリケーションが再起動されます。これを1回のみ実行する場合は、ログアウトする前に「現在実行中のアプリを記憶しておく」をクリックします。

セッションの終了

次のいずれかの操作を実行してセッションを終了できます。

- ログアウトし、コンピュータを別のユーザーが作業を開始できる状態にします。ログアウトするには、「システム」→「*username*のログアウト」を選択します。
- コンピュータをシャットダウンし、電源をオフにします。シャットダウンするには、「システム」→「シャットダウン」を選択し、「シャットダウン」をクリックします。
- コンピュータの構成によっては、コンピュータを休止できる場合があります。休止状態中は、使用される電力が少なくなりますが、開いているアプリケーションとドキュメントはすべて保持され、休止状態からの再開時に開かれます。休止状態から再開するには、マウスを動かすかキーを押します。

セッションを終了する前に、あとでセッションを復元できるように現在の設定を保存できます。自動起動するアプリケーションの設定ツールでは、現在の設定を自動的に保存するためのオプションを選択できます。

◆◆◆ 第 2 章

デスクトップウィンドウの使用

この章では、デスクトップウィンドウ、使用可能なウィンドウの種類、およびウィンドウを使用する方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [23 ページの「ウィンドウの概要」](#)
- [23 ページの「ウィンドウの種類」](#)
- [24 ページの「ウィンドウの操作」](#)

ウィンドウの概要

ウィンドウとは、画面の長方形の領域で、境界と上部にタイトルバーがあります。ウィンドウは、画面内の画面であると考えられます。各ウィンドウにはアプリケーションが表示され、複数のアプリケーションを表示したり、同時に複数のタスクで作業したりすることができます。

ウィンドウの画面上の位置やサイズを制御できます。どのウィンドウをほかのウィンドウに重ねるかを制御できるため、操作するものの全体を表示できません。ウィンドウの移動およびサイズ変更については、[24 ページの「ウィンドウの操作」](#)を参照してください。

ウィンドウの種類

ウィンドウごとに別のアプリケーションであるとは限りません。1つのアプリケーションに1つのメインウィンドウがあり、さらにリクエストに応じて追加ウィンドウを開くことができます。

次の表では、ウィンドウの主な種類2つを示します。

表2-1 ウィンドウの種類

ウィンドウ	説明
アプリケーションウィンドウ	アプリケーションウィンドウでは、最小化、最大化、閉じるの操作すべてをタイトルバー上で使用可能なボタンから実行できます。
ダイアログウィンドウ	ダイアログウィンドウは、アプリケーションウィンドウのリクエストに応じて表示されます。ダイアログウィンドウでは、問題を警告したり、操作の確認を求めたり、入力をリクエストしたりすることがあります。ダイアログウィンドウには2種類あります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ モーダルダイアログ - 閉じるまで、メインアプリケーションウィンドウを操作することは許可されません。 ■ 一時ダイアログ - 閉じなくてもメインアプリケーションウィンドウを操作できます。

ウィンドウの操作

画面上のウィンドウのサイズと位置を変更できます。これにより、複数のアプリケーションを表示して、同時に別々のタスクを実行できます。たとえば、Web ページのテキストを読みながらワープロで入力したり、別のアプリケーションに切り替えて別のタスクを実行したり進捗状況をチェックしたりといったことができます。

ほとんどの操作は、ウィンドウフレームのさまざまな部分でマウスを使用して実行します。ウィンドウフレームの上端はタイトルバーと呼ばれ、ウィンドウの表示方法を変更するいくつかのボタンを含みます。

次の図に、一般的なアプリケーションウィンドウのタイトルバーを示します。左から右に、ウィンドウメニューボタン、ウィンドウタイトル、最小化ボタン、最大化ボタン、閉じるボタンが含まれます。

図2-1 アプリケーションウィンドウのタイトルバー



すべての操作は、「ウィンドウ」メニューから実行することもできます。よく使う操作は、キーボードショートカットを使用して実行することもできます。ショートカットキーの例のリストについては、172 ページの「ウィンドウショートカットキー」を参照してください。以降のセクションでは、マウスやキーボードを使用してウィンドウで実行できる操作を一覧表示します。

ウィンドウの移動

タイトルバーの両端のボタン以外の任意の部分をクリックすると、ドラッグ操作を開始できます。ウィンドウは、マウスのドラッグに合わせて画面上を移動します。一部のコンピュータでは、ウィンドウの移動がフレームのアウトラインの動きで表されることがあります。

次のいずれかの操作を実行してウィンドウを移動することもできます。

- 「ウィンドウ」メニューから「移動」を選択します。
- Alt+F7 を押し、マウスを動かさずかキーボードの矢印キーを押して、ウィンドウを移動します。
- Alt キーを押したまま、ウィンドウの任意の部分ドラッグします。
- Shift キーを押したまま、デスクトップのコーナーとほかのウィンドウとの間でウィンドウを移動します。

注 - Num Lock キーがオフの場合、数字キーパッドの矢印、および7、9、1、および3キーを使用して対角に移動できます。

ウィンドウのサイズ変更

いずれかの境界をドラッグすると、ウィンドウの1辺で展開または折り畳むことができます。コーナーをドラッグすると、一度に2辺が変化します。ドラッグ操作を開始するのに適切な位置にマウスがあると、サイズ変更ポインタが表示されます。

▼ ウィンドウをサイズ変更する方法

- 1 「ウィンドウ」メニューから「サイズ変更」を選択するか、**Alt + F8** を押します。サイズ変更ポインタが表示されます。
- 2 サイズ変更する端の方向にマウスを移動するか、キーボードのいずれかの矢印キーを押します。
ポインタが変化して選択した端を示します。これで、マウスまたは矢印キーを使用してウィンドウの端を移動できます。
- 3 マウスをクリックするか **Return** を押して、変更を受け入れます。

注 - Esc を押すと、サイズ変更操作をキャンセルして、ウィンドウを元のサイズや形状に戻すことができます。

ウィンドウの最小化

タイトルバーの最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウが視界から消去されます。上パネルのウィンドウリストまたはウィンドウセクターからウィンドウを画面上の元の位置とサイズに復元できます。

また、「ウィンドウ」メニューの「最小化する」を選択するか、Alt+F9を押すこともできます。

注-最小化されたウィンドウは、タイトルに[]を付けた状態でウィンドウリストおよびウィンドウセクターに表示されます。

ウィンドウの最大化

タイトルバーの最大化ボタンをクリックすると、ウィンドウを展開できます（パネルは表示されたままです）。

次のいずれかの操作を実行してウィンドウを最大化できます。

- 「ウィンドウ」メニューから「最大化する」を選択します。
- Alt+F10を押します。
- タイトルバーの両端にあるボタン以外の任意の部分をダブルクリックします。

注-ダブルクリック操作をウィンドウの巻き上げに割り当てて、タイトルバーのみが表示されるようにすることもできます。ウィンドウ設定の詳細は、[24 ページ](#)の「ウィンドウの操作」を参照してください。

ウィンドウの最大化の解除

ウィンドウが最大化されているときに、もう一度最大化ボタンをクリックすると、画面上の前の位置とサイズに復元されます。

次のいずれかの操作を実行してウィンドウの最大化を解除できます。

- 「ウィンドウ」メニューから「最大化解除」を選択します。
- Alt+F5を押します。
- タイトルバーの両端にあるボタン以外の任意の部分をダブルクリックします。

ウィンドウを閉じる

閉じるボタンをクリックすると、ウィンドウを閉じることができます。未保存の作業がある場合は保存するようにアプリケーションから求められます。

ウィンドウにフォーカスを与える

アプリケーションを操作するには、そのウィンドウにフォーカスを与える必要があります。ウィンドウにフォーカスがある場合は、マウスのクリック、テキストの入力、キーボードショートカットなどのあらゆる操作がそのウィンドウのアプリケーションに渡されます。一度にフォーカスを持つのは1つのウィンドウのみです。フォーカスを持つウィンドウは、その他のウィンドウの上位に表示されます。選択したテーマによっては、その他のウィンドウとは異なる外観を持つこともあります。

次のいずれかの方法で、ウィンドウにフォーカスを与えることができます。

- ウィンドウが表示されている場合は、ウィンドウの任意の部分をクリックします。
- 下パネルで、ウィンドウを表しているウィンドウリストボタンをクリックします。
- 上パネルで、ウィンドウリストアイコンをクリックし、次にリストから切り替えるウィンドウを選択します。

注- 選択したウィンドウが別のワークスペースにある場合は、そのワークスペースに切り替わります。ワークスペースを使用する詳細は、[29 ページの「ワークスペースの概要」](#)を参照してください。

- **Alt + Tab** を押します。ポップアップウィンドウが表示され、各ウィンドウを表すアイコンのリストが示されます。Alt を押しながら Tab を押すと選択リスト内を移動し、Alt キーを離すとウィンドウが選択されます。

注- この操作を実行するために使用するショートカットは、「キーボードショートカット」設定ツールでカスタマイズできます。

デスクトップワークスペースの使用

この章では、ワークスペース、および Oracle Solaris デスクトップで使用可能なワークスペースを管理する方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 29 ページの「ワークスペースの概要」
- 30 ページの「ワークスペースの操作」

ワークスペースの概要

ワークスペースを使用すると、画面上にあるウィンドウを管理できます。ワークスペースは、いつでも切り替えられる仮想的な画面であるとみなすことができます。それぞれのワークスペースには、同じデスクトップ、パネル、メニューがあります。しかし、ワークスペースごとに異なるアプリケーションを実行し、異なるウィンドウを開くことができます。各ワークスペースのアプリケーションは、その他のワークスペースに切り替えても同じ場所に留まります。

デフォルトでは、4つのワークスペースが使用可能です。ワークスペースは、ワークスペース切り替え器アプレットを使用して切り替えることができます。次の図では、ワークスペース切り替え器に4つのワークスペースが含まれています。最初の3つのワークスペースには、開いたウィンドウが含まれています。最後のワークスペースは、開いたウィンドウを含みません。現在アクティブなワークスペースは強調表示されます。

図 3-1 ワークスペース切り換え器



各ワークスペースでは、任意の数のアプリケーションを開くことができます。ワークスペースの数はカスタマイズできます。ワークスペースの追加の詳細は、30 ページの「ワークスペースの追加および削除」を参照してください。

注- ワークスペースを使用すると、さまざまなアプリケーションを同時に実行するとき、Oracle Solaris デスクトップを整理できます。ワークスペースの使い方の1つは、特定の機能を各ワークスペースに割り当てることです。

ワークスペースの操作

次のワークスペース操作を実行できます。

- ワークスペースを切り替えます
- ワークスペースを追加します
- ワークスペースを削除します

ワークスペースの切り替え

次のいずれかの方法でワークスペースを切り替えることができます。

- ワークスペース切り替え器アプレットで、操作するワークスペースをクリックします。
- マウスポインタをワークスペース切り替え器アプレットに移動し、マウスホイールをスクロールします。
- Ctrl + Alt + 右矢印キーを押して、現在のワークスペースの右にあるワークスペースに切り替えます。
- Ctrl + Alt + 左矢印キーを押して、現在のワークスペースの左にあるワークスペースに切り替えます。

注- 矢印ショートカットキーは、ワークスペース切り替え器アプレットでのワークスペースの設定に従って動作します。ワークスペースの行を複数含めるようにワークスペースのレイアウトを変更した場合は、Ctrl + Alt + 上矢印を使用して現在のワークスペースの上にあるワークスペースに切り替え、Ctrl + Alt + 下矢印を使用して現在のワークスペースの下にあるワークスペースに切り替えます。

ワークスペースの追加および削除

ワークスペース切り替え器アプレットを使用して、ワークスペースを追加および削除します。

▼ ワークスペースを追加する方法

- 1 ワークスペース切り替え器アプレットを右クリックし、「設定」を選択します。
「ワークスペース切り替え器の設定」ダイアログが表示されます。
- 2 「ワークスペースの数」ボックスで、デスクトップに表示するワークスペース数を反映するように値を増やします。
- 3 「閉じる」をクリックします。

▼ ワークスペースを削除する方法

- 1 ワークスペース切り替え器アプレットを右クリックし、「設定」を選択します。
「ワークスペース切り替え器の設定」ダイアログが表示されます。
- 2 「ワークスペースの数」ボックスで、デスクトップに表示するワークスペース数を反映するように値を減らします。
- 3 「閉じる」をクリックします。

◆◆◆ 第 4 章

デスクトップパネルの使用

この章では、Oracle Solaris デスクトップの上部と下部にあるパネルを使用する方法、それらに表示されるオブジェクトをカスタマイズする方法、および新規パネルをデスクトップに追加する方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 33 ページの「パネルの概要」
- 35 ページの「パネルの管理」
- 36 ページの「パネルのプロパティの設定」
- 38 ページの「パネルオブジェクトの管理」
- 41 ページの「アプレット」
- 42 ページの「ランチャー」
- 45 ページの「ボタン」
- 48 ページの「メニュー」
- 49 ページの「引き出し」
- 51 ページの「パネルオブジェクト」

パネルの概要

パネルは、特定のアクションおよび情報にアクセスできる、Oracle Solaris デスクトップ上の領域です。たとえば、デフォルトパネルでは、アプリケーションを起動したり、日付と時間を表示したり、システムのサウンドの音量を制御したりすることができます。

パネルの動作や外観を変更したり、パネルでオブジェクトを追加および削除したりすることができます。複数のパネルを作成し、それぞれのパネルに異なるプロパティ、オブジェクト、および背景を選択できます。パネルを非表示にすることもできます。Oracle Solaris デスクトップのデフォルトでは、画面の上端と下端にパネルがあります。以降のセクションでは、これらのパネルについて説明します。

上側エッジパネル

デフォルトで、上側エッジパネルには、次の表で説明するアプレットが含まれません。

表4-1 上側エッジパネルのアプレット

アプレット	説明
メニューバー	「アプリケーション」、「場所」、「システム」メニューがあります。メニューバーの詳細は、第6章「メインメニューバーの使用」を参照してください。
一連のアプリケーションランチャーアイコン	アイコンを使用して、ファイルマネージャー、Firefox Web ブラウザ、Thunderbird メールアプリケーション、パッケージマネージャー、端末を起動します。
通知領域	ほかのアプリケーション(注意が必要である可能性があるものや、現在のアプリケーションウィンドウから切り替えずにアクセスできるもの)からのアイコンが表示されます。通知領域のアプレットの詳細は、52 ページの「通知領域アプレット」を参照してください。 アプリケーションがアイコンを通知領域に追加するまでは、細いバーのみが表示されています。
時計	現在の時間が表示されます。時間をクリックすると小さいカレンダーが開きます。「場所」拡張ラベルをクリックすると、世界地図を表示することもできます。時計アプレットの詳細は、時計アプレットのマニュアルを参照してください。
音量調節ツール	システムのスピーカー音量を制御できます。音量調節ツールの詳細は、音量調節ツールのマニュアルを参照してください。

下側エッジパネル

デフォルトで、下側エッジパネルには、次の表で説明するアプレットが含まれません。

表4-2 下側エッジパネルのアプレット

アプレット	説明
デスクトップの表示	開いているウィンドウすべてを最小化し、デスクトップを表示します。もう一度クリックすると、すべてのウィンドウが前の状態に復元されます。

表 4-2 下側エッジパネルのアプレット (続き)

アプレット	説明
ウィンドウの一覧	開いているウィンドウごとにボタンを表示します。ウィンドウの一覧を使用すると、ウィンドウを最小化および復元できます。ウィンドウの一覧の詳細は、52 ページの「ウィンドウの一覧」を参照してください。
ワークスペース切り換え器	ワークスペースを切り替えることができます。ワークスペースの詳細は、30 ページの「ワークスペースの操作」を参照してください。
ゴミ箱アプレット	ゴミ箱内に削除されたファイルがあるかどうかを表示します。アプレットをクリックすると、内容がファイルマネージャーに表示されます。ゴミ箱を空にするには、アプレットを右クリックし、「ゴミ箱を空にする」を選択します。

パネルの管理

パネルを操作するには、パネルの何もないところ (その上のオブジェクトではなく) をクリックします。非表示ボタンがパネルに表示されている場合は、いずれかを中央クリックまたは右クリックしてパネルを選択することもできます。

パネルのプロパティを設定する方法の詳細は、36 ページの「パネルのプロパティの設定」を参照してください。

パネルの移動

パネルを画面の反対側へ移動するには、ALT を押したまま、パネルを新しい場所へドラッグします。パネルの何もないところをクリックするとドラッグが始まります。

画面の幅全体に展開するように設定されていないパネルは、画面の端をドラッグし、任意の場所に配置できます。

パネルの非表示

非表示ボタンがある場合は、パネルの表示と非表示を切り替えることができます。非表示ボタンがパネルに表示されていない場合は、非表示ボタンが表示されるようにパネルのプロパティを変更します。

非表示ボタンは、パネルの両端にあります。非表示ボタンには、オプションの矢印アイコンが含まれます。下の図に、非表示ボタンを示します。

図4-1 パネルの非表示ボタン



パネルを非表示にするには、いずれかの非表示ボタンをクリックします。パネルが非表示ボタン上の矢印の向きに縮小します。パネルのもう一方の端にある非表示ボタンは、表示されたままです。

非表示パネルをもう一度表示するには、表示されている非表示ボタンをクリックします。パネルが非表示ボタン上の矢印の向きに展開します。

パネルが自動的に隠れるように設定することで、マウスがパネルをポイントしていないときはパネルを自動的に非表示にできます。画面でパネルがある部分をポイントすると、パネルが再表示されます。

新しいパネルの追加

パネルを追加するには、パネルの何もないところを右クリックし、「新しいパネル」を選択します。新しいパネルが Oracle Solaris デスクトップに追加されますが、オブジェクトは何もありません。新しいパネルをカスタマイズすることもできます。

パネルの削除

パネルを Oracle Solaris デスクトップから削除するには、削除するパネルを右クリックし、「このパネルを削除する」を選択します。

注 - Oracle Solaris デスクトップには、少なくとも1つのパネルが常に必要です。Oracle Solaris デスクトップにパネルが1つしかない場合は、そのパネルを削除できません。

パネルのプロパティの設定

パネル位置、非表示動作、視覚的外観など、各パネルのプロパティを変更できます。

パネルのプロパティを変更するには、パネルの何もないところを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「パネルのプロパティ」ダイアログには、「一般」と「背景」の2つのタブがあります。

「一般」プロパティータブについて

「一般」タブでは、パネルのサイズ、位置、非表示のプロパティを変更できます。次の表では、「一般」タブのダイアログ要素について説明します。

表4-3 「一般」タブのダイアログ要素

ダイアログ要素	説明
方向	画面上のパネルの位置を選択します。パネルに必要な位置をクリックします。
サイズ	パネルのサイズを指定します。
広げる	デフォルトで、パネルは配置されている画面の端いっぱいに展開します。展開しないパネルは、画面の端から画面の任意の部分へ移動できます。
自動的に隠す	マウスポインタが上にあるときのみ、パネルの全体を表示します。パネルは長辺に沿って画面から隠れますが、短辺はデスクトップの端に沿って表示されたままです。パネルの表示されている部分にマウスポインタを動かすと、表示が戻ります。
隠すボタンを表示する	パネルの各端に隠すボタンを表示します。隠すボタンをクリックするとパネルが垂直方向に動き、反対側の隠すボタン以外は画面から隠れます。この隠すボタンをクリックすると、パネルが復元されて全体が表示されます。
隠すボタンに矢印をつける	隠すボタンが有効な場合、隠すボタンに矢印を表示します。

「背景」プロパティータブについて

「背景」タブでは、パネルの背景の種類を選択できます。次の表では、「背景」タブのダイアログ要素について説明します。

表4-4 「背景」タブのダイアログ要素

ダイアログ要素	説明
なし(システムのテーマを使用する)	このオプションを選択すると、「外観」設定ツールでの設定をパネルが使用します。この設定では、パネルの背景はデスクトップやアプリケーションと似たものになります。
単色	<p>パネルの背景に単一色を指定します。「色」ボタンをクリックし、カラーセレクターのダイアログから色を選択します。</p> <p>「スタイル」スライダを使用して、色の透明度や不透明度を指定します。たとえば、パネルを透明にするには、スライダを端まで移動します。</p>

表 4-4 「背景」タブのダイアログ要素 (続き)

ダイアログ要素	説明
背景画像	パネルの背景用の画像を指定します。「参照」をクリックして、画像ファイルを参照します。ファイルを選択し、「OK」をクリックします。

色または画像をパネルにドラッグして、その色または画像を背景として設定することもできます。色または画像は多くのアプリケーションからドラッグできます。例:

- 色はどのカラーセレクトダイアログからもドラッグできます。
- 画像ファイルをファイルマネージャーからドラッグしてパネルの背景として設定できます。
- ファイルマネージャーの「背景とエンブレム」ダイアログから色またはパターンをドラッグして、背景として設定できます。

パネルオブジェクトの管理

このセクションでは、パネルで追加したり使用したりできるオブジェクトについて説明します。

パネルオブジェクトの操作

マウスボタンを使用して、次のようにパネルオブジェクトを操作します。

- 左クリック - パネルオブジェクトを起動します
- 中央クリック - オブジェクトを選択して新規の場所にドラッグできます
- 右クリック - パネルオブジェクトポップアップメニューを開きます

アプレットの選択

アプレットをクリックしてパネルオブジェクトポップアップメニューを表示したりアプレットを移動したりできる場所にはいくつかの制限があります。一部のアプレットには、アプレットの選択に使用できない領域があります。たとえば、コマンド行アプレットには、コマンドを入力するフィールドがあります。このフィールドを中央クリックまたは右クリックしてアプレットを選択することはできません。代わりに、アプレットの別の部分を中央クリックまたは右クリックしてください。

アプレットの特定の部分を右クリックすると、アプレット固有のコマンドのポップアップメニューが表示されます。たとえば、ウィンドウの一覧アプレットには、左側に縦のハンドル、および右側にウィンドウを表すボタンがあります。ウィンドウ

の一覧アプレットのパネルオブジェクトポップアップメニューを開くには、ハンドルを右クリックする必要があります。右側のボタンを右クリックすると、ボタンのポップアップメニューが表示されます。

オブジェクトをパネルに追加する

さまざまなオブジェクトをパネルに追加できます。

▼ パネルにオブジェクトを追加する方法

- 1 パネルの何も無いところを右クリックして、パネルポップアップメニューを開きます。
- 2 「パネルへ追加」を選択します。
「パネルへ追加」ダイアログが表示されます。使用可能なパネルオブジェクトがアルファベット順に一覧表示され、先頭にランチャーが表示されます。

注- 検索ボックスにオブジェクトの名前や説明の一部を入力できます。リストが入力した内容に一致するオブジェクトに絞り込まれます。リスト全体を復元するには、検索ボックスのテキストを削除します。

- 3 オブジェクトをリストからパネルにドラッグするか、またはオブジェクトをリストから選択して「追加」をクリックし、パネルで最初に右クリックした場所に追加します。
「アプリケーション」メニュー内の項目をパネルに追加することもできます。各ランチャーは、`.desktop` ファイルに対応します。`.desktop` ファイルをパネルにドラッグして、ランチャーをパネルに追加できます。

オブジェクトのプロパティの変更

ランチャーや引き出しなどの一部のパネルオブジェクトには、プロパティのセットが関連付けられています。プロパティは、オブジェクトの種類ごとに異なります。プロパティでは、次の詳細を指定します。

- ランチャーアプリケーションを起動するコマンド
- メニューのソースファイルの場所
- オブジェクトを表すアイコン

▼ オブジェクトのプロパティを変更する方法

- 1 オブジェクトを右クリックしてパネルオブジェクトポップアップメニューを開きます。
- 2 プロパティを選択します。
「プロパティ」ダイアログを使用して、プロパティを必要に応じて変更します。ダイアログ内のプロパティは、選択したオブジェクトによって異なります。
- 3 「プロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

パネルオブジェクトの移動

パネルオブジェクトは、パネル内で、またはあるパネルから別のパネルへ移動できます。パネルと引き出しの間でオブジェクトを移動することもできます。

パネルオブジェクトの移動は、パネル上のその他のオブジェクトの位置に影響しません。動作モードを指定して、オブジェクトがパネル上を移動する方法を制御できます。動作モードを指定するには、パネルオブジェクトを移動するときに次のいずれかのキーを押します。

キー	動作モード	説明
キーなし	交換移動	オブジェクトは、ほかのパネルオブジェクトと場所を交換します。交換移動はデフォルトの動作モードです。
Alt	自由移動	オブジェクトは、ほかのパネルオブジェクトを飛び越えて、パネルで次の何も無いところへ移動します。
Shift	プッシュ移動	オブジェクトはほかのパネルオブジェクトをパネルに沿って押し出します。

▼ パネルオブジェクトを移動する方法

- 1 オブジェクトを右クリックし、「移動」を選択します。
- 2 オブジェクトの新しい場所をポイントし、任意のマウスボタンをクリックしてオブジェクトを新しい場所にアンカーします。
この場所は、Oracle Solaris デスクトップ上に現在ある任意のパネルにできます。

注-または、オブジェクトを中央クリックしたまま、オブジェクトを新しい場所へドラッグできます。中ボタンを離すと、オブジェクトは新しい位置にアンカーします。

パネルオブジェクトのロック

オブジェクトがパネル上で同じ位置を維持するようにパネルオブジェクトをロックできます。

注-ほかのパネルオブジェクトを移動しても位置が変わらないようにする必要がある場合は、パネルをロックできます。

オブジェクトをパネルの現在の場所にロックするには、オブジェクトを右クリックし、「ロックする」を選択します。このオプションを選択解除すると、オブジェクトがロック解除されます。

パネルオブジェクトの削除

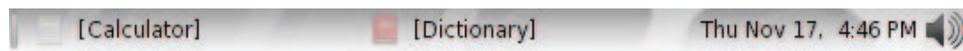
パネルからオブジェクトを削除するには、オブジェクトを右クリックし、「パネルから削除」を選択します。

アプレット

アプレットは、パネル内にユーザーインターフェースがあるアプリケーションです。次の図に、以下のアプレットを示します。

- ウィンドウの一覧 - 現在開いているウィンドウを表示します。
- 時計 - 現在の日付と時間を表示します。
- 音量調節ツール - スピーカーの音量を制御できます。

図4-2 アプレットウィンドウ



ランチャー

ランチャーは、開いたときに特定の処理を実行するオブジェクトです。

ランチャーは、パネル、パネルメニューバー、およびデスクトップ上で見つけることができます。ランチャーは、これらのどの場所でもアイコンで表されます。ランチャーを使用すると、次の処理を実行できます。

- アプリケーションを起動します
- コマンドを実行します
- フォルダを開きます
- Web ブラウザで Web 上の特定のページを開きます
- 特別な URI (Uniform Resource Identifier) を開きます。Oracle Solaris デスクトップでは、ファイルマネージャーから特定の機能にアクセスできる特別な URI を用意しています。

ランチャーのプロパティーを変更できます。たとえば、ランチャーのプロパティーには、ランチャーの名前、ランチャーを表すアイコン、ランチャーを実行する方法などが含まれます。ランチャーの変更の詳細は、[43 ページの「ランチャーの変更」](#)を参照してください。

ランチャーをパネルに追加する

次のいずれかのオプションから、ランチャーをパネルに追加できます。

- ポップアップメニュー
- メニュー
- ファイルマネージャー

▼ ランチャーをパネルポップアップメニューからパネルに追加する方法

- 1 パネルの何も無いところを右クリックし、「パネルへ追加」を選択します。
「パネルへ追加」ダイアログが表示されます。
- 2 新しいランチャーまたは既存のランチャーを追加します
 - 新しいランチャーを追加するには:
 - a. リストからカスタムアプリケーションランチャーを選択します。
「ランチャーの作成」ダイアログが表示されます。
 - b. ランチャーに関する情報を入力し、「OK」をクリックします。

- 既存のランチャーを追加するには:
 - a. リストからアプリケーションランチャーを選択します。
 - b. メニュー項目のリストからランチャーを選択します。

▼ ランチャーをメニューからパネルに追加する方法

- 1 ランチャーを含むメニューを開き、ランチャーをパネルにドラッグします。
- 2 ランチャーのタイトルを右クリックし、「このランチャーをパネルへ追加」を選択します。

注-この方法は、開いているメニューのサブメニューにランチャーがある場合のみ有効です。

▼ ランチャーをファイルマネージャーからパネルに追加する方法

- 1 ファイルマネージャーを参照し、ファイルシステムでランチャーの **.desktop** ファイルを選択します。
- 2 **.desktop** ファイルをパネルにドラッグします。

ランチャーの変更

デスクトップでは、ランチャーのプロパティを変更できます。

▼ ランチャーのプロパティを変更する方法

- 1 ランチャーを右クリックして、パネルオブジェクトポップアップメニューを開きます。
- 2 プロパティを選択します。
「ランチャーのプロパティ」ダイアログを使用して、プロパティを必要に応じて変更します。詳細は、[44 ページの「ランチャーのプロパティ」](#)を参照してください。
- 3 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。

ランチャーのプロパティ

次の表では、ランチャーを作成または編集するときに設定できるプロパティについて説明します。

プロパティ	説明
種類	<p>ドロップダウンリストを使用して、ランチャーがアプリケーションを起動するのか場所を開くのかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アプリケーション-ランチャーはアプリケーションを起動します。 ■ 端末内で起動する-ランチャーは、端末ウィンドウからアプリケーションを起動します。 ■ 場所-ランチャーは、ファイル、Web ページ、またはその他の場所を開きます。 <p>場所ランチャーを編集する場合は、このドロップダウンリストは表示されません。アプリケーションランチャーを編集する場合は、「場所」オプションを使用できません。</p>
名前	ランチャーをメニューまたはデスクトップに追加する場合は、この名前が表示されます。
コマンド	アプリケーションランチャーの場合は、ランチャーをクリックしたときに実行するコマンドを指定します。コマンドの例については、 44 ページ の「ランチャーのコマンドと場所」を参照してください。
場所	場所ランチャーの場合は、開く場所を指定します。「参照」をクリックしてコンピュータ上の場所を選択するか、または Web ページを起動する Web アドレスを入力します。場所の例については、 44 ページ の「ランチャーのコマンドと場所」を参照してください。
コメント	パネルのランチャーアイコンをポイントしたときにツールチップとして表示されます。

ランチャーのコマンドと場所

「ランチャーのプロパティ」ダイアログで「種類」ドロップダウンリストから「アプリケーション」または「端末内で起動する」を選択した場合、「コマンド」テキストボックスに関連する起動コマンドが表示されます。次の表に、コマンドとその処理の例を示します。

アプリケーションコマンドの例	処理
gedit	Gedit テキストエディタアプリケーションを起動します。

アプリケーションコマンドの例	処理
<code>gedit /home/user/loremipsum.txt</code>	Gedit テキストエディタアプリケーションでファイル <code>/home/user/loremipsum.txt</code> を開きます。
<code>nautilus /home/user/Projects</code>	ファイルブラウザウィンドウでフォルダ <code>/home/user/Projects</code> を開きます。

「ランチャーのプロパティ」ダイアログで「種類」ドロップダウンリストから「場所」を選択した場合、「場所」テキストボックスにランチャーの関連する場所が表示されます。次の表に、場所とその処理の例を示します。

場所の例	処理
<code>file:///home/user/loremipsum.txt</code>	ファイル <code>/home/user/loremipsum.txt</code> をこのファイルの種類にデフォルトのビューアで開きます。
<code>file:///home/user/Projects</code>	ファイルブラウザウィンドウでフォルダ <code>/home/user/Projects</code> を開きます。
<code>http://www.oracle.com</code>	デフォルトのブラウザで Oracle の Web サイトを開きます。
<code>ftp://ftp.oracle.com</code>	デフォルトのブラウザで Oracle の FTP サイトを開きます。

ボタン

よく使用する操作および機能に簡単にアクセスできるように、パネルにボタンを追加できます。このセクションでは、パネルに追加できるボタンについて説明します。オブジェクトをパネルに追加する方法については、[39 ページの「オブジェクトをパネルに追加する」](#)を参照してください。

強制終了

「強制終了」ボタンを使用すると、ウィンドウをクリックしてアプリケーションを強制的に終了できます。このボタンは、コマンドに応答しないアプリケーションを終了する場合、またはアプリケーションがクラッシュしたり応答しなかったりする場合に、便利です。

図4-3 「強制終了」ボタン



アプリケーションを終了するには、「強制終了」をクリックし、終了するアプリケーションのウィンドウをクリックします。アプリケーションを終了しない場合は、Escを押します。

画面のロック

「画面のロック」ボタンは、画面をロックし、スクリーンセーバーを有効にします。もう一度セッションにアクセスするには、パスワードを入力する必要があります。

図4-4 「画面のロック」ボタン



「画面のロック」ボタンを右クリックすると、スクリーンセーバー関連コマンドのメニューが表示されます。次の表に、メニューオプションを示します。

表4-5 「画面のロック」のメニュー項目

メニュー項目	機能
スクリーンセーバーを有効にする	スクリーンセーバーを有効にします。このオプションは、「スクリーンセーバー」設定ツールで、スクリーンセーバーが有効になると画面をロックするように設定した場合も画面をロックします。
画面のロック	画面をロックします。
プロパティ	画面をロックするときに表示されるスクリーンセーバーの種類を構成できる「スクリーンセーバー」設定ツールを開きます。

注- 「画面のロック」ボタンをクリックすると、「スクリーンセーバー」設定ツールでスクリーンセーバーが有効な場合のみ画面をロックします。デフォルトでは、スクリーンセーバーは有効です。

ログアウト

「ログアウト」ボタンは、デスクトップセッションからログアウトしたり別のユーザーアカウントに切り替えたりすることができます。

図4-5 「ログアウト」ボタン



実行

「実行」ボタンをクリックすると「アプリケーションの実行」ダイアログが表示され、リストからアプリケーションを選択して起動できます。

図4-6 「実行」ボタン



「アプリケーションの実行」ダイアログの詳細は、[123 ページの「アプリケーションの実行」](#)を参照してください。

ファイルの検索

「ファイルの検索」ボタンをクリックすると、検索ツールが表示され、コンピュータ上のファイルを検索できます。検索ツールの詳細は、[検索ツールのマニュアル](#)を参照してください。

図4-7 「ファイルの検索」ボタン



デスクトップの表示

「デスクトップの表示」ボタンを使用すると、開いているウィンドウをすべて最小化して、デスクトップを表示できます。

図4-8 「デスクトップの表示」ボタン



メニュー

次のメニュータイプをパネルに追加できます。

- メニューバー – 標準のアプリケーション、コマンド、および構成オプションのほとんどすべてにメニューバーからアクセスできます。「アプリケーション」、「場所」、「システム」メニューがあります。
- メインメニュー – メインメニューには、メニューバーと同様の項目がありますが、3つのメニューではなく1つのメニューにまとめられています。
- サブメニュー – メニューバーまたはメインメニューのサブメニューをパネルに追加できます。たとえば、「アプリケーション」メニューの「ゲーム」サブメニューをパネルに追加できます。

▼ メニューバーまたはメインメニューをパネルに追加する方法

- 1 パネルの何も無いところを右クリックし、「パネルへ追加」を選択します。
- 2 「パネルへ追加」ダイアログからメニューバーまたはメインメニューを選択します。

▼ パネルにサブメニューを追加する方法

- 1 次のいずれかでサブメニューを開きます。
 - メインメニューアプレット
 - アプリケーション
 - 場所
 - メニューバーアプレットのシステムメニュー
- 2 サブメニューでランチャー項目を右クリックします。
- 3 「メニューの追加」 → 「メニューとしてパネルへ追加」を選択します。

引き出し

引き出しは、パネルを拡張したものです。引き出しは、パネルの表示および非表示と同じ方法で開いたり閉じたりできます。引き出しには、すべてのパネルオブジェクト(ランチャー、メニュー、アプレット、別の引き出しなど)を含めることができます。引き出しを開くと、パネル上のオブジェクトを使用するときと同じ方法でオブジェクトを使用できます。

引き出しは、引き出しのアイコンをクリックすることで開くことができます。引き出しを閉じるには、アイコンをもう一度クリックするか、引き出しの非表示ボタンをクリックします。

次の図は、2つのパネルオブジェクトを含む、開いた引き出しを示しています。

図 4-9 引き出しパネル



アイコン上の矢印は、引き出しまたはメニューを表していることを示します。

引き出しでオブジェクトを追加、移動、削除するには、パネルでオブジェクトを追加、移動、削除するのと同じ方法で行うことができます。引き出しは、ほかのオブジェクトを追加するのと同じ方法で追加できます。詳細は、[39 ページの「オブジェクトをパネルに追加する」](#)を参照してください。

▼ メニューを引き出しとしてパネルに追加する方法

- 1 次のいずれかでサブメニューを開きます。
 - メインメニューアプレット
 - アプリケーション
 - 場所
 - メニューバーアプレットのシステムメニュー

- 2 サブメニューでランチャー項目を右クリックします。
- 3 「メニューの追加」 → 「引き出しとしてパネルへ追加」を選択します。

▼ 引き出しにオブジェクトを追加する方法

- 1 引き出しの何もないところを右クリックして、引き出しポップアップメニューを開きます。
- 2 「引き出しへ追加」を選択します。
「引き出しへ追加」ダイアログが表示されます。使用可能な引き出しオブジェクトがアルファベット順に一覧表示されます(先頭はランチャー)。

注- 検索ボックスにオブジェクトの名前や説明の一部を入力して、リストを入力した内容に一致するオブジェクトに絞り込むことができます。リスト全体を復元するには、検索ボックスのテキストを削除します。

- 3 オブジェクトをリストから引き出しにドラッグするか、またはオブジェクトをリストから選択して「追加」をクリックし、引き出しで最初に右クリックした場所に追加します。

▼ 引き出しのプロパティーを変更する方法

個々の引き出しのプロパティーを変更できます。たとえば、引き出しの視覚的外観や、非表示ボタンを表示するかどうかを変更できます。

- 1 引き出しを右クリックし、「プロパティー」を選択します。
「引き出しのプロパティー」ダイアログが表示され、「一般」タブが示されます。
- 2 引き出しのプロパティーを選択します。「一般」タブには次の要素があります。
 - サイズ - 引き出しを開いたときの幅を指定します。
 - アイコン - 引き出しを表すアイコンを選択します。「アイコン」ボタンをクリックすると、アイコンの選択ダイアログが表示されます。ダイアログからアイコンを選択し、「OK」をクリックして選択を確定します。
 - 隠すボタンを表示する - 引き出しに非表示ボタンを表示します。いずれかのボタンをクリックして引き出しを閉じます。
 - 隠すボタンに矢印をつける - このオプションを選択すると、非表示ボタンが有効な場合は非表示ボタンに矢印が表示されます。

- 3 「背景」タブを使用して、引き出しの背景を設定できます。
「背景」タブを入力する方法については、36 ページの「パネルのプロパティの設定」を参照してください。色または画像を引き出しにドラッグして、その色または画像を引き出しの背景として設定することもできます。詳細は、37 ページの「「背景」プロパティータブについて」を参照してください。
- 4 「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じます。

パネルオブジェクト

このセクションでは、Oracle Solaris デスクトップに現れるパネルオブジェクトについて扱います。

メニューバー

メニューバーには、「アプリケーション」、「場所」、「システム」メニューがあります。標準のアプリケーション、コマンド、および構成オプションのほとんどすべてにメニューバーからアクセスできます。メニューバーの使用の詳細は、第6章「メインメニューバーの使用」を参照してください。

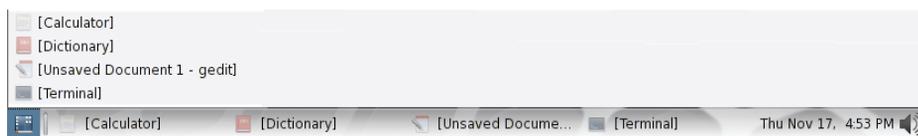
図 4-10 メインメニューバー



ウィンドウの選択アプレット

現在開いているすべてのウィンドウのリストを表示できます。フォーカスを与えるウィンドウを選択することもできます。ウィンドウリストを表示するには、ウィンドウの選択アプレットをクリックします。次の図に、ウィンドウの選択アプレットの例を示します。

図 4-11 ウィンドウの選択アプレット



ウィンドウにフォーカスを与えるには、ウィンドウの選択アプレットからウィンドウを選択します。ウィンドウの選択に、すべてのワークスペース内のウィンドウが一覧表示されます。現在のワークスペース以外のすべてのワークスペース内のウィンドウが、区切り線の下に一覧表示されます。

通知領域アプレット

通知領域アプレットは、さまざまなアプリケーションからアプリケーションのアクティビティを示すアイコンを表示します。たとえば、CD プレイヤアプリケーションを使用して CD を再生するときは、CD のアイコンが通知領域アプレットに表示されます。

ウィンドウの一覧

ウィンドウの一覧アプレットでは、Oracle Solaris デスクトップで開いているウィンドウを管理できます。ウィンドウの一覧は、開いている各ウィンドウまたはウィンドウのグループを表すためにボタンを使用します。アプレットでのボタンの状態は、ボタンが表すウィンドウの状態によって異なります。次の表では、ウィンドウの一覧のボタンが表す可能性のある状態について説明します。

表 4-6 ウィンドウの一覧ボタンの状態

状態	結果
ボタンが押されています。	ウィンドウにフォーカスがあります。
ボタンが薄く表示されています。ボタンのテキストは、角括弧で囲まれています。	ウィンドウは最小化されています。
ボタンは押されていったり薄く表示されたりしていません。	ウィンドウはデスクトップに表示されていて、最小化されていません。
ボタンタイトルの末尾に、丸括弧で囲まれた番号があります。	ボタンは、ボタンのグループを表します。

使用法

ウィンドウの一覧を使用して、次のタスクを実行できます。

- デスクトップ上でこれまでフォーカスがなかったウィンドウにフォーカスを与えます。
- フォーカスのあるウィンドウを最小化します。
- 最小化されたウィンドウを復元します。

ボタンの順序は、ボタンをウィンドウの一覧の別の場所にドラッグすることで変更できます。

設定

ウィンドウの一覧を構成するには、ウィンドウボタンの左にあるハンドルを右クリックし、「設定」を選択します。次の設定を変更できます。

- ウィンドウ一覧の内容 - ウィンドウの一覧に表示するウィンドウを指定するには、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 現在のワークスペースにあるウィンドウを表示する - 現在のワークスペースで開いているウィンドウのみを表示します。
 - 全てのワークスペースのウィンドウを表示する - すべてのワークスペースで開いているウィンドウを表示します。
- ウィンドウのグループ化 - 同じアプリケーションに属するウィンドウをウィンドウの一覧でいつグループ化するべきかを指定するには、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ウィンドウをグループ化しない - 同じアプリケーションのウィンドウを1つのボタンの下でグループ化しません。
 - 狭い時にグループ化する - パネルの領域が限られているときに、同じアプリケーションのウィンドウを1つのボタンの下でグループ化します。
 - 常にウィンドウをグループ化する - 同じアプリケーションのウィンドウを1つのボタンの下で常にグループ化します。
- 最小化したウィンドウを復元する - ウィンドウを復元するときにウィンドウリストがどのように動作するかを定義するには、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 現在のワークスペースに復元する - アプレットのウィンドウを現在のワークスペースに復元します (以前にウィンドウが現在のワークスペースになかった場合でも)。
 - 元のワークスペースに復元する - ウィンドウがもともとあったワークスペースにフォーカスを切り替えます。

これらのオプションは、ダイアログの「ウィンドウ一覧の内容」セクションで「全てのワークスペースのウィンドウを表示する」が選択されている場合のみ使用可能です。

Command Assistant アプレット

Command Assistant アプレットは、指定された検索クエリに基づいて、マニュアルページや管理ガイドなどの Oracle Solaris ドキュメントにすばやくアクセスできます。

Command Assistant アプレットは、デフォルトではインストールされていません。Command Assistant アプレットは、`packagemanager(1)` を使用するか、`root` ユーザーとして次のコマンドを入力することでインストールできます。

```
# pkg install cmdassist
```

Command Assistant アプレットをインストールしたら、アプレットを手動でパネルに追加する必要があります。ランチャーをパネルに追加する方法の詳細は、[42 ページ](#)の「ランチャーをパネルポップアップメニューからパネルに追加する方法」を参照してください。

Command Assistant アプレットには、ドキュメントへの参照のリストが表示され、必要な参照をクリックすることでブラウザで開くことができます。検索語句は、ドキュメントで見つけることができるコマンド行サンプルと照合されるため、簡単にコマンドのリファレンスを見つけることができます。たとえば、`useradd`、`zpool create`、その他多くのコマンドにアクセスできます。

次の例では、ドキュメント内で見られるコマンドのうち、`zpool create` コマンドで使用できるものを示しています。

図 4-12 Command Assistant の検索の例



デスクトップアプリケーションの使用

この章では、Oracle Solaris デスクトップアプリケーションを使用する方法について説明します。アプリケーションは、同様の見た目と使い心地を備え、同じショートカットキーを使用し、ドラッグ&ドロップオプションも用意しています。アプリケーションは、GNOME 2.30 開発プラットフォームを使用して開発されます。このプラットフォームを使用して開発されるアプリケーションは、GNOME 準拠アプリケーションとも呼ばれます。たとえば、ファイルマネージャーおよび gedit テキストエディタは GNOME 準拠アプリケーションです。

この章の内容は次のとおりです。

- 55 ページの「アプリケーションの概要」
- 56 ページの「ファイルの操作」
- 57 ページの「ファイルを開く」
- 59 ページの「ファイルの保存」

アプリケーションの概要

アプリケーションとは、特定のタスクを実行できるようにするコンピュータプログラムの一種です。アプリケーションを使用すると、次のいずれかのタスクを実行できます。

- 手紙や報告書などのテキストドキュメントを作成します
- スプレッドシートを操作します
- 音楽を聴きます
- インターネットをブラウズします
- 画像やビデオを作成、編集、または表示します

これらの各タスクを実行するには、別々のアプリケーションを使用します。

アプリケーションを起動するには、「アプリケーション」メニューを開き、サブメニューから起動するアプリケーションを選択します。アプリケーションの起動の詳細は、62 ページの「「アプリケーション」メニューについて」を参照してください。

次の表では、Oracle Solaris デスクトップに存在するアプリケーションについて説明します。

表 5-1 デスクトップアプリケーション

アプリケーション	説明
gedit テキストエディタ	書式設定のない単純なテキストを表示、作成、または変更します。
辞書	語句の定義を検索できます。
画像ビューア	単体の画像ファイルおよび画像コレクションを表示します。
文字マップ	Unicode 文字セットから文字や記号を選択して、任意のアプリケーションに貼り付けることができます。
Nautilus ファイルマネージャー	フォルダとその内容を表示します。このアプリケーションを使用してファイルをコピー、移動、および分類できます。また、CD、USB フラッシュドライブ、その他のリムーバブルメディアにアクセスすることもできます。
端末	システムコマンド行にアクセスできます。

さらに標準的なデスクトップアプリケーションには、ゲーム、音楽およびビデオのプレイヤー、Web ブラウザ、ソフトウェアアクセシビリティツール、システム管理ツールなどがあります。

ファイルの操作

アプリケーションで実行する作業は、ファイルに格納されます。このようなファイルは、コンピュータのハードドライブ上や、USB フラッシュドライブのようなりムーバブルデバイス上にあります。ファイルは、開いて確認したり、保存して作業を格納したりできます。このセクションでは、「ファイル」ダイアログで実行できる処理について説明します。

すべてのデスクトップアプリケーションは、ファイルを開いたり保存したりするために同様のダイアログを使用し、一貫したインタフェースを提供しています。

ファイルを開く

「ファイルを開く」ダイアログでは、アプリケーションで開くファイルを選択できます。ダイアログの右側ペインには、現在の場所にあるファイルおよびフォルダが一覧表示されます。このセクションでは、「ファイル」ダイアログで実行できる処理について説明します。

マウスまたはキーボードの矢印キーを使用してファイルを選択できます。ファイルを選択したら、次のいずれかの操作を実行してファイルを開きます。

- 「開く」をクリックします
- Return を押します
- スペースバーを押します
- ファイルをダブルクリックします

ある場所でファイルではなくフォルダを開くと、「ファイルを開く」ダイアログの表示が更新されて、そのフォルダまたはその場所の内容が表示されます。

右側ペインに表示される場所を変更するには、次のいずれかの操作を行います。

- 現在の場所に表示されているフォルダを開きます。
- 左側ペインの項目を開きます。このペインには、場所(「ドキュメント」フォルダ、「ホーム」フォルダなど)、メディア(CDやフラッシュドライブ)、ネットワーク上の場所、およびブックマークが一覧表示されます。
- ファイルリストペインの上のパスバーでいずれかのボタンをクリックします。ファイルリストには、現在の場所を含むフォルダの階層が表示されます。フォルダのリストが長い場合は、ボタンバーの両側にある矢印ボタンを使用します。

「ファイルを開く」ダイアログの下の部分には、現在のアプリケーションに固有の詳細オプションが含まれることがあります。

ファイルリストのフィルタリング

特定のファイルタイプのみを表示するようにファイルリストを制限できます。これを行うには、ファイルリストペインの下にあるドロップダウンリストからファイルタイプを選択します。ファイルタイプのリストは、現在使用しているアプリケーションによって異なります。たとえば、グラフィックスアプリケーションではさまざまな画像ファイル形式を一覧表示し、テキストエディタではさまざまテキストファイルの種類を一覧表示します。

ヒント-開くファイルの名前を入力してください。ファイルリストには、入力した文字で始まる名前のファイルが表示されます。入力した文字は、ファイルリストの下にあるポップアップウィンドウに表示されます。入力中の検索をキャンセルするには、Escを押します。

フォルダの選択

ファイルを開くのではなく、操作するフォルダの選択が必要になることがあります。たとえば、書庫マネージャーを使用してファイルをアーカイブから抽出する場合は、ファイルを配置するフォルダを選択する必要があります。この場合、現在の場所のファイルはグレーになり、フォルダが選択されているときに「開く」をクリックするとそのフォルダが選択されます。

場所を開く

開くファイルのフルパスまたは相対パスを入力できます。Ctrl+Lを押すか、またはウィンドウ左上のボタンをクリックして「場所」フィールドを表示(または非表示)します。または、/で始まるフルパスの入力を始めると、「場所」フィールドが表示されます。

現在の場所からのパス、または/または~/で始まる絶対パスを入力します。「場所」フィールドには、完全ファイル名の入力を簡単にする次の機能があります。

- 入力を開始すると、可能性のあるファイルおよびフォルダの名前のドロップダウンリストが表示されます。上下矢印とReturnを使用して、リストから選択します。
- 入力した名前的一部分によってファイルまたはフォルダが特定される場合、名前が自動補完されます。候補のテキストを受け入れるときは、Tabを押します。たとえば、「Do」と入力し、フォルダ内で「Do」で始まるオブジェクトが「Documents」のみの場合、名前全体がフィールドに表示されます。

リモートの場所を開く

リモートの場所のファイルを開くには、左ペインから場所を選択するか、または「場所」フィールドにリモートの場所へのパスを入力します。

リモートの場所へのアクセスにパスワードが要求される場合は、ファイルまたは場所を開くときにパスワードが求められます。

ブックマークの追加および削除

現在の場所をブックマークの一覧に追加するには、ファイルリストでフォルダを右クリックし、「ブックマークへ追加」を選択します。現在の場所に一覧表示されているフォルダを追加するには、ブックマークの一覧にドラッグします。

リストからブックマークを削除するには、ブックマークを選択し、「削除」をクリックします。

注-ブックマークの一覧に加えた変更は、「場所」メニューにも影響します。ブックマークの詳細は、[104 ページの「ブックマークの使用」](#)を参照してください。

隠しファイルの表示

リストに隠しファイルを表示するには、ファイルリストを右クリックし、「隠しファイルを表示する」を選択します。隠しファイルの詳細は、[106 ページの「ファイルまたはフォルダを非表示にする」](#)を参照してください。

ファイルの保存

アプリケーションではじめて作業を保存するときは、「別名で保存」ダイアログでファイルの場所と名前が求められます。それ以降にファイルを保存するときは、更新されますが、ファイルの場所や名前の再入力はありません。既存のファイルを新規ファイルとして保存するには、「ファイル」→「別名で保存」を選択します。

ファイル名を入力し、保存する場所はブックマークおよびよく使用する場所のドロップダウンリストから選択できます。

別の場所にファイルを保存する

ドロップダウンリストに一覧表示されていない場所にファイルを保存するには、「参照」をクリックします。「ファイルの保存」ダイアログが表示されます。

注-展開された「ファイルの保存」ダイアログには、フィルタリング、入力中の検索、ブックマークの追加/削除など、「ファイルを開く」ダイアログと同じ機能があります。

既存ファイルの置換

既存ファイルの名前を入力すると、既存のファイルを現在の作業で置き換えるかどうかの確認を求められます。ブラウザで上書きするファイルを選択することで、ファイルを置換することもできます。

フォルダの作成

ファイルを保存するフォルダを作成するには、「フォルダの作成」ボタンをクリックします。新規フォルダの名前を入力し、Return を押します。これで、その新規フォルダにファイルを保存することを選択できます。

メインメニューバーの使用

この章では、デスクトップパネルのメニューバーを使用する方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 61 ページの「メインメニューバーについて」
- 62 ページの「「アプリケーション」メニューについて」
- 62 ページの「「場所」メニューの使用」
- 63 ページの「「システム」メニューの使用」
- 63 ページの「「管理」メニューの使用」
- 64 ページの「パネルメニューバーのカスタマイズ」

メインメニューバーについて

パネルメニューバーは、デスクトップへの主なアクセスポイントです。メニューバーには次のメニューがあります。

- アプリケーション - 必要なアプリケーションを起動します。
- 場所 - コンピュータまたはネットワーク上の場所を開きます。
- システム - システムをカスタマイズしたり、デスクトップからログアウトしたり、システムをシャットダウンしたりします。

注- デフォルトで、パネルメニューバーは上側エッジパネルにあります。ただし、その他のパネルオブジェクトと同様に、メニューバーを別のパネルに移動したり、パネルでメニューバーのインスタンスを複数使用したりできます。メニューの詳細は、[48 ページの「メニュー」](#)を参照してください。

「アプリケーション」メニューについて

「アプリケーション」メニューには、サブメニューの階層が含まれていて、システムにインストールされているアプリケーションを起動できます。

各サブメニューはカテゴリに対応します。たとえば、「サウンドとビデオ」サブメニューには、CD再生やサウンド録音のためのアプリケーションがあります。

新規アプリケーションをインストールすると、適切なカテゴリで「アプリケーション」メニューに自動的に追加されます。たとえば、インスタントメッセージアプリケーション、VoIPアプリケーション、またはFTPクライアントをインストールすると、「インターネット」サブメニューに配置されます。

▼ アプリケーションを起動する方法

- 1 「アプリケーション」メニューを開きます。
- 2 目的のアプリケーションカテゴリを選択します。
マウスをカテゴリに合わせると、サブメニューが開きます。
- 3 開くアプリケーションのメニュー項目をクリックします。

「場所」メニューの使用

「場所」メニューは、コンピュータおよびローカルネットワーク上のさまざまな場所に移動する簡単な方法です。「場所」メニューを使用して次の項目を開きます。

- ホームフォルダ。
- デスクトップフォルダ(デスクトップに表示される項目に対応しています)。
- ファイルマネージャーのブックマークの項目。ブックマークの使用の詳細については、[104 ページの「ブックマークの使用」](#)を参照してください。
- システムのローカルドライブ。
- CD/DVD クリエータ。
- ローカルネットワーク。ネットワークの場所へのアクセスの詳細については、[113 ページの「ネットワーク上の場所へのアクセス」](#)を参照してください。

「場所」メニューの次の項目は、場所を開くのではなく、処理を実行します。

- サーバへ接続 - ネットワーク上のサーバーを選択できます。リモートネットワークへのアクセスの詳細については、[113 ページの「リモートサーバーへのアクセス」](#)を参照してください。

- ファイルの検索 - コンピュータ上のファイルを検索できます。ファイルの検索の詳細については、[検索ツールのマニュアル](#)を参照してください。
- 最近開いたドキュメント - 最近開いたドキュメントを一覧表示します。このサブメニューの最後のエントリは、リストを消去します。

「システム」メニューの使用

「システム」メニューでは、Oracle Solaris デスクトップの設定を行ったり、デスクトップの使用のヘルプを表示したり、システムをログアウトまたは終了したりできます。

「システム」メニューを使用して、次の操作を実行します。

- 設定ツールを使用してコンピュータを構成します。これらの設定の使用の詳細は、[第10章「デスクトップの構成」](#)を参照してください。
- ヘルプブラウザを起動します。
- 画面をロックしてスクリーンセーバーを起動します。詳細は、[18 ページの「画面のロック」](#)を参照してください。
- ログアウトまたはユーザーを切り替えます。
- デスクトップセッションを終了して、コンピュータをオフにするか再起動します。ログアウトおよび終了の詳細は、[20 ページの「セッションの終了」](#)を参照してください。

「管理」メニューの使用

「管理」メニューでは、Oracle Solaris デスクトップを管理できるほか、ネットワークデバイスの構成、プリンタの管理、SMF サービスの保守といったタスクを実行したり、自動 ZFS スナップショットを作成するようにシステムを構成したりできます。メニューを通じてアクセスする個々の管理ユーティリティの詳細は、関連するダイアログの「ヘルプ」をクリックしてください。

「管理」メニューには、次の項目があります。

- コアファイル - Oracle Solaris デスクトップによって生成されるコアファイルの名前、場所、内容を構成します。
- ネットワーク - ネットワークインタフェースのプロパティ、接続プロファイル、場所、ネットワーク修飾子を表示および構成します。
- パッケージマネージャー - Oracle Solaris Image Packaging System を使用して、ソフトウェアパッケージの検索、追加、更新、および削除を行います。パッケージ発行元とブート環境の表示および編集も可能です。
- 印刷マネージャー - CUPS (Common UNIX Printing System) を使用してローカルおよびネットワークプリンタを追加、削除、および構成します。

- SMF サービス - ローカルシステムのサービス管理機能 (SMF) サービスの監視、構成、有効化、および無効化を行います。
- システムファイアウォール - システム全体またはサービス固有のファイアウォールポリシー設定を構成します。
- タイムスライダ - 指定された ZFS ファイルシステムの定期スナップショットを有効または無効にします。有効になっている場合、ユーザーはファイルマネージャーを使用して履歴スナップショットの内容を視覚化して参照できます。
- 時間/日付 - システムクロックを設定するか、タイムサーバーから自動的に構成します。
- 更新マネージャー - 使用可能なパッケージ更新を確認してインストールします。

パネルメニューバーのカスタマイズ

次のメニューの内容をカスタマイズできます。

- 「アプリケーション」メニュー
- 「システム」 → 「設定」サブメニュー
- 「システム」 → 「管理」サブメニュー

これらのメニューをデスクトップで実装する方法、および管理者がカスタマイズする方法の詳細は、『[Oracle Solaris 11.1 デスクトップ管理者ガイド](#)』を参照してください。

▼ メニューを編集する方法

- 1 パネルメニューバーを右クリックし、「メニューの編集」を選択します。
メニューレイアウトのダイアログボックスが表示されます。左ペインにメニューが一覧表示されます。
- 2 エクスパンダ矢印をクリックすると、サブメニューの表示と非表示が切り替わります。
- 3 左ペインからメニューを選択すると、右ペインにその内容が表示されます。
- 4 メニューから項目を削除するには、選択解除します。項目をメニューに復元するには、選択します。

タイムスライダの使用

タイムスライダは、自動的にスケジュールされたホームディレクトリの増分スナップショットから、Oracle Solaris デスクトップユーザーが個々のファイルまたはディレクトリを復元するためのグラフィカルな方法を提供します。タイムスライダを有効にして設定すると、各 ZFS ファイルシステムのスナップショットが15分ごと(デフォルト)に作成されます。これらのスナップショットは、過去24時間の分は1時間ごとに1つのみ、過去7日間の分は1日ごとに1つ、そしてタイムスライダサービスが実行していた過去1週間ごとに1つのスナップショットが保管されるように、時間の経過とともに削除されます。

スナップショットは、ファイルシステムまたはボリュームの読み取り専用コピーです。スナップショットはほとんど瞬間的に作成することができ、最初はプール内で追加のディスク領域を消費しません。しかし、アクティブなデータセット内のデータが変化していくにつれて、スナップショットは古いデータを引き続き参照し、ディスク容量を解放しないため、ディスク領域を消費します。

タイムスライダスナップショットサービスは、デスクトップシステム以外であっても、ブート環境を含むあらゆる ZFS ファイルシステムの定期的なスナップショットを自動化できます。ただし、`desktop/time-slider` パッケージを使用するには、Oracle Solaris デスクトップがそのマシンで使用されない場合であっても、`desktop-incorporation` パッケージがインストールされている必要があります。

タイムスライダの詳細は、『Oracle Solaris 11.1 の管理: ZFS ファイルシステム』の第6章「Oracle Solaris ZFS のスナップショットとクローンの操作」を参照してください。

「タイムスライダ」設定ペイン

「タイムスライダ」設定ペインでは、タイムスライダを有効または無効にしたり、次の機能にアクセスしたりできます。

- 外部ストレージデバイスへのバックアップ
- ファイルシステムのバックアップ
- スナップショットに使用可能なストレージスペースの変更
- 既存スナップショットの削除

タイムスライダサービスの有効化と無効化

デフォルトでは、タイムスライダは無効です。以降のセクションで説明する手順を使用して有効にできます。タイムスライダは、有効なときに次の SMF サービスを使用します。

- `svc:/system/filesystem/zfs/auto-snapshot:frequent`: 15分ごとにスナップショットを1つ作成します
- `svc:/system/filesystem/zfs/auto-snapshot:hourly`: 1時間ごとにスナップショットを1つ作成します
- `svc:/system/filesystem/zfs/auto-snapshot:daily`: 毎日スナップショットを1つ作成します
- `svc:/system/filesystem/zfs/auto-snapshot:weekly`: 毎週スナップショットを1つ作成します
- `svc:/system/filesystem/zfs/auto-snapshot:monthly`: 毎週スナップショットを1つ作成します
- `svc:/application/time-slider:default`: スナップショットの自動削除を管理します
- `svc:/application/time-slider/plugin:rsync`: 各スナップショットを指定された外部ストレージデバイスに自動で複製します

▼ タイムスライダを有効にする方法

- 1 「システム」 → 「管理」 → 「タイムスライダ」を選択して、「タイムスライダ」設定ペインを開きます。
- 2 「タイムスライダを有効にする」オプションを選択します。
- 3 「了解」をクリックします。

タイムスライダは、使用可能なすべての ZFS ファイルシステムで有効です。1つ以上の ZFS ファイルシステムを除外するには、[69 ページの「スナップショットする特定の ZFS ファイルシステムを選択する方法」](#)を参照してください。

▼ タイムスライダを無効にする方法

- 1 「システム」 → 「管理」 → 「タイムスライダ」を選択して、「タイムスライダ」設定ペインを開きます。
- 2 「タイムスライダを有効にする」オプションを選択解除します。
- 3 「了解」をクリックします。
タイムスライダは、使用可能なすべてのZFSファイルシステムで無効です。

タイムスライダのスナップショットの操作

タイムスライダは、接続されているすべてのZFSファイルシステムのスナップショットを一定間隔で作成します。これらのスナップショットは、15分ごと、1時間ごと、毎日、毎週作成されます。

「タイムスライダ」設定ペインまたはファイルマネージャーを使用してスナップショットを作成できます。以降のセクションでは、これらの方法を使用して実行できるさまざまな手順について説明します。

タイムスライダを使用したスナップショットの管理

タイムスライダが有効な場合、自動スナップショットは次のように削除されます。

- frequent スナップショットは、1時間後に削除されます
- hourly スナップショットは、1日後に削除されます
- daily スナップショットは、1週後に削除されます
- weekly スナップショットは、1か月後に削除されます
- ファイルシステムの使用率が80%を超えると、ファイルシステム上のもっとも古いスナップショットが1つ以上削除されます

スナップショットは、必要に応じて手動で削除することもできます。詳細は、68ページの「タイムスライダから既存のスナップショットを削除する方法」を参照してください。

もっとも古いスナップショットを自動的に削除するための、空きディスク容量しきい値を変更できます。詳細は、68ページの「スナップショットに使用可能なストレージスペースを変更する方法」を参照してください。

すべての ZFS ファイルシステムでスナップショットを作成して格納する必要がない場合は、どのファイルシステムを含めるかまたは除外するかを選択できます。詳細は、69 ページの「スナップショットする特定の ZFS ファイルシステムを選択する方法」を参照してください。

保護を高めるため、各タイムスライダスナップショットを外部ストレージデバイスに自動でコピーできます。詳細は、69 ページの「スナップショットを外部ストレージデバイスに複製する方法」を参照してください。

▼ タイムスライダから既存のスナップショットを削除する方法

- 1 「システム」 → 「管理」 → 「タイムスライダ」を選択して、「タイムスライダ」設定ペインを開きます。
- 2 「スナップショットの削除」ボタンをクリックして「スナップショットの削除」ウィンドウを開きます。
- 3 スナップショットのリストで、削除するスナップショットを選択します。
リストは、ファイルシステムおよび SMF サービス (frequent、hourly、daily、weekly、またはmonthly) ごとにフィルタリングできます。
- 4 「削除」ボタンをクリックします。
- 5 「閉じる」ボタンをクリックします。

注-タイムスライダによって作成されていないスナップショットも「スナップショットの削除」ウィンドウに一覧表示され、同様の方法を使用して削除できます。

▼ スナップショットに使用可能なストレージスペースを変更する方法

デフォルトで、タイムスライダは ZFS ファイルシステム使用率が 80% になるまで、そのファイルシステムで新しいスナップショットを作成します。その値に達すると、タイムスライダはもっとも古い自動スナップショットを 1 つ以上必要に応じて自動的に削除し、ファイルシステムの使用率を 80% 以下に戻します。

このしきい値は、70% と 90% の間で任意の値を設定できます。この値は、すべての ZFS ファイルシステムに適用されます。しきい値を変更するには、この手順を使用します。

- 1 「システム」 → 「管理」 → 「タイムスライダ」を選択して、「タイムスライダ」設定ペインを開きます。

- 2 「詳細オプション」 拡張ボタンをクリックします。
- 3 「ストレージスペースの使用量が超過したらバックアップを削減する」 テキストボックスで、70-90の間の値を入力するか、またはスピンボタンを使用して既存値を増減します。
- 4 「OK」 をクリックしてウィンドウを閉じます。

▼ スナップショットする特定のZFS ファイルシステムを選択する方法

デフォルトで、タイムスライダはすべてのZFS ファイルシステムのスナップショットを作成します。この手順を使用して、タイムスライダサービスがスナップショットする特定のファイルシステムセットを指定します。

- 1 「システム」 → 「管理」 → 「タイムスライダ」 を選択して、「タイムスライダ」 設定ペインを開きます。
- 2 「詳細オプション」 拡張ボタンをクリックします。
- 3 「カスタム」 ラジオボタンをクリックします。
- 4 ZFS ファイルシステムのリストで、スナップショットするファイルシステムの横にあるオプションを選択し、スナップショットしないほかのファイルシステムのオプションは選択解除します。
- 5 「OK」 をクリックしてウィンドウを閉じます。

▼ スナップショットを外部ストレージデバイスに複製する方法

データ保護を高めるため、タイムスライダは作成した各スナップショットを外部ストレージデバイスに複製できます。この機能を有効にするには、この手順を使用します。

- 1 「システム」 → 「管理」 → 「タイムスライダ」 を選択して、「タイムスライダ」 設定ペインを開きます。
- 2 「詳細オプション」 拡張ボタンをクリックします。
- 3 「バックアップを外部ドライブにレプリケート」 オプションを選択します。
- 4 ファイルの選択ボタンを使用して、外部デバイス上のディレクトリを選択します。
- 5 「OK」 をクリックしてウィンドウを閉じます。

注- この機能を使用するために外部デバイスが ZFS ファイルシステムでフォーマットされている必要はありません。

ファイルマネージャーからスナップショットを管理する

タイムスライダサービスは、ファイルの自動スナップショットを 15 分ごとに作成します。システム管理者がタイムスライダを有効にしている場合は、ファイルマネージャーアプリケーションを使用して、古いバージョンのファイルを参照して復旧できます。

▼ ファイルマネージャーで使用可能なスナップショットを表示する方法

この手順を使用して、特定フォルダに使用可能なスナップショットのリストを表示します。

- 1 「ファイル・マネージャ」ウィンドウを開き、フォルダに移動します。
- 2 次のいずれかの方法を使用して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
 - 「ファイル・マネージャ」ウィンドウで、「表示」→「復元」を選択し、「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックします。
 - **Ctrl+E** を押して、「タイムスライダ」ペインを開きます。

「タイムスライダ」ペインには、フォルダで使用可能なスナップショットが時間順に並んだバーとして表示されます。次の図に示すように、もっとも古いスナップショットは左に表示され、現在の状態は「今」というラベルで右に表示されます。



「タイムスライダ」ペインの各スナップショットについて:

- バーの高さは、スナップショットのデータ量を示します。バーが高くなるほど、前のスナップショットからのファイルシステムの変更数が大きくなります。
- バーの外観は、スナップショットの種類を示します。
 - 塗りつぶしなし: ローカルスナップショットのみ、外部バックアップなし

- 塗りつぶし: ローカルスナップショットと外部バックアップ
- 丸い頭部: 自動タイムスライダスナップショット
- 四角い頭部: 手動スナップショット

複数のスナップショットが表示されている場合は、「タイムスライダ」ペインのドロップダウンリストを使用して、タイムラインをフィルタリングできます。次のオプションを指定できます。

- すべて: 既存のスナップショットをすべて表示します。
- 今日: 今日作成されたスナップショットのみを表示します。
- 昨日: 前日に作成されたスナップショットのみを表示します。
- 今週: 今週の日曜日以降に作成されたスナップショットを表示します。
- 先週: 前の日曜日から土曜日までの間に作成されたスナップショットを表示します。
- 今月: 今月の1日以降に作成されたスナップショットを表示します。
- 先月: 前月の1日から31日までの間に作成されたスナップショットを表示します。
- 今年: 今年の1月1日以降に作成されたスナップショットを表示します。
- 去年: 去年の1月1日から12月31日までの間に作成されたスナップショットを表示します。

「タイムスライダ」ペインをもう一度非表示にするには、ペインの右上にある「閉じる」ボタンをクリックします。または、「表示」→「復元」を選択して「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックするか、またはペインが表示されているときにCtrl+Eを押します。

▼ 前のバージョンのファイルまたはフォルダを表示する方法

- 1 「ファイル・マネージャ」ウィンドウを開き、ファイルを含むフォルダに移動します。
- 2 次のいずれかの方法を使用して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
 - 「ファイル・マネージャ」ウィンドウで、「表示」→「復元」を選択し、「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックします。
 - **Ctrl+E**を押して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
- 3 「タイムスライダ」ペインで、表示するスナップショットを表すバーをクリックします。

「ファイル・マネージャ」ウィンドウの内容が更新されて、スナップショットが作成されたときに存在していたファイルが表示されます。

- 4 ファイルをダブルクリックして、スナップショットが作成されたときのファイルの内容を表示します。

▼ ファイルまたはフォルダのバージョンを比較する方法

- 1 「ファイル・マネージャ」ウィンドウを開き、ファイルを含むフォルダに移動します。
- 2 次のいずれかの方法を使用して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
 - 「ファイル・マネージャ」ウィンドウで、「表示」→「復元」を選択し、「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックします。
 - **Ctrl+E**を押して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
- 3 「タイムスライダ」ペインで、表示するスナップショットを表すバーをクリックします。

「ファイル・マネージャ」ウィンドウの内容が更新されて、スナップショットが作成されたときに存在していたファイルが表示されます。
- 4 ファイルを右クリックし、バージョンエクスプローラウィンドウを開くためにメニューから「バージョンの調査」を選択します。

比較できる別のバージョンがない場合は、「バージョンの調査」ではなく「バージョンはありません」がメニューに表示されます。

「タイムスライダファイルバージョンエクスプローラ」ウィンドウが表示されません。
- 5 バージョンエクスプローラウィンドウで、古いバージョンのファイルを選択し、「比較」をクリックします。

注-ファイルのバージョンを比較するには、`developer/meld`パッケージをインストールする必要があります。このパッケージをインストールするには、パッケージマネージャアプリケーションを使用するか、または端末で「`sudo pkg install developer/meld`」と入力します。

▼ 以前のバージョンのファイルを復元する方法

以前のバージョンのファイルを編集する必要がある場合は、まず作業環境に復元する必要があります。この手順を使用して、以前のバージョンのファイルを復元します。

- 1 「ファイル・マネージャ」ウィンドウを開き、ファイルを含むフォルダに移動します。

- 2 次のいずれかの方法を使用して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
 - 「ファイル・マネージャ」ウィンドウで、「表示」 → 「復元」を選択し、「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックします。
 - **Ctrl+E**を押して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
- 3 「タイムスライダ」ペインで、表示するスナップショットを表すバーをクリックします。

「ファイル・マネージャ」ウィンドウの内容が更新されて、スナップショットが作成されたときに存在していたファイルが表示されます。
- 4 次の方法を使用して、復元するバージョンのファイルをコピーします。
 - 復元するファイルを右クリックし、「デスクトップに復元します」を選択してそのバージョンのファイルをデスクトップにコピーします。
 - ファイルを別の「ファイル・マネージャ」ウィンドウにドラッグして、ファイルを別の場所にコピーします。

▼ 手動スナップショットを作成する方法

タイムスライダがスナップショットを自動で作成するまで待つのではなく、ファイルのスナップショットを手動で作成する必要がある場合があります。

- 1 「ファイル・マネージャ」ウィンドウを開き、ファイルを含むフォルダに移動します。
- 2 次のいずれかの方法を使用して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
 - 「ファイル・マネージャ」ウィンドウで、「表示」 → 「復元」を選択し、「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックします。
 - **Ctrl+E**を押して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
- 3 (省略可能)「今」というラベルの付いたスナップショットが選択されていない場合は、選択します。
- 4 「タイムスライダ」ペインの右下隅にある「スナップショットの作成」ボタンをクリックします。

- 5 プロンプトが表示されたら、スナップショットの名前を入力し、「OK」をクリックして確定します。
ファイルマネージャーの手動スナップショットが「タイムスライダ」パネルに表示されます

▼ ファイルマネージャーからスナップショットを削除する方法

特定のスナップショットが必要なくなったことが確かである場合は、手動スナップショットであるのか自動タイムスライダスナップショットであるのかに関係なく、次の手順を使用して削除できます。

- 1 「ファイル・マネージャ」ウィンドウを開き、ファイルを含むフォルダに移動します。
- 2 次のいずれかの方法を使用して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
 - 「ファイル・マネージャ」ウィンドウで、「表示」→「復元」を選択し、「タイムスライダ」ツールバーボタンをクリックします。
 - **Ctrl+E**を押して、「タイムスライダ」ペインを開きます。
- 3 削除するスナップショットを選択します。
- 4 「タイムスライダ」ペインの右下隅にある「スナップショットの削除」ボタンをクリックします。
この手順は永続的であり、取り消すことはできないため、この手順を実行するには、rootユーザーとしてログインしてrootパスワードを指定する必要があります。

ファイルマネージャーの使用

この章ではファイルマネージャーの使用方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 75 ページの「ファイルマネージャーの概要」
- 76 ページの「空間モード」
- 80 ページの「ブラウザモード」
- 87 ページの「ファイルを開く」
- 89 ページの「ファイルの検索」
- 89 ページの「ファイルやフォルダの管理」
- 106 ページの「項目プロパティの使用」
- 107 ページの「ファイルやフォルダの外観の変更」
- 111 ページの「リムーバブルメディアの使用」
- 113 ページの「リモートサーバーのナビゲーション」
- 114 ページの「ファイルマネージャーの設定」
- 121 ページの「ファイルマネージャーの拡張」

ファイルマネージャーの概要

ファイルマネージャーは、ファイルやアプリケーションを管理するための、単純で統合された手段を提供します。ファイルマネージャーを使用すれば、次の操作を実行できます。

- フォルダやドキュメントを作成します
- ファイルやフォルダを表示します
- ファイルを検索および管理します
- スクリプトを実行し、アプリケーションを起動します
- ファイルやフォルダの外観をカスタマイズします
- コンピュータ上の特別な場所を開きます
- データを CD または DVD に書き込みます
- フォントをインストールおよび削除します

ファイルマネージャーはデスクトップを管理します。デスクトップは、画面に表示されているほかのすべての項目の背後にあります。

どのユーザーもホームフォルダを持ちますが、これには、そのユーザーに関係するすべてのファイルが含まれます。デスクトップに含まれる特別なアイコンを使えば、ユーザーのホームフォルダやゴミ箱、さらにフロッピーディスクやCD、USBフラッシュドライブなどのリムーバブルメディアに簡単にアクセスできます。

ファイルマネージャーには、ファイルシステムと対話できるモードが2つ用意されています。ファイルマネージャーで使用するべきモードは、ファイルマネージャー設定ダイアログの「動作」タブで「常にブラウザ・ウィンドウで開く」を選択(または選択解除)することで選択できます。2つのモード:

- ブラウザモード - このモードでは、ファイルやフォルダを参照できます。ファイルマネージャーウィンドウは、任意の場所を表示できるブラウザを表します。あるフォルダを開くと現在のファイルマネージャーウィンドウが更新され、その新しいフォルダの内容が表示されます。ブラウザウィンドウには、一般的な操作や場所を含むツールバー、フォルダ階層内での現在の場所を示す場所バー、およびさまざまな種類の情報を保持できるサイドバーが表示されます。ブラウザモードの使用の詳細については、[80 ページの「ブラウザモード」](#)を参照してください。
- 空間モード - このモードでは、ファイルやフォルダをオブジェクトとしてナビゲートできます。ファイルマネージャーウィンドウは特定のフォルダを表します。あるフォルダを開くと、そのフォルダ用に新しいウィンドウが開かれます。特定のフォルダを開くたびに、前回開いたときと同じ画面上の場所に同じサイズで表示されます。空間モードのファイルマネージャーでは、開いたフォルダは異なるアイコンで示されます。空間モードを使用すると、画面上で開かれるファイルマネージャーウィンドウの数が増える可能性があります。空間モードの使用の詳細については、[76 ページの「空間モード」](#)を参照してください。

空間モード

このセクションでは、空間モードで構成されたファイルマネージャーを使ってファイルシステムを参照する方法について説明します。空間モード(デフォルト)では、各ウィンドウが単一のフォルダに対応します。

空間モードウィンドウ

フォルダを開くたびに、新しい空間モードウィンドウが開かれます。フォルダを開くには、次のいずれかの操作を実行します。

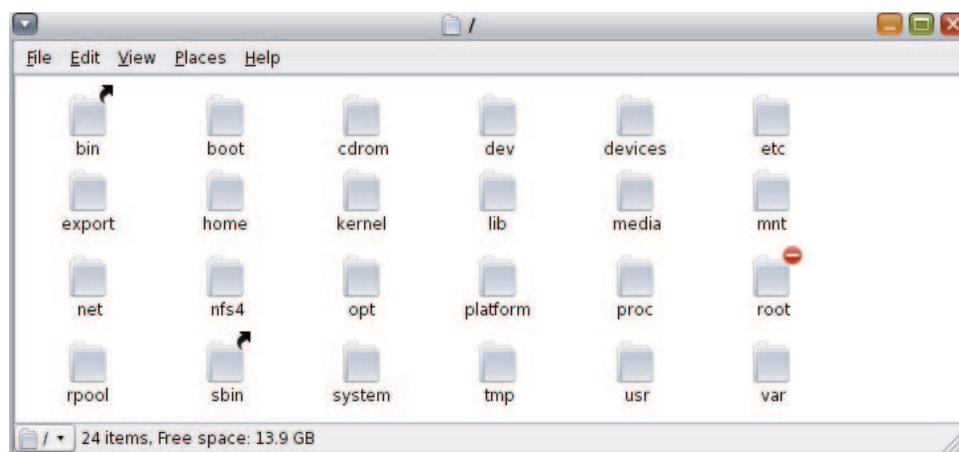
- デスクトップまたは既存のウィンドウで、フォルダのアイコンをダブルクリックします。

- フォルダを選択し、Ctrl+Oを押します。
- フォルダを選択し、Alt+下矢印を押します。
- 上部パネルの「場所」メニューから項目を選択します。ここでは、ホームフォルダとブックマークされたフォルダが一覧表示されます。ブックマークの詳細は、[104 ページの「ブックマークの使用」](#)を参照してください。

新しいフォルダを開きながら現在のものを閉じるには、Shift を押しながらダブルクリックするか、Shift+Alt+下矢印を押します。

次の図に、メイン「コンピュータ」フォルダの内容が表示されたサンプル空間モードウィンドウを示します。

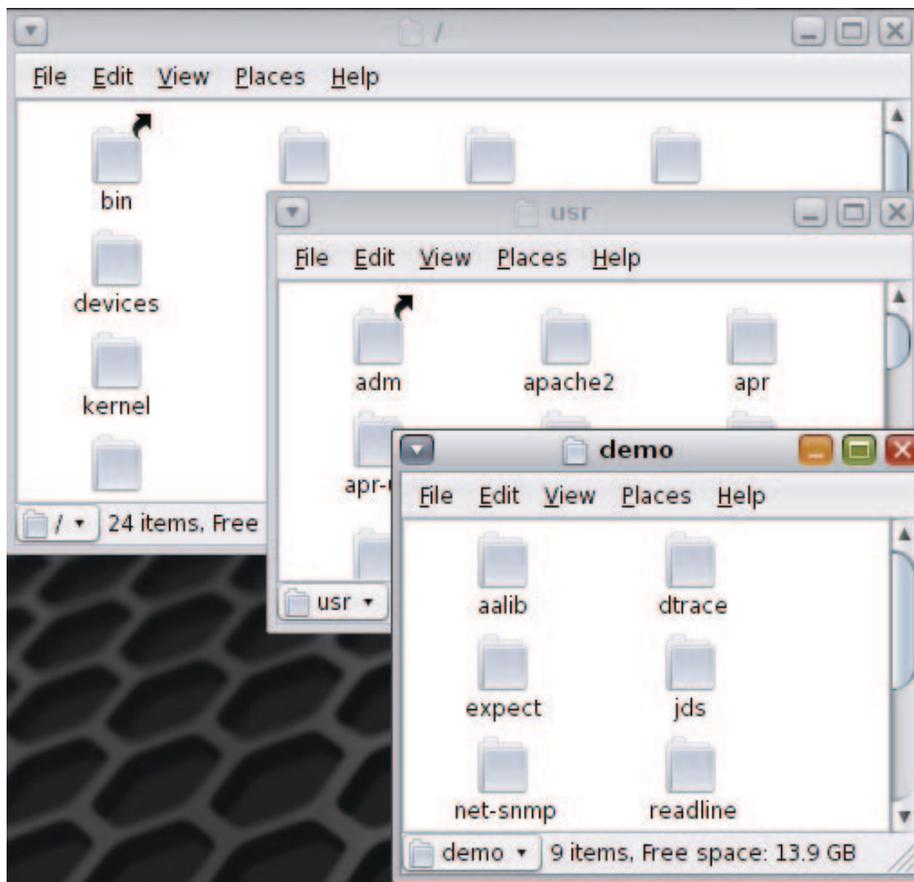
図 8-1 空間モードウィンドウ



空間モードでは、開いた各ウィンドウに表示される場所は1つだけです。2番目の場所を選択すると、2番目のウィンドウが開かれます。各場所は前回開いたときの画面上の位置を記憶しているため、一度に多くのフォルダが開かれていても、フォルダを識別できます。

次の図に、多くの場所が開いている空間参照の例を示します。

図8-2 空間ウィンドウの参照



注-空間モードでは画面がファイルマネージャーウィンドウで埋め尽くされるため、それらを容易に再配置できることが重要となります。Alt キーを押しながらウィンドウ枠内の任意の場所をクリックすれば、タイトルバーを探してドラッグしなくてもウィンドウを再配置できます。

次の表では、空間ウィンドウのコンポーネントについて説明します。

表 8-1 空間ウィンドウのコンポーネント

コンポーネント	説明
メニューバー	<p>ファイルマネージャーでのタスクの実行に使用するメニューを含みます。</p> <p>ファイルマネージャーウィンドウを右クリックしてウィンドウからポップアップメニューを開くこともできます。このメニュー内の項目は、右クリックの位置によって異なります。たとえば、ファイルやフォルダを右クリックした場合は、ファイルやフォルダに関する項目を選択できます。表示ペインの背景を右クリックした場合は、表示ペインに表示された項目に関する項目を選択できます。</p>
表示ペイン	<p>次のものの内容を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ フォルダ ■ FTP サイト ■ Windows 共有 ■ WebDAV サーバー ■ 特別な URI に対応する場所
ステータスバー	<p>フォルダ内の項目数やディスクの空き容量など、ステータス情報を表示します。</p>
親フォルダセレクト	<p>ステータスバーに配置されます。フォルダの階層を表示します。リストからフォルダを選択すると開きます。</p> <p>注 - Shift を押しながらいリストから選択すると、現在のフォルダが閉じて新しいものが開きます。</p>

空間ウィンドウでのホームフォルダの表示

ホームフォルダを表示するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 上部パネルの「ホーム」ランチャーアイコンをクリックします。
- フォルダウィンドウのメニューバーから「場所」→「ホームフォルダ」を選択します。
- 上部パネルのメニューバーから「場所」→「ホームフォルダ」を選択します。

空間ウィンドウにホームフォルダの内容が表示されます。

親フォルダの表示

親フォルダとは、現在のフォルダを含んでいるフォルダのことです。現在のフォルダの親の内容を表示するには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「ファイル」→「親フォルダを開く」を選択します。
- Alt+上矢印を押します。
- ウィンドウの左下にある親フォルダセレクトから選択します。

ブラウザウィンドウでのフォルダの表示

空間モードで作業を続けながら、単一のフォルダをブラウザモードで表示できません。

▼ ブラウザウィンドウでフォルダを表示する方法

- 1 空間モードで作業しながらフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」→「フォルダの閲覧」を選択します。

フォルダを閉じる

多くのウィンドウを閉じる場合、「閉じる」ボタンをクリックしてフォルダを閉じるのは、もっとも効率的な方法でない可能性があります。現在のフォルダのみを表示し、そのフォルダに辿り着くために開いたフォルダは表示しないようにする場合は、「ファイル」→「全ての親フォルダを閉じる」を選択します。画面上のすべてのフォルダを閉じる場合は、「ファイル」→「全てのフォルダを閉じる」を選択します。

場所を開く

空間モードでは、名前を入力してフォルダやその他の場所を開くことができます。

「ファイル」→「場所を開く」を選択し、開く場所のパスまたはURIを入力します。

ブラウザモード

このセクションでは、ブラウザモードで構成されたファイルマネージャーを使ってシステムを参照する方法について説明します。ブラウザモードでは、フォルダを開くと現在のファイルマネージャーウィンドウが更新され、その新しいフォルダの内容が表示されます。

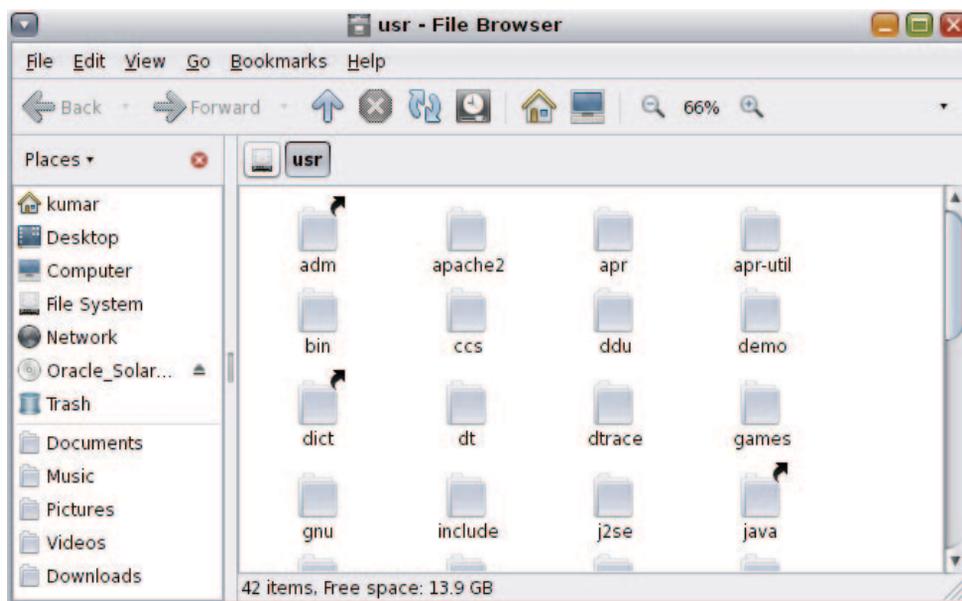
ブラウザウィンドウ

次の方法でファイルブラウザにアクセスできます。

- 「アプリケーション」→「システムツール」→「ファイルブラウザ」を選択します。

- 空間モードでフォルダをブラウザモードで開くには、そのフォルダを右クリックして「フォルダの閲覧」を選択します。新しいファイルブラウザウィンドウが開き、選択したフォルダの内容が表示されます。
- 常にブラウザウィンドウを開くようにファイルマネージャーが設定されている場合には、任意のフォルダをダブルクリックするとブラウザウィンドウが開かれます。115 ページの「動作」を参照してください。

図 8-3 ファイルブラウザウィンドウ



次の表では、ファイルブラウザウィンドウのコンポーネントについて説明します。

表 8-2 ファイルブラウザウィンドウのコンポーネント

コンポーネント	説明
メニューバー	<p>ファイルマネージャーでのタスクの実行に使用するメニューを含みます。</p> <p>ファイルマネージャーウィンドウを右クリックしてウィンドウからポップアップメニューを開くこともできます。このメニュー内の項目は、右クリックの位置によって異なります。たとえば、ファイルやフォルダを右クリックした場合は、ファイルやフォルダに関する項目を選択できます。表示ペインの背景を右クリックした場合は、表示ペインに表示された項目に関する項目を選択できます。</p>

表 8-2 ファイルブラウザウィンドウのコンポーネント (続き)

コンポーネント	説明
ツールバー	<p>ファイルマネージャーでの各種タスクの実行に使用するボタンを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 戻る - 最後にアクセスした場所に戻ります。隣接するドロップダウンリストにも最近アクセスした場所のリストが含まれていますが、これを使えばそれらの場所によりすばやく戻れます。 ■ 進む - 「戻る」ツールバーボタンと反対の機能を実行します。以前に後方にナビゲートしていた場合、このボタンをクリックすると、前方に戻ります。 ■ 上へ - 1 レベル上 (現在のフォルダの親) に移動します。 ■ 再読み込み - 現在のフォルダの内容をリフレッシュします。 ■ スナップショットを参照 - フォルダに存在している ZFS スナップショットの内容を、タイムスライダを使って参照できます。タイムスライダの詳細については、第 7 章「タイムスライダの使用」を参照してください。 ■ ホーム - ホームフォルダを開きます。 ■ コンピュータ - 「コンピュータ」フォルダを開きます。 ■ 検索 - 検索バーを開きます。
場所バー	<p>場所バーではコンピュータをナビゲートできます。これには、選択内容に応じて 3 つの異なる構成があります。詳細については、84 ページの「場所バーの使用」を参照してください。3 つの構成すべてで、場所バーには次の項目が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ズームボタン - 表示ペイン内の項目のサイズを変更できます。 ■ 「ほかの表示」ドロップダウンリスト - 表示ペインでの項目の表示方法を選択できます。

表 8-2 ファイルブラウザウィンドウのコンポーネント (続き)

コンポーネント	説明
サイドペイン	<p>サイドペインでは次の機能が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在のファイルまたはフォルダに関する情報を表示します。 ■ ファイルをナビゲートします。 <p>サイドペインを表示するには、「表示」→「サイドペイン」を選択します。サイドペインに含まれるドロップダウンリストを使えば、サイドペインに表示される項目を選択できます。。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 場所-特に関心のある場所を表示します。 ■ 情報-現在のフォルダのアイコンや関連情報を表示します。サイドペインにボタンが表示される場合があります。これらのボタンを使えば、デフォルト操作以外の操作を現在のフォルダに実行できます。 ■ ツリー-ファイルシステムの階層表現を表示します。ツリーを使ってファイルをナビゲートできます。 ■ 履歴-最近アクセスしたファイル、フォルダ、FTP サイト、および URI の履歴リストを含みます。 ■ メモ-ファイルやフォルダにメモを追加できます。 ■ エンブレム-ファイルまたはフォルダに追加可能なエンブレムを含みます。 <p>サイドペインを閉じるには、サイドペインの右上にある「X」ボタンをクリックします。</p>
表示ペイン	<p>表示ペインには次のものの内容が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ フォルダ ■ FTP サイト ■ Windows 共有 ■ WebDAV サーバー ■ 特別な URI に対応する場所
ステータスバー	ステータス情報を表示します。

ファイルブラウザウィンドウのコンポーネントの表示と非表示

ファイルブラウザの任意のコンポーネントを表示または非表示にするには、そのコンポーネントを表示メニューから選択します。メニューオプションはトグルになっており、コンポーネントの表示と非表示を交互に切り替えることができます。

ヒント-F9 を押すと、サイドペインの表示を切り替えることができます。

場所バーの使用

ファイルブラウザの場所バーには、場所フィールド、ボタンバー、検索フィールドのいずれかを表示できます。次の表では場所バーのフィールドについて説明します。

表 8-3 場所バーのフィールド

フィールド	説明
ボタンバー	<p>デフォルトではボタンバーが表示されます。これには、現在の場所の階層を表す1行のボタン(フォルダごとに1つずつ)が含まれます。このボタンをクリックすると、階層内のフォルダが切り替わります。元のフォルダ(行の最後のボタンとして表示)に戻ることができます。</p> <p>ボタンを別の場所にドラッグしてフォルダをコピーすることなどもできます。</p>
テキスト場所バー	<p>テキスト場所バーでは、現在の場所が、<code>/home/user/Documents</code> のようなテキストパスとして表示されます。場所フィールドは、既知のフォルダにナビゲートする際に便利です。</p> <p>新しい場所に移動するには、新しいパスを入力するか現在のものを編集してから <code>Return</code> を押します。パスフィールドでは、可能性が1つしかない場合には、入力中の内容が自動的に補完されます。提案された補完を受け入れるには、<code>Tab</code> を押します。</p> <p>常にテキスト場所バーを使用するには、場所バーの左にあるトグルボタンをクリックします。</p> <p>ボタンバーの使用中にテキスト場所バーに切り替えるには、<code>Ctrl+L</code> を押すか、「移動」→「場所」を選択するか、または <code>/</code> (先頭のスラッシュ) を押し、ルートディレクトリからのパスを入力します。<code>Return</code> を押すか、<code>Esc</code> を押して処理を取り消すと、場所バーに場所ボタンがふたたび表示されません。</p>
検索バー	<p>検索バーを表示するには、<code>Ctrl+F</code> を押すか「検索」ツールバーボタンを選択します。検索バーの詳細については、89 ページの「ファイルの検索」 を参照してください。</p>

ホームフォルダの表示

ホームフォルダを表示するには、ファイルブラウザウィンドウから次のいずれかの操作を実行します。

- 「移動」→「ホーム」を選択します
- 「ホーム」ツールバーボタンをクリックします
- 「場所」サイドペインの「ホーム」ボタンをクリックします

ファイルブラウザウィンドウにホームフォルダの内容が表示されます。

フォルダの表示

次のいずれかの方法で、フォルダの内容をリストビューまたはアイコンビューで表示できます。リストビューやアイコンビューの詳細については、[90 ページ](#)の「[ビューを使用したファイルやフォルダの表示](#)」を参照してください。

- 表示ペインでフォルダをダブルクリックします。
- サイドペインのツリーを使用します。詳細については、[85 ページ](#)の「[サイドペインのツリーの使用](#)」を参照してください。
- 場所バーの場所ボタンをクリックします。
- Ctrl+L を押してテキスト場所フィールドを表示します。表示するフォルダのパスを入力してから Return を押します。場所フィールドには自動補完機能が含まれています。ユーザーがパスを入力すると、ファイルマネージャーはファイルシステムを読み取ります。ディレクトリを特定するのに十分な数の文字を入力した時点で、ファイルマネージャーは場所フィールド内のディレクトリの名前を補完します。
- ツールバーの「戻る」ボタンと「進む」ボタンを使ってナビゲーション履歴を参照します。

現在のフォルダの1つ上のレベルのフォルダに変更するには、「移動」→「上へ」を選択します。または、「上へ」ツールバーボタンをクリックします。

親フォルダの表示

現在参照しているものの親フォルダとは、階層表現内で現在のフォルダの1つ上のレベルに存在しているもののことです。親フォルダの内容を表示するには、次のいずれかの手順を実行します。

- ツールバーの「上へ」ボタンを押します。
- メニューバーから「移動」→「親フォルダを開く」を選択します。
- Backspace キーを押します。

サイドペインのツリーの使用

ツリービューは、サイドペインでもっとも役立つ機能の1つです。ファイルシステムの階層表現が表示され、ファイルシステムの参照やナビゲーションを行うための便利な手段が提供されます。サイドペインにツリーを表示するには、サイドペインの上部にあるドロップダウンリストから「ツリー」を選択します。

ツリー表示では、開いたフォルダは下向きの矢印で表現されます。次の表では、ツリーで実行可能なタスクについて説明します。

表 8-4 ツリーのタスク

タスク	処理
ツリーを開きます	サイドペインの上部にあるドロップダウンリストから「ツリー」を選択します。
ツリーを閉じます	サイドペインの上部にあるドロップダウンリストから別の項目を選択します。
ツリーのフォルダを展開します	ツリーのフォルダの隣にある矢印をクリックします。
ツリーのフォルダを折り畳みます	ツリーのフォルダの隣にある矢印をクリックします。
フォルダの内容を表示ペインに表示します	ツリーでフォルダを選択します。
ファイルを開きます	ツリーでファイルを選択します。

ツリーにファイルが表示されないように設定できます。詳細については、[115 ページ](#)の「表示」を参照してください。

ナビゲーション履歴の使用

ファイルブラウザウィンドウでは、最近アクセスしたファイル、フォルダ、FTP サイト、および URI 場所の履歴リストが保持されます。この履歴リストを使えばそれらの場所に戻ることができます。履歴リストには、最後に表示した 10 件の項目が含まれます。

履歴リストを消去するには、「移動」→「履歴のクリア」を選択します。

「移動」メニューを使用した履歴リストのナビゲーション

以前にアクセスした項目のリストを表示するには、「移動」メニューを開きます。「移動」メニューの下部に履歴リストが表示されます。履歴リスト内の項目をクリックすると開きます。

ツールバーを使用した履歴リストのナビゲーション

ツールバーを使って履歴リストをナビゲートするには、次のいずれかの操作を実行します。

- 履歴リスト内のフォルダまたは URI を開くには、「戻る」または「進む」ツールバーボタンをクリックします。
- 以前に表示された項目のリストを表示するには、「戻る」ツールバーボタンの右にある下矢印をクリックします。

- 現在の項目を表示したあとで表示した項目のリストを表示するには、「進む」ツールバーボタンの右にある下矢印をクリックします。

サイドペインの履歴を使用した履歴リストのナビゲーション

サイドペインに履歴リストを表示するには、サイドペインの上部にあるドロップダウンリストから「履歴」を選択します。サイドペインの履歴リストには、以前に表示された項目のリストが表示されます。履歴リスト内の項目を表示ペインに表示するには、履歴リストでその項目をダブルクリックします。

ファイルを開く

ファイルを開くと、そのファイルタイプのデフォルト操作がファイルマネージャーによって実行されます。

たとえば、音楽ファイルを開くとデフォルトの音楽再生アプリケーションで再生され、テキストファイルを開くとテキストエディタで読み取ったり編集したりでき、画像ファイルを開くとその画像が表示されます。

ファイルマネージャーはファイルの内容をチェックしてそのタイプを判定します。先頭の数行でファイルのタイプを判定できなかった場合、ファイルマネージャーはファイル拡張子をチェックします。

注- 実行可能なテキストファイル、つまりファイルマネージャーがプログラムとして実行可能であるとみなすものを開いた場合、そのファイルを実行するか、それともテキストエディタで表示するかを尋ねられます。この動作はファイル管理の設定で変更できます。

デフォルト操作の実行

ファイルのデフォルト操作を実行するには、ファイルをダブルクリックします。たとえば、プレーンテキストドキュメントのデフォルト操作は、テキストビューアでファイルを表示することです。テキストファイルをダブルクリックすると、そのファイルがテキストビューアに表示されます。

ファイルを1回クリックすればデフォルト操作が実行されるように、ファイルマネージャー設定を行えます。詳細については、[115 ページの「動作」](#)を参照してください。

デフォルト以外の操作の実行

デフォルト操作以外の操作をファイルに対して実行するには、操作の実行先となるファイルを選択します。「ファイル」メニューに開き方の選択肢または「別のアプリで開く」サブメニューが表示されます。このリストから目的のオプションを選択します。

▼ あるファイルタイプに関連付けられた操作を追加する方法

- 1 表示ペインで、操作を追加するファイルを選択します。
- 2 「ファイル」 → 「別のアプリで開く」を選択します。
- 3 「別のアプリで開く」ダイアログでアプリケーションを選択するか、このファイルタイプを開くときに使用するプログラムを参照します。
選択した操作が、特定のファイルタイプの操作リストに追加されます。それまでそのファイルタイプに操作が1つも関連付けられていなかった場合、新しく追加された操作がデフォルトになります。

ヒント- 「ファイル」 → 「プロパティ」の下にある「別のアプリで開く」タブで操作を追加することもできます。

▼ 操作を変更する方法

- 1 表示ペインで、操作を変更するファイルを選択します。
- 2 「ファイル」 → 「プロパティ」を選択します。
- 3 「別のアプリで開く」タブをクリックします。
- 4 「追加」または「削除」ボタンを使って操作のリストを調整します。リストの左にあるオプションでデフォルト操作を選択します。

ファイルの検索

ファイルマネージャーで検索を開始するには、Ctrl+Fを押すか「検索」ツールボタンを選択します。次の図に示すような検索バーが表示されるはずです。

図 8-4 検索バー



検索するファイルやフォルダの名前または内容に含まれる文字を入力し、Returnを押します。

条件を追加して特定のファイルタイプや場所に検索を限定することで、検索結果を絞り込むことができます。検索条件を追加するには、+アイコンをクリックします。

検索の保存

検索は、あとで使用できるように保存することもできます。保存された検索は、あとでふたたび開くことができます。保存された検索の動作は通常のフォルダとまったく同様であるため、たとえば、保存された検索内からファイルを開いたり、移動したり、削除したりできます。

ファイルやフォルダの管理

このセクションでは、ファイルやフォルダの操作方法について説明します。

ファイルシステムはツリーに似た階層構造として編成されます。ファイルシステムの最上位は/ (ルートディレクトリ) です。この設計思想では、ハードディスク、パーティション、リムーバブルメディアも含め、すべてがファイルとみなされます。ファイルやディレクトリ (ほかのディスクやパーティションも含む) はすべて、ルートディレクトリの下に存在します。

たとえば、/home/jebediah/cheeses.odt は、ルート (/) ディレクトリの下にあるホームディレクトリの下にある jebediah ディレクトリ内に存在している cheeses.odt ファイルへの正しいフルパスを示したものです。

ルート (/) ディレクトリの下には、頻繁に使用される一連の重要なシステムディレクトリがあります。次のリストは、ルート (/) ディレクトリの直下にある一般的なディレクトリについて説明したものです。

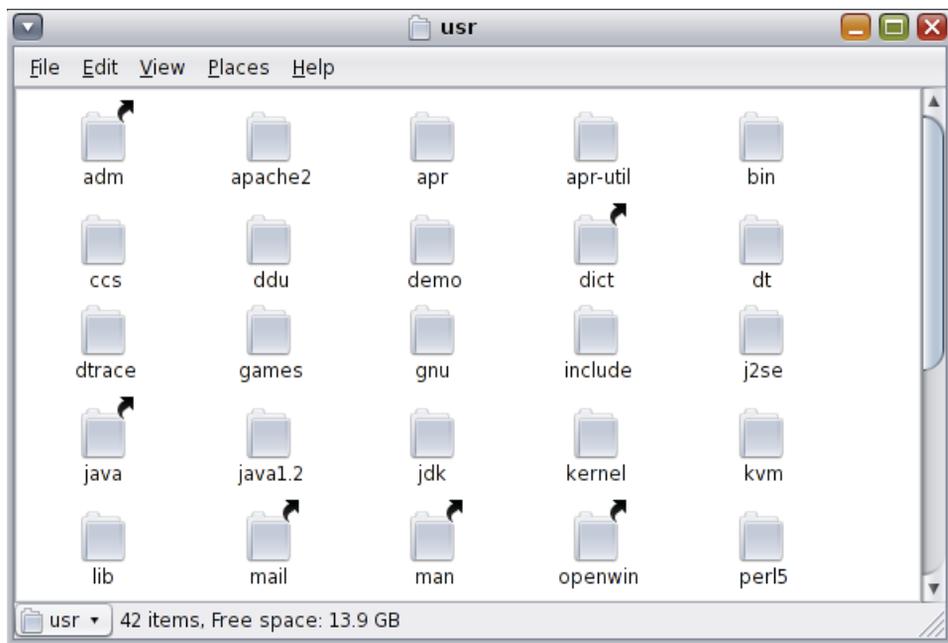
- /etc - 構成ファイルや起動スクリプトなど
- /home - ローカルユーザーのホームディレクトリ

- /bin – 重要なバイナリアプリケーション
- /boot – コンピュータのブートに必要なファイル
- /dev – デバイスファイル
- /lib – システムライブラリ
- /lost+found – ルート (/) ディレクトリの下に存在しているファイルに遺失物取扱所システムを提供します
- /opt – オプションのアプリケーションをインストールするための場所を提供します
- /proc – 現在実行中のプロセスなど、システムの状態に関する情報を保持する特殊な動的ディレクトリ
- /media – マウント済み (読み込み済み) のリムーバブルメディア (CD やデジタルカメラなど)
- /mnt – マウントされたファイルシステム
- /root – root ユーザーのホームディレクトリ (「スラッシュ-ルート」と発音)
- /sbin – 重要なシステムバイナリ
- /srv – サーバーで使用されるデータ用の場所を提供します
- /sys – システムに関する情報を含みます
- /tmp – 一時ファイル
- /usr – 基本的にすべてのユーザーからアクセス可能なアプリケーションやファイル
- /var – ログやデータベースなどの可変ファイル

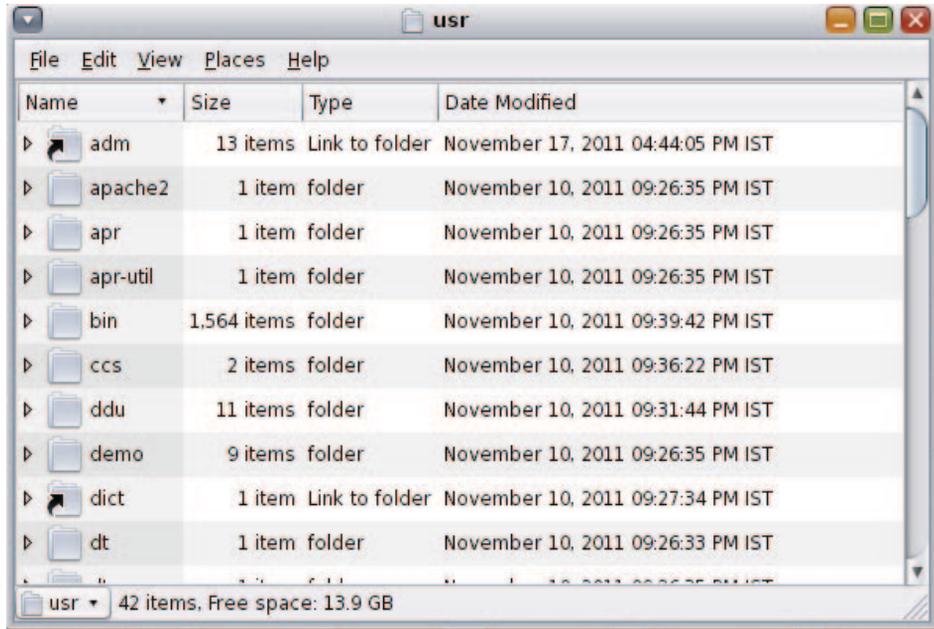
ビューを使用したファイルやフォルダの表示

ファイルマネージャーに含まれるビューを使えば、フォルダの内容を異なる方法 (アイコンビューとリストビュー) で表示できます。

- アイコンビュー – 次の図では、フォルダ内の項目がアイコンとして表示されています。



- リストビュー—次の図では、フォルダ内の項目がリストとして表示されています。



アイコンビューまたはリストビューを選択するには、「表示」メニューまたは「ほかの表示」ドロップダウンリストを使用します。フォルダ内の項目を並べ替える(ソートする)方法を指定したり、表示ペイン内の項目のサイズを変更したりできます。次の各セクションでは、アイコンビューとリストビューの操作方法について説明します。

アイコンビューでのファイルの並べ替え

フォルダの内容をアイコンビューで表示する際には、フォルダ内の項目の並べ替え方法を指定できます。アイコンビューでの項目の並べ替え方法を指定するには、「表示」→「アイテムの配置方式」を選択します。「アイテムの配置方式」サブメニューの構成は次のようになっています。

- 上部セクションには、ファイルを手動で並べ替えられるオプションが含まれています。
- 中央のセクションには、ファイルを自動でソートできるオプションが含まれています。
- 下部セクションには、ファイルの並べ替え方法の変更できるオプションが含まれています。

次の表では、サブメニューから選択できる適切なオプションについて説明します。

オプション	説明
手動	項目を手動で並べ替えます。項目を表示ペイン内の目的の場所へドラッグします。
名前順	項目を名前のアルファベット順にソートします。項目の並べ替えでは、大文字と小文字は区別されません。隠しファイルを表示するようにファイルマネージャーが設定されている場合には、末尾に隠しファイルが表示されます。
サイズ順	項目をサイズ順にソートします(もっとも大きい項目が一番上)。項目をサイズ順にソートすると、フォルダはフォルダ内の項目数の順にソートされます。フォルダはフォルダ内の項目の合計サイズの順にソートされるわけではありません。
種類順	項目をオブジェクトタイプのアルファベット順にソートします。MIMEタイプの説明のアルファベット順に項目がソートされます。MIMEタイプはファイルの形式を識別し、アプリケーションからそのファイルを読み取れるようにします。たとえば、電子メールアプリケーションで image/png MIMEタイプを使用すれば、電子メールに PNG ファイルが添付されていることを検出できます。
更新日時順	項目が最後に変更された日時の順番に項目をソートします。変更日時が新しい項目から先に表示されます。
エンブレム順	項目に追加されたエンブレムの順に項目をソートします。項目はエンブレム名のアルファベット順にソートされます。エンブレムを持たない項目は最後に表示されます。
小さいレイアウト	項目が互いに近くなるように項目を並べます。
逆順で並び替え	項目のソートに使用するオプションの順序を逆にします。たとえば、項目を名前順にソートする場合に「逆順で並び替え」オプションを選択すると、項目がアルファベットの逆順にソートされます。

リストビューでのファイルの並べ替え

フォルダの内容をリストビューで表示する際には、フォルダ内の項目の並べ替え方法を指定できます。リストビューで項目の並べ替え方法を指定するには、項目の並べ替えに使用するプロパティを指定する列のヘッダーをクリックします。ソート順を逆にするには、同じ列ヘッダーをもう一度クリックします。

リストビューの列を追加または削除するには、「表示」→「一覧に表示する項目」を選択します。

ファイルマネージャーは特定のフォルダでの項目の並べ替え方法を記憶します。そのフォルダを次回表示するときは、選択した方法で項目が並べ替えられます。フォルダ内の項目の並べ替え方法を指定すれば、その方法で項目が表示されるようにフォルダをカスタマイズできます。フォルダの並べ替え設定を、設定で指定されたデフォルトの並べ替え設定に戻すには、「表示」→「デフォルト表示にリセット」を選択します。

ビュー内の項目のサイズ変更

ファイルまたはフォルダを表示しているビュー内の項目のサイズは、次の方法で変更できます。

- ビュー内の項目のサイズを大きくするには、「表示」→「拡大」を選択します。
- ビュー内の項目のサイズを小さくするには、「表示」→「縮小」を選択します。
- ビュー内の項目を通常のサイズに戻すには、「表示」→「通常サイズ」を選択します。

ブラウザウィンドウの場所バーのズームボタンを使ってビュー内の項目のサイズを変更することもできます。

次の表ではズームボタンについて説明します。

表 8-5 ズームボタン

ボタン	ボタン名	説明
	縮小	ビュー内の項目のサイズを小さくする場合にこのボタンをクリックします。
	通常サイズ	ビュー内の項目を通常のサイズに戻す場合にこのボタンをクリックします。
	拡大	ビュー内の項目のサイズを大きくする場合にこのボタンをクリックします。

ファイルマネージャーは特定のフォルダ内の項目のサイズを記憶します。そのフォルダを次回表示しても、ユーザーが選択したサイズで項目が表示されます。フォルダ内の項目のサイズを変更すれば、そのサイズで項目が表示されるようにフォルダをカスタマイズできます。項目のサイズを、設定で指定されたデフォルトサイズに戻すには、「表示」→「デフォルト表示にリセット」を選択します。

ファイルやフォルダの操作

ファイルマネージャーでは、いくつかの方法でファイルやフォルダを選択できます。特定のパターンに一致する一連のファイルを選択することもできます。

ファイルやフォルダの選択

次の表では、ファイルマネージャーで実行可能なタスクについて説明します。

表 8-6 ファイルマネージャーでの項目の選択

タスク	処理
1つの項目を選択します	項目をクリックします。
連続する項目のグループを選択します	アイコンビューの場合、クリックしたあと、選択するファイルを囲むようにドラッグします。 リストビューの場合、グループの最初の項目をクリックします。Shift を押しながら、グループの最後の項目をクリックします。
複数の項目を選択します	Ctrl を押したままにします。選択する項目をクリックします。
フォルダ内のすべての項目を選択します	「編集」 → 「全てのファイルを選択します」を選択します。

項目でデフォルト操作を実行するには、その項目をダブルクリックします。ファイルを1回クリックすればデフォルト操作が実行されるように、ファイルマネージャー設定を行えます。詳細については、[115 ページの「動作」](#)を参照してください。

特定のパターンに一致するファイルの選択

ファイル名と任意の数のワイルドカードに基づくパターンに一致するファイルをすべて選択できます。次の表では、可能なパターンのいくつかの例と、それらに一致する結果のファイルを示します。

表 8-7 パターンを使用してファイルマネージャー内の項目を選択する

パターン	一致するファイル
note.*	このパターンは、任意の拡張子を持つ、note という名前のファイルに一致します。
*.ogg	このパターンは、.ogg 拡張子を持つすべてのファイルに一致します
memo	このパターンは、名前に memo という単語が含まれるすべてのファイルまたはフォルダに一致します。

選択パターンコマンドを実行するには、メニューから「編集」 → 「パターンによる選択」を選択します。目的のパターンを入力したあとは、選択したパターンに一致するファイルやフォルダが残ります。

ファイルまたはフォルダの移動またはコピー

ファイルまたはフォルダは、マウスでドラッグするか、切り取りまたはコピーおよび貼り付けコマンドを使用することで、移動またはコピーできます。次の各手順では、ファイルまたはフォルダを移動またはコピーする方法について説明します。

▼ ファイルをドラッグして新しい場所にコピーまたは移動する方法

ヒント-ファイルまたはフォルダを現在の場所の1レベル下にあるフォルダに移動するには、同じウィンドウ内でそのファイルまたはフォルダを新しい場所にドラッグします。ファイルまたはフォルダをコピーする場合は、Ctrlを押しながらドラッグします。

- 1 2つのファイルマネージャーウィンドウを開きます。
 - 移動またはコピーする項目を含むウィンドウ
 - ファイルまたはフォルダの移動先またはコピー先ウィンドウ、またはその移動先またはコピー先フォルダを含むウィンドウ
- 2 新しい場所に移動またはコピーするファイルまたはフォルダをドラッグします。ファイルまたはフォルダをコピーする場合は、**Ctrl**を押しながらドラッグします。
 - 新しい場所がウィンドウの場合は、ウィンドウ上の任意の場所にドロップします。
 - 新しい場所がフォルダの場合は、ドラッグ中の項目をフォルダアイコンにドロップします。

▼ 新しい場所に切り取りまたはコピーして貼り付ける方法

- 1 移動またはコピーするファイルまたはフォルダを選択してから、「編集」→「切り取り」または「編集」→「コピー」を選択します。
- 2 ファイルまたはフォルダの移動先またはコピー先フォルダを開きます。
- 3 「編集」→「貼り付け」を選択します。

▼ ファイルまたはフォルダを複製する方法

- 1 複製するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 「編集」→「複製」を選択します。
そのファイルまたはフォルダのコピーが現在のフォルダ内に表示されます。

▼ フォルダを作成する方法

- 1 新しいフォルダの作成先フォルダを開きます。
- 2 「ファイル」→「フォルダの生成」を選択するか、ウィンドウの背景を右クリックして「フォルダの生成」を選択します。
タイトルなしのフォルダがその場所に追加されます。フォルダの名前が選択されています。
- 3 フォルダの名前を入力してから、**Return**を押します。

▼ ファイルまたはフォルダの名前を変更する方法

- 1 名前を変更するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 「編集」→「名前の変更」を選択するか、ファイルまたはフォルダを右クリックして「名前の変更」を選択します。
ファイルまたはフォルダの名前が選択されています。
- 3 ファイルまたはフォルダの新しい名前を入力してから、**Return**を押します。

▼ ファイルまたはフォルダをゴミ箱に移動する方法

- 1 ゴミ箱に移動するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 「編集」→「ゴミ箱へ移動する」を選択するか、ファイルまたはフォルダを右クリックして「ゴミ箱へ移動する」を選択します。

注-リムーバブルメディア内のファイルまたはフォルダをゴミ箱に移動した場合、そのファイルまたはフォルダはリムーバブルメディア上のゴミ箱の場所に格納されます。そのファイルまたはフォルダをリムーバブルメディアから完全に削除するには、ゴミ箱を空にする必要があります。

▼ ファイルまたはフォルダを削除する方法

ファイルまたはフォルダを削除すると、そのファイルまたはフォルダはゴミ箱には移動しません。ファイルシステムから削除されます。「削除」メニュー項目を使用できるのは、「ファイル管理の設定」ダイアログで「ゴミ箱を経由しないで削除する」オプションを選択した場合だけです。

- 1 削除するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 次のいずれかの方法を使ってファイルまたはフォルダを削除します。
 - 「編集」 → 「削除」を選択します。
 - ファイルまたはフォルダを右クリックして「削除」を選択します。
 - **Shift+Del** を押します。

注-このショートカットは「ゴミ箱を経由しないで削除する」オプションの影響を受けません。

ファイルまたはフォルダへのシンボリックリンクの作成

シンボリックリンクは、別のファイルまたはフォルダを指している特別な種類のファイルです。シンボリックリンクに対して操作を実行すると、操作はシンボリックリンクが指しているファイルまたはフォルダに実行されます。ただし、シンボリックリンクを削除する際には、シンボリックリンクが指しているファイルではなく、リンクファイルが削除されます。

▼ ファイルまたはフォルダへのシンボリックリンクを作成する方法

- リンクを作成するファイルまたはフォルダを選択します。
 - 「編集」 → 「リンクの作成」を選択します。
ファイルまたはフォルダへのリンクが現在のフォルダに追加されます。
 - ドラッグ&ドロップを使ってリンクを作成します。
 - a. **Ctrl+Shift** を押したままにします。
 - b. リンクを配置する場所に項目をドラッグします。
デフォルトでは、ファイルマネージャーによってシンボリックリンクにエンブレムが追加されます。

注-シンボリックリンクのアクセス権は、シンボリックリンクが指しているファイルまたはフォルダによって決まります。

ドラッグ&ドロップの使用

ファイルマネージャーでは、ドラッグ&ドロップを使っていくつかのタスクを実行できます。ドラッグ&ドロップすると、実行するタスクに関するフィードバックがマウスポインタから提供されます。次の表では、ドラッグ&ドロップで実行可能なタスクについて説明します。次の表では、ドラッグ&ドロップ時に表示されるマウスポインタについて説明します。

表 8-8 ファイルマネージャーでのドラッグ&ドロップ

タスク	処理
項目を移動します	項目を新しい場所にドラッグします。
項目をコピーします	項目をつかみ、Ctrlを押したままにします。コピーを置く場所に項目をドラッグします。
項目へのシンボリックリンクを作成します	項目をつかみ、Ctrl+Shiftを押したままにします。シンボリックリンクを置く場所に項目をドラッグします。
ドラッグする項目をどうするか確認します	<p>項目をつかみ、Altを押したままにします。マウスの中ボタンを使っても同じ操作を実行できます。項目を置く場所に項目をドラッグします。マウスボタンを離します。ポップアップメニューから次のいずれかの項目を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ここに移動する - 項目を場所に移動します。 ■ ここへコピー - 項目を場所にコピーします。 ■ ここへリンクを作る - 項目へのシンボリックリンクを場所で作成します。 ■ 壁紙にセットする - 項目が画像の場合、画像を背景に設定します。このコマンドを使えば、デスクトップ、サイドペイン、またはビューペインの背景を設定できます。 ■ キャンセル - ドラッグ&ドロップ操作をキャンセルします。

ファイルまたはフォルダのプロパティの表示

次の表に、ファイルやフォルダで表示または設定可能なプロパティの一覧を示します。実際に表示される情報は、オブジェクトのタイプに依存します。

プロパティ	説明
名前	ファイルまたはフォルダの名前。ここで名前を変更すると、「閉じる」のクリック時にファイルまたはフォルダの名前が変更されます。
種類	オブジェクトのタイプ(ファイルやフォルダなど)。
場所	オブジェクトのシステムパス。これは、オブジェクトがシステムルートを基準にしてコンピュータ上のどこにあるかを表します。
音量	フォルダが存在しているボリューム。これはフォルダの物理的な場所です(ハードディスクやCD-ROMドライブなど)。
空き容量	フォルダが存在しているメディアの空き容量。この値は、このフォルダにコピー可能なデータの最大量を表します。
MIME 型	ファイルのタイプの正式名。
更新日時	オブジェクトが最後に変更された日時。
アクセス日時	オブジェクトが最後に表示された日時。

▼ ファイルまたはフォルダのプロパティを表示する方法

- 1 プロパティを表示するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」 → 「プロパティ」 を選択します。
ファイルまたはフォルダのプロパティを示す「プロパティ」ダイアログが表示されます。
- 3 「閉じる」をクリックすると「プロパティ」ダイアログが閉じます。

アクセス権の変更

アクセス権は各ファイルやフォルダに割り当てられる設定で、ファイルまたはフォルダに対してユーザーがどのようなアクセスができるかが決まります。たとえば、自分のファイルをほかのユーザーが読み取って編集できるのか、それとも読み取れるだけで変更はできないアクセス権を付与するのかを決定できます。

各ファイルは特定のユーザーに属していて、所有者が属しているグループに関連付けられます。スーパーユーザー root は、システム上のすべてのファイルにアクセスできます。

3つのカテゴリのユーザーに対してアクセス権を設定できます。

- 所有者 - ファイルまたはフォルダを作成したユーザー
- グループ - 所有者が属しているユーザーグループ
- その他 - 以上に含まれないその他のすべてのユーザー

ユーザーカテゴリごとに異なるアクセス権を設定できます。それらのアクセス権レベルの動作は、次のようにファイルとフォルダとで異なります。

- 読み取り - ファイルを開くことができ、ディレクトリの内容を表示できます。
- 書き込み - ファイルを編集または削除でき、ディレクトリの内容を変更できます。
- 実行 - 実行可能ファイルをプログラムとして実行でき、ディレクトリに入ることができます。

▼ ファイルのアクセス権を変更する方法

- 1 変更するファイルを選択します。
- 2 「ファイル」 → 「プロパティ」を選択します。
項目のプロパティウィンドウが表示されます。
- 3 「アクセス権」タブをクリックします。
- 4 ファイルのグループを変更する場合は、ユーザーが属しているグループをドロップダウンリストから選択します。
- 5 所有者、グループ、その他のすべてのユーザーのそれぞれについて、次のファイルアクセス権の中から選択します。
 - なし - ファイルへのアクセスはできません。(所有者にはこれを設定できません。)
 - 読み込み専用 - ファイルを開いて内容を表示できますが、変更はできません。
 - 読み書き - ファイルへの通常のアクセスを許可します。開いて変更して保存できます。
- 6 ファイルをプログラムとして実行することを許可する場合は、「実行」を選択します。

▼ フォルダのアクセス権を変更する方法

- 1 変更するフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」 → 「プロパティ」を選択します。
項目のプロパティウィンドウが表示されます。
- 3 「アクセス権」タブをクリックします。

- 4 フォルダのグループを変更する場合は、ユーザーが属しているグループをドロップダウンセレクトから選択します。
- 5 所有者、グループ、その他のすべてのユーザーのそれぞれについて、次のフォルダアクセス権の中から選択します。
 - なし - フォルダへのアクセスはできません。(所有者にはこれを設定できません。)
 - 表示のみ - フォルダ内の項目を表示できますが、それらを開くことはできません。
 - アクセスのみ - フォルダ内の項目を開いて変更できます(それぞれのアクセス権がこれらの操作を許可している場合)。
 - 作成と削除 - 既存のファイルにアクセスできるほか、フォルダ内で新しいファイルを作成したりファイルを削除したりできます。

注- フォルダに含まれるすべての項目のアクセス権を設定するには、「ファイルのアクセス権」および「実行」プロパティを設定し、「これらの権限をフォルダー内の全てのファイルに適用する」をクリックします。

ファイルやフォルダへのメモの追加

次の方法でファイルまたはフォルダにメモを追加できます。

- 「プロパティ」ダイアログから
- サイドペインのメモから

▼ 「プロパティ」ダイアログを使ってメモを追加する方法

- 1 メモを追加するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。
項目の「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「メモ」タブをクリックします。
- 4 「メモ」タブでメモを入力します。
- 5 「閉じる」をクリックすると「プロパティ」ダイアログが閉じます。
ファイルまたはフォルダにメモエンブレムが追加されます。

注- メモテキストは「メモ」タブから削除できます。

▼ サイドペインの「メモ」を使ってメモを追加する方法

- 1 メモを追加するファイルまたはフォルダを表示ペインで開きます。
- 2 「表示」→「サイドペイン」を選択してサイドペインを表示します。
- 3 サイドペインの上部にあるドロップダウンリストから「メモ」を選択します。
- 4 サイドペインでメモを入力します。

表示ペインでファイルまたはフォルダにメモエンブレムが追加され、サイドペインにメモアイコンが追加されます。このアイコンをクリックするとメモを表示できます。

注- メモテキストは「メモ」タブから削除できます。

テンプレートを使用したドキュメントの作成

頻繁に作成するドキュメントからテンプレートを作成できます。たとえば、請求書を何度も作成する場合、空の請求書ドキュメントを作成し、ドキュメントを `invoice.doc` として `$HOME/Templates` フォルダに保存できます。

ファイルブラウザウィンドウからテンプレートフォルダにアクセスするには、「移動」→「テンプレート」を選択します。テンプレート名は、「ドキュメントの生成」メニューのサブメニュー項目として表示されます。

テンプレートフォルダ内にサブフォルダを作成することもできます。サブフォルダはメニューのサブメニューとして表示されます。テンプレートを共有することもできます。テンプレートフォルダから共有テンプレートを含むフォルダへのシンボリックリンクを作成します。

▼ テンプレートからドキュメントを作成する方法

- 1 新しいドキュメントを作成するフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」→「ドキュメントの生成」を選択するか、表示ペインの背景を右クリックして「ドキュメントの生成」を選択します。

使用可能なテンプレートの名前が、「ドキュメントの生成」メニューのサブメニュー項目として表示されます。

- 3 作成するドキュメント用のテンプレート名をダブルクリックします。
- 4 ドキュメントの名前を変更してから、適切なフォルダに保存します。

ブックマークの使用

頻繁に開くフォルダやその他の場所用のブックマークのリストを管理できます。

ブックマークは次の場所で一覧表示されます。

- 上部パネルの「場所」メニュー
- フォルダウィンドウの「場所」メニュー
- ファイルマネージャブラウザウィンドウの「ブックマーク」メニュー
- 「ファイルを開く」ダイアログのサイドペイン(ブックマークされた場所のいずれかに含まれるファイルをすばやく開けます)
- 「ファイルを保存」ダイアログの頻繁に使用される場所のリスト(ブックマークにある場所にファイルをすばやく保存できます)

ブックマークにある項目を開くには、項目をメニューから選択します。

ブックマークの追加または削除

ブックマークを追加するには、ブックマークするフォルダまたは場所を開き、「場所」→「ブックマークの追加」を選択します。

ファイルマネージャブラウザウィンドウを使用する場合は、「ブックマーク」→「ブックマークの追加」を選択します。

ブックマークを削除するには、ダイアログの左側でブックマークを選択し、「場所」→「ブックマークの編集」を選択してから、「削除」をクリックします。

▼ ブックマークを編集する方法

- 1 「場所」→「ブックマークの編集」を選択するか、ブラウザウィンドウで「ブックマーク」→「ブックマークの編集」を選択します。「ブックマークの編集」ダイアログが表示されます。
- 2 「ブックマークの編集」ダイアログの左側でブックマークを選択します。
- 3 次のようにブックマークの詳細を編集します。
 - 名前 - このテキストボックスを使用して、メニュー内でブックマークを識別する名前を指定します。
 - 場所 - このフィールドを使用して、ブックマークの場所を指定します。システム上のフォルダは `file:/// URI` を使用します。

ゴミ箱の使用

ゴミ箱とは、残しておく必要のなくなったファイルを保持しておく特殊なフォルダのことです。ゴミ箱内のファイルは、ゴミ箱を空にするまで完全には削除されません。

図 8-5 ゴミ箱アイコン



次の項目をゴミ箱に移動できます。

- ファイル
- フォルダ
- デスクトップオブジェクト

ファイルをゴミ箱から取り出す必要がある場合には、ゴミ箱の外に移動します。ゴミ箱を空にすると、内容が完全に削除されます。

ゴミ箱内の項目の表示

- ファイルブラウザウィンドウから「移動」→「ゴミ箱」を選択します。ゴミ箱の内容がウィンドウ内に表示されます。
- 空間ウィンドウから「場所」→「ゴミ箱」を選択します。ゴミ箱の内容がウィンドウ内に表示されます。
- デスクトップから、下部パネルのゴミ箱アプレットをクリックします。

ゴミ箱を空にする

- ファイルブラウザウィンドウから「ファイル」→「ゴミ箱を空にする」を選択します。
- デスクトップの下部パネルでゴミ箱アイコンを右クリックし、「ゴミ箱を空にする」を選択します。

注-ゴミ箱を空にすると、ゴミ箱内のファイルがすべて破棄されます。不要になったファイルだけがゴミ箱に含まれていることを確認してください。

間違っって削除してしまったファイルを復旧するのにタイムスライダが役立つ場合があります。タイムスライダの詳細については、[第7章「タイムスライダの使用」](#)を参照してください。

隠しファイルの表示

ファイルマネージャーでは、フォルダ内の一部のシステムファイルやバックアップファイルはデフォルトでは表示されません。これによって、それらが間違っって変更または削除される(コンピュータの動作が不安定になる場合があります)ことがなくなり、ホームフォルダなどの場所の煩雑さが低減されます。ファイルマネージャーでは次のものは表示されません。

- 隠しファイル(ファイル名がピリオド(.)で始まるもの)
- バックアップファイル(ファイル名がチルダ(~)で終わるもの)
- 特定フォルダの .hidden ファイルに記載されているファイル

特定フォルダ内の隠しファイルを表示または非表示にするには、「表示」→「隠しファイルを表示する」を選択します。常に隠しファイルを表示するようにファイルマネージャーを設定するには、「表示」設定を「隠しファイルとバックアップファイルを表示する」に設定します。詳細については、[114 ページの「ファイルマネージャーの設定」](#)を参照してください。

ファイルまたはフォルダを非表示にする

ファイルマネージャーでファイルまたはフォルダを非表示にするには、ファイルの名前がピリオド(.)文字で始まるように名前を変更するか、または .hidden という名前のテキストファイルを同じフォルダ内に作成し、それにその名前を追加します。

関連するファイルマネージャーウィンドウをリフレッシュして変更を確認するには、Ctrl+R を押します。

項目プロパティの使用

「アイテムのプロパティ」ウィンドウには、ファイルマネージャー内のファイル、フォルダ、またはその他の項目に関する情報が表示されます。このウィンドウを使えば次のことも行えます。

- 項目のアイコンを変更します。[108 ページの「ファイルまたはフォルダのアイコンを変更する方法」](#)を参照してください。
- 項目のエンブレムを追加または削除します。[109 ページの「ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する方法」](#)を参照してください。

- 項目のUNIXファイルアクセス権を変更します。100ページの「アクセス権の変更」を参照してください。
- 項目および同じタイプのその他の項目を開くために使用するアプリケーションを選択します。
- 項目にメモを追加します。102ページの「「プロパティ」ダイアログを使ってメモを追加する方法」を参照してください。

▼ 「アイテムのプロパティ」ウィンドウを表示する方法

- 1 プロパティを検査または変更する項目を選択します。
複数の項目を選択した場合、「プロパティ」ウィンドウには、すべての項目に共通のプロパティが表示されます。
- 2 次のいずれかの方法を使ってダイアログを表示します。
 - 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。
 - 選択した項目を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
 - Alt+Return を押します。

ファイルやフォルダの外観の変更

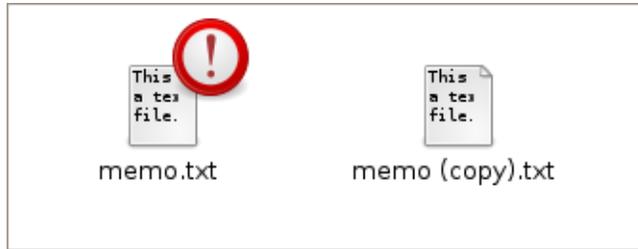
ファイルやフォルダが見え方は、エンブレムや背景をそれらに関連付けることでカスタマイズできます。これらの項目がファイルマネージャーで表示される形式を変更することもできます。

アイコンとエンブレムの使用

ファイルマネージャーでは、ファイルやフォルダはアイコンとして表示されます。アイコンはファイルの種類に応じて、ファイルタイプの画像表現、小さなサムネイル、またはファイル内容を表示するプレビューになります。

ファイルやフォルダのアイコンにエンブレムを追加することもできます。そのようなエンブレムはファイルアイコンと一緒に表示され、もう1つのファイル管理手段を提供します。たとえば次の図に示すように、「重要」エンブレムを追加すれば、ファイルが重要であることを示せます。

図8-6 アイコンとエンブレム



エンブレムの追加方法の詳細については、[109 ページ](#)の「[ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する方法](#)」を参照してください。

ファイルマネージャーは、次のタイプのファイルにエンブレムを自動的に適用しません。

- シンボリックリンク
- 次のアクセス権を持つ項目:
 - 読み取りアクセス権なし
 - 書き込みアクセス権なし

次の表ではデフォルトエンブレムについて説明します。

デフォルトエンブレム	説明
	シンボリックリンク
	書き込みアクセス権なし
	読み取りアクセス権なし

▼ ファイルまたはフォルダのアイコンを変更する方法

- 1 変更するファイルまたはフォルダを選択します。
- 2 「ファイル」 → 「プロパティ」を選択します。
項目の「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「基本」タブで現在のアイコンをクリックします。
「アイコンの選択」ダイアログが表示されます。
- 4 ファイルまたはフォルダを表すアイコンを選択します。

- 5 「閉じる」をクリックすると「プロパティ」ダイアログが閉じます。

注-アイコンをカスタムアイコンからデフォルトアイコンに戻すには、変更するファイルまたはフォルダを選択し、「アイコンの選択」ダイアログで「戻す」をクリックします。

▼ ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する方法

- 1 エンブレムを追加する項目を選択します。
- 2 項目を右クリックして「プロパティ」を選択します。
項目のプロパティウィンドウが表示されます。
- 3 「エンブレム」タブをクリックして「エンブレム」タブの内容を表示します。
- 4 項目に追加するエンブレムを選択します。
- 5 「閉じる」をクリックしてプロパティダイアログを閉じます。

ヒント-ブラウザウィンドウでは、エンブレムサイドペインからドラッグすることでエンブレムを項目に追加することもできます。

▼ 新しいエンブレムを作成する方法

- 1 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。
- 2 「エンブレム」をクリックしてから、「新しいエンブレムの追加」をクリックします。
「新しいエンブレムの作成」ダイアログが表示されます。
- 3 「キーワード」テキストボックスにエンブレムの名前を入力します。
- 4 「画像」をクリックします。
表示されたダイアログで「参照」をクリックします。
- 5 エンブレムを選択し、「OK」をクリックします。
- 6 「了解」をクリックします。

背景の変更

ファイルマネージャーに含まれる背景パターンとエンブレムを使って、フォルダの外観を変更できます。背景パターンとエンブレムは、デスクトップ、フォルダ、ファイルブラウザ内の特定のサイドペイン、およびパネルでも使用できます。

▼ ウィンドウ、ペイン、またはパネルの背景を変更する方法

- 1 ファイルマネージャーウィンドウで「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。
「背景とエンブレム」ダイアログが表示されます。
- 2 「パターン」ボタンまたは「色」ボタンをクリックします。
背景パターンまたは背景色のリストが表示されます。
- 3 (オプション)新しいパターンまたは色をリストに追加します。
 - 新しいパターンを追加するには:
 - a. 「新しいパターンの追加」ボタンをクリックします。
 - b. ファイルの選択ダイアログで画像ファイルを探し、「開く」をクリックします。
その画像が、使用できるパターンのリスト内に表示されます。
 - 新しい色をリストに追加するには:
 - a. 「新しい色の追加」ボタンをクリックします。
 - b. 色の選択ダイアログから色を選択し、「OK」をクリックします。
その色が、使用できる色のリスト内に表示されます。
- 4 背景を変更する場合は、パターンまたは色を目的のウィンドウ、ペイン、またはパネルにドラッグします。背景をリセットする場合は、「リセット」エントリを目的のウィンドウ、ペイン、またはパネルにドラッグします。

リムーバブルメディアの使用

ファイルマネージャーにリムーバブルメディアが表示されると、マウントしたり、ファイルマネージャーウィンドウを開いて内容を表示したり、処理できる適切なアプリケーション(オーディオCD用のミュージックプレイヤーなど)を実行したりなど、さまざまな操作を開始できます。さまざまなメディア形式でこれらの操作を構成する方法については、120ページの「メディア」を参照してください。

メディアのマウント

メディアのマウントとは、メディアのファイルシステムにアクセスできるようにすることです。メディアをマウントすると、メディアのファイルシステムが自分のファイルシステムにサブディレクトリとして接続されます。

メディアをマウントするには、メディアを適切なデバイスに挿入します。メディアを表すアイコンがデスクトップに追加されます。アイコンは、メディア検出時にデバイスを自動的にマウントするようにシステムが構成されている場合にのみ追加されます。

デバイスを自動的にマウントするようにシステムが構成されていない場合は、デバイスを手動でマウントする必要があります。

▼ デバイスを手動でマウントする方法

- 1 上部パネルのメニューバーから「場所」→「コンピュータ」を選択します。「コンピュータ」ダイアログが表示されます。
- 2 メディアを表すアイコンをダブルクリックします。たとえば、**CD-ROM**をマウントするには、**CD-ROM**アイコンをダブルクリックします。メディアを表すアイコンがデスクトップに追加されます。

注-リムーバブルメディアアイコンの名前は変更できません。

メディアの内容の表示

メディアの内容は次の方法で表示できます。

- デスクトップでメディアを表すアイコンをダブルクリックします。
- デスクトップでメディアを表すアイコンを右クリックし、「開く」を選択します。

ファイルマネージャーウィンドウにメディアの内容が表示されます。再読み込みを行うには、「再読み込み」をクリックします。

メディアのプロパティの表示

リムーバブルメディアのプロパティを表示するには、デスクトップでメディアを表すアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。ダイアログにメディアのプロパティが表示されます。

プロパティダイアログを閉じるには、「閉じる」をクリックします。

メディアの取り出し

メディアを取り出すには、デスクトップでメディアのアイコンを右クリックし、「取り出す」を選択します。メディアのドライブが電動式ドライブの場合、ドライブからメディアが取り出されます。メディアのドライブが電動式でない場合は、メディアのデスクトップアイコンが消えるまで待つてから、メディアを手動で取り出します。

注-メディアがマウントされているときは、メディアを電動式ドライブから取り出すことはできません。

▼ **USB フラッシュドライブを取り出す方法**

リムーバブルメディアは、取り出す前にマウントを解除する必要があります。USB フラッシュドライブのマウントを解除する前にフラッシュドライブを取り出さないでください。先にメディアのマウントを解除しない場合、データが失われる可能性があります。

- 1 **USB** ドライブにアクセスするファイルマネージャーウィンドウ、端末ウィンドウ、およびその他のウィンドウをすべて閉じます。
- 2 デスクトップでドライブを表すアイコンを右クリックし、「取り出す」を選択します。
ドライブのデスクトップアイコンがディスプレイから消えます。
- 3 **USB** フラッシュドライブを取り出します。

リモートサーバーのナビゲーション

ファイルマネージャーは、ファイル、アプリケーション、FTP サイト、Windows 共有、WebDav サーバー、および SSH サーバーへの統合アクセスポイントを提供します。

リモートサーバーへのアクセス

リモートサーバーが FTP サイト、Windows 共有、WebDav サーバー、SSH サーバーのいずれであっても、ファイルマネージャーを使ってアクセスできます。

リモートサーバーにアクセスするには、「ファイル」→「サーバーへ接続」を選択します。このダイアログには、メニューバーから「場所」→「サーバーへ接続」を選択することによってもアクセスできます。

リモートサーバーに接続するには、まずサービスタイプを選択し、次にサーバーのアドレスを入力します。必要に応じて、次のオプション情報を入力できます。

ポート	サーバー上の接続先ポート。デフォルトのポートを使用しない場合は、この設定を使用する必要があります。これは通常空のままにします。
フォルダ	サーバーへの接続時に開くフォルダ。
ユーザー名	サーバーへの接続に使用されるアカウントのユーザー名。この値は接続情報とともに提供されます。ユーザー名情報は、公共 FTP 接続では適切ではありません。
接続に使用する名前	ファイルマネージャーで表示される接続の名前。
共有	目的の Windows 共有の名前。この設定は Windows 共有にのみ適用されません。
ドメイン名	Windows ドメイン。この設定は Windows 共有にのみ適用されます。

サーバー情報が URI の形式で提供される場合や特殊化された接続が必要な場合は、サービスタイプとして「その他」を選択します。

情報の入力完了したら、「接続」をクリックします。接続が成功すると、サイトの内容が表示され、リモートサーバーとの間でファイルをドラッグ&ドロップできます。

ネットワーク上の場所へのアクセス

ネットワーク上の場所にアクセスするようにシステムが構成されている場合、ファイルマネージャーを使ってネットワーク上の場所にアクセスできます。

ネットワーク上の場所へアクセスするには、ファイルマネージャーを開いて「場所」→「ネットワーク」を選択するか、ブラウザウィンドウで「移動」→「ネットワーク」を選択します。アクセス可能なネットワークがウィンドウ内に表示されます。アクセスするネットワークをダブルクリックします。

UNIX 共有にアクセスするには、UNIX ネットワーク (NFS) オブジェクトをダブルクリックします。使用可能な UNIX 共有のリストがファイルマネージャーウィンドウに表示されます。

Windows 共有にアクセスするには、Windows ネットワーク (SMB) オブジェクトをダブルクリックします。使用可能な Windows 共有のリストがファイルマネージャーウィンドウに表示されます。

特殊な URI 場所へのアクセス

ファイルマネージャーには、ファイルマネージャーから特定の機能にアクセスできる、特殊な URI 場所が用意されています。これらの場所は上級ユーザー向けです。ほとんどの場合、機能または場所へアクセスするためのより簡単な方法が存在します。

ネットワーク上の場所へアクセスするようにシステムが構成されている場合、ファイルマネージャーで特殊な URI 場所 `network:///` を使って、接続可能なネットワークの場所を表示できます。ネットワークの場所へアクセスするには、そのネットワークの場所をダブルクリックします。この URI を使ってネットワークの場所をシステムに追加することもできます。113 ページの「ネットワーク上の場所へのアクセス」も参照してください。

ファイルマネージャーの設定

ファイルマネージャーをカスタマイズするには、「ファイル管理の設定」ダイアログを使用します。

「ファイル管理の設定」ダイアログを表示するには、「編集」→「設定」を選択します。このダイアログには、上部パネルのメニューバーから直接アクセスすることもできます（「システム」→「設定」→「ファイル管理」を選択）。

次のカテゴリの設定を行えます。

- 表示のデフォルト設定
- ファイルやフォルダ、実行可能テキストファイル、およびゴミ箱の動作
- アイコンキャプションに表示される情報と日付書式
- リストビューに表示される列とそれらの順番
- ファイルマネージャーのパフォーマンスを改善するためのプレビューオプション
- リムーバブルメディアや接続済みデバイスの処理方法

表示

デフォルトビューを指定し、ソートオプションや表示オプションを選択できます。アイコンビューやリストビューのデフォルト設定も指定できます。

デフォルトの表示設定を指定するには、「編集」→「設定」を選択します。「表示」タブをクリックします。次の表に、変更可能な表示設定の一覧を示します。

表 8-9 表示設定

ダイアログ要素	説明
新しいフォルダの表示形式	フォルダのデフォルトビューを決定します。フォルダを開くと、選択されたビューでフォルダが表示されます: アイコンビュー、リストビュー、コンパクトビュー (アイコンビューの一種。行ではなく列で構成される)。
アイテムの並び替え	このビューで表示されるフォルダ内の項目をソートする際の特長。
隠しファイルとバックアップファイルを表示する	フォルダ内に表示されないファイルを表示します。隠しファイルの詳細については、 106 ページの「隠しファイルの表示」 を参照してください。
デフォルトのズームレベル (アイコンビュー、コンパクトビュー、リストビューの各セクション)	このビューで表示されるフォルダのデフォルトズームレベルを設定します。ズームレベルによって、ビュー内での項目のサイズが決まります。
コンパクトな配置にする	アイコンビューで、フォルダ内の項目が互いに近くなるように項目を並べます。
アイコンの横にラベル	項目のアイコンキャプションを、アイコンの下ではなくアイコンの横に配置します。
全ての列を同じ幅にする	コンパクトビューで、すべての列の幅が同じになるようにします。
フォルダのみ表示する	サイドペインのツリーでフォルダのみを表示するには、このオプションを選択します。

動作

ファイルやフォルダの設定を行うには、「編集」→「設定」を選択します。「動作」タブをクリックします。次の表で説明する設定を行えます。

表 8-10 動作設定

ダイアログ要素	説明
シングルクリックでアイテムを開く	項目のクリック時に、項目のデフォルト操作を実行します。このオプションが選択されているときに項目をポイントすると、項目のタイトルに下線が表示されます。
ダブルクリックでアイテムを開く	項目のダブルクリック時に、項目のデフォルト操作を実行します。
各フォルダをそれぞれ別のウィンドウで開く	ブラウザモードではなく空間モードにデフォルトを設定します。空間モードでは、ファイルやフォルダをそれぞれ別のウィンドウ内のオブジェクトとして参照できます。それ以外の場合、ファイルやフォルダを同じウィンドウ内のオブジェクトとしてナビゲートする必要があります。
クリックしたら実行する	実行可能テキストファイルが選択されたときに、ファイルを実行します。実行可能テキストファイルとは、実行可能なテキストファイル、つまりシェルスクリプトのことです。
クリックしたら中身を表示する	実行可能テキストファイルが選択されたときに、内容を表示します。
毎回確認する	実行可能テキストファイルが選択されたときに、ダイアログを表示します。ダイアログは、ファイルを実行するか表示するかを尋ねます。
ゴミ箱を空にする/ファイルを削除する前に確認する	ゴミ箱が空にされるかファイルが削除される前に、確認メッセージを表示します。
ゴミ箱を経由しないで削除する	<p>「削除」メニュー項目を次のメニューに追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「編集」メニュー ■ ファイル、フォルダ、またはデスクトップオブジェクトを右クリックした際に表示されるポップアップメニュー <p>項目を選択してから「削除」を選択すると、項目がファイルシステムから削除されます。削除されたファイルは復旧できません。</p>

表示

アイコンビューでは、ファイルまたはフォルダの名前がアイコンタイトルに表示されます。アイコンタイトルには、ファイルまたはフォルダに関する3つの追加情報項目も含まれます。追加情報はファイル名のあとに表示されます。表示される情報項目は通常1つだけですが、アイコンを拡大するとほかの情報も表示されます。アイコンタイトルに表示する追加情報は変更できます。

アイコンタイトルの設定を行うには、「編集」→「設定」を選択します。「表示」タブをクリックします。

アイコンタイトルに表示する情報項目を、3つのドロップダウンリストから選択します。次の表では、選択可能な情報項目について説明します。

情報	説明
なし	項目の情報を表示しません。
サイズ	項目のサイズを表示します。
種類	項目の MIME タイプの説明を表示します。
変更日時	項目の最終変更日付を表示します。
アクセス日	項目が最後にアクセスされた日付を表示します。
所有者	項目の所有者を表示します。
グループ	項目が属しているグループを表示します。
アクセス権	項目のアクセス権を、-rwxrw-r--のように3セットの3文字として表示します。
8進数表記のアクセス権	項目のアクセス権を、764のような8進数表記で表示します。
MIME 型	項目の MIME 型を表示します。
場所	項目の絶対 UNIX パス名を表示します。
元に戻す	項目がタイムスライダを使って ZFS スナップショット内で表示された場合に、項目がファイルシステム上に存在しているかどうかを示し、内容が変更されているかどうかを確認します。

日付の「書式」オプションでは、ファイルマネージャー全体での日付の表示方法を選択できます。

一覧の項目

ファイルマネージャーウィンドウのリストビューに表示される情報を指定できます。リストビューに表示される列と、それらの列が表示される順番を指定できます。

一覧の列の設定を行うには、「編集」→「設定」を選択します。「一覧の項目」タブをクリックします。

リストビューに表示する列を指定するには、列に対応するオプションを選択してから、「表示」をクリックします。リストビューから列を削除するには、列に対応するオプションを選択してから、「隠す」をクリックします。

リストビュー内での列の位置を指定するには、「上へ移動」ボタンと「下へ移動」ボタンを使用します。デフォルトの列と列位置を使用するには、「デフォルトに戻す」をクリックします。

次の表では、表示可能な列について説明します。

情報	説明
名前	項目の名前を表示します。
サイズ	項目のサイズを表示します。
種類	ファイルタイプとプログラムの設定ツールから項目の MIME 型の説明を表示します。
変更日時	項目の最終変更日付を表示します。
アクセス日	項目が最後にアクセスされた日付を表示します。
グループ	項目が属しているグループを表示します。
MIME 型	項目の MIME 型を表示します。
8 進数表記のアクセス権	項目のアクセス権を、764 のような 8 進数表記で表示します。
所有者	項目の所有者を表示します。
アクセス権	項目のアクセス権を、-rwxrw-r-- のように 3 セットの 3 文字として表示します。
情報の復元	項目がタイムスライダを使って ZFS スナップショット内で表示された場合に、項目がファイルシステム上に存在しているかどうかを示し、内容が変更されているかどうかを確認します。

プレビュー

ファイルマネージャーにはいくつかのファイルプレビュー機能が含まれています。プレビュー機能は、ファイルマネージャーがリクエストに応答する速度に影響を与える場合があります。ファイルマネージャーの速度を改善するために、これらの機能のいくつかの動作を変更できます。プレビュー設定ごとに次のいずれかのオプションを選択できます。

常に	ローカルファイル、ほかのファイルシステム上のファイルの両方で、操作を実行します。
ローカルファイルのみ	ローカルファイルのみで操作を実行します。
しない	操作を実行しません。
ZFS スナップショットのスケジュールを視覚化する	「表示」→「元に戻す」メニュー項目を使って、フォルダの過去のスナップショットをファイルマネージャーウィンドウに表示できるかどうかを指定します。

プレビュー設定を行うには、「編集」→「設定」を選択します。「プレビュー」タブをクリックします。

次の表に、変更可能なプレビュー設定の一覧を示します。

表 8-11 プレビュー設定

ダイアログ要素	説明
アイコン内のテキスト表示	ファイルを表すアイコン内にテキストファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。
サムネイルの表示	画像ファイルのサムネイルをいつ表示するかを指定します。ファイルマネージャーは、ユーザーのホームフォルダ内の <code>.thumbnails</code> ディレクトリ内に、各フォルダのサムネイルファイルを格納します。
ファイルの最大サイズ	ファイルマネージャーがサムネイルを作成するファイルの最大ファイルサイズを指定します。
サウンドファイルの演奏	サウンドファイルをいつプレビューするかを指定します。
アイテム数のカウント	フォルダ内の項目数をいつ表示するかを指定します。アイコンビューでは、各フォルダ内の項目数を表示するためにズームレベルを上げる必要がある場合があります。

メディア

リムーバブルメディアやコンピュータに接続されたデバイス(ミュージックプレイヤーやカメラなど)をファイルマネージャーがどのように扱うかを構成できます。ファイルマネージャーはメディア形式またはデバイスタイプごとに、その形式をサポートすることがわかっているアプリケーションのいずれかを実行しようとし、次のオプションを提供します。

オプション	説明
どうするか確認	メディアやデバイスが表示されたときに、必要な操作を確認します。
何もしない	何もしません。
フォルダを開く	メディアやデバイスを通常のフォルダのようにみなし、ファイルマネージャーウィンドウで開きます。
別のアプリケーションで開きます	実行するアプリケーションを選択できるファイルマネージャーアプリケーション選択ダイアログを表示します。メディアまたはデバイスを扱えることがわかっているアプリケーションをドロップダウンリストから直接選択できます。

ほとんどの一般的なメディア形式は「メディアの取り扱い」セクションで構成できます: オーディオ CD、ビデオ DVD、ミュージックプレイヤー、カメラ、およびソフトウェア CD。

ほかのメディア形式の取り扱いを構成するには、まず形式を「種類」ドロップダウンリストで選択してから、その形式に必要な処理を「アクション」ドロップダウンリストで選択します。

次の表に、変更可能なほかのメディア処理設定の一覧を示します。

表 8-12 メディア設定

ダイアログ要素	説明
メディアを挿入してもプログラムを起動したり問い合わせをしない	メディアまたはデバイスが表示されたときに、ファイルマネージャーはダイアログを表示したりプログラムを実行したりしません。このオプションを選択すると、特定のメディア形式を取り扱う設定は無視されます。
メディアを挿入したら閲覧する	メディアが挿入されるとファイルマネージャーは自動的にフォルダを開きます。この設定は、取り扱いが明示的に構成されていないメディア形式にのみ適用されます。

ファイルマネージャーの拡張

ファイルマネージャーは主に2つの方法で拡張できます。ファイルマネージャーの拡張とスクリプトです。

スクリプト

ファイルマネージャーでは、コンピュータ上で実行できるスクリプト言語で記述されたスクリプトを実行できます。スクリプトは通常、完全なファイルマネージャー拡張よりも動作が単純です。スクリプトを実行するには、「ファイル」→「スクリプト」を選択してから、実行するスクリプトをサブメニューから選択します。

特定のファイルでスクリプトを実行するには、ファイルを表示ペインで選択します。「ファイル」→「スクリプト」を選択してから、ファイルで実行するスクリプトをサブメニューから選択します。スクリプトを実行するファイルを複数選択することもできます。コンテキストメニューからスクリプトにアクセスすることもできます。

注-スクリプトをインストールしていない場合、スクリプトメニューは表示されません。

ファイルマネージャースクリプトのインストール

ファイルマネージャーには、スクリプトを格納できる特殊なフォルダが含まれています。このフォルダ内のすべての実行可能ファイルが「スクリプト」メニューに表示されます。スクリプトフォルダは、`$HOME/.gnome2/nautilus-scripts`にあります。

スクリプトをインストールするには、スクリプトフォルダにスクリプトをコピーし、ユーザーに実行可能アクセス権を割り当てます。

スクリプトフォルダの内容を表示するには、「ファイル」→「スクリプト」→「このフォルダを開く」を選択します。スクリプトがまだない場合は、ファイルマネージャーを使ってスクリプトフォルダにナビゲートします。スクリプトを表示するために隠しファイルを表示する必要がある場合には、「表示」→「隠しファイルを表示する」を選択します。

ファイルマネージャースクリプトの記述

ローカルフォルダから実行すると、選択されたファイル名がスクリプトに渡されます。リモートフォルダから実行すると、スクリプトにパラメータは渡されません。

次の表に、スクリプトに渡される変数を示します。

環境変数	説明
NAUTILUS_SCRIPT_SELECTED_FILE_PATHS	選択されたファイルの改行区切りのパス (ローカルの場合のみ)
NAUTILUS_SCRIPT_SELECTED_URIS	選択されたファイルの改行区切りの URI
NAUTILUS_SCRIPT_CURRENT_URI	現在の場所の URI
NAUTILUS_SCRIPT_WINDOW_GEOMETRY	現在のウィンドウの位置とサイズ

拡張

ファイルマネージャー拡張はシステム管理者によってインストールされます。

一般的なファイルマネージャー拡張をいくつか示します。

- `nautilus-actions` - ファイルタイプに基づいて操作を割り当てることができます。
- `nautilus-send-to` - 電子メール、インスタントメッセージ、または Bluetooth を使ってファイルまたはフォルダを別の場所に送信するための単純な方法を提供します。
- `nautilus-open-terminal` - 選択された開始場所で端末を開くための簡単な方法を提供します。

注 - `Open Terminal` コマンドを使用するには、`nautilus-open-terminal` 拡張をインストールする必要があります。

デスクトップツールおよびユーティリティの使用

この章では、Oracle Solaris デスクトップの一部のツールおよびユーティリティについて説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 123 ページの「アプリケーションの実行」
- 124 ページの「スクリーンショットを撮る」
- 125 ページの「Yelp ヘルプブラウザの概要」

アプリケーションの実行

「アプリケーションの実行」ダイアログでは、コマンド行にアクセスできません。「アプリケーションの実行」ダイアログでコマンドを実行すると、コマンドからの出力は受け取れません。

▼ コマンド行からアプリケーションを実行する方法

1 次のいずれかの方法で、「アプリケーションの実行」ダイアログを開きます。

- **Meta+R** または **Alt+F2** を押します。
「アプリケーションの実行」ダイアログを表示するショートカットキーは「キーボードショートカット」設定ツールで変更できます。
- 「アプリケーションの実行」ボタンをパネルに追加してある場合は、ボタンをクリックします。

「アプリケーションの実行」ダイアログが表示されます。

- 2 実行するコマンドを入力するか、または既存のアプリケーション一覧から選択します。

ファイルの場所のみを入力した場合は、開くのに適したアプリケーションが起動します。Web ページのアドレスを入力した場合は、デフォルトの Web ブラウザでページが開きます。Web ページのアドレスには、<http://www.oracle.com> のように `http://` 接頭辞を付けます。

前に実行したコマンドを選択するには、コマンドフィールドの横にある下矢印ボタンをクリックし、コマンドを選択します。「ファイルを引数として実行」ボタンを使用して、コマンド行に追加するファイルを選択することもできます。たとえば、コマンドとして「`emacs`」を入力してから、編集するファイルを選択できます。

- 3 (オプション) 「端末内で実行する」オプションを選択すると、アプリケーションまたはコマンドが端末ウィンドウで実行されます。

実行時にウィンドウを作成しないアプリケーションまたはコマンドの場合は、このオプションを選択します。

- 4 「アプリケーションの実行」ダイアログで「実行」をクリックします。

スクリーンショットを撮る

スクリーンショットは、次のいずれかの方法で撮ることができます。

- パネルに「スクリーンショットの取得」ボタンを追加してある場合は、ボタンをクリックすると、画面全体のスクリーンショットが撮影されます。
- 次のいずれかのショートカットキーを使用します。
 - Print Screen - 画面全体のスクリーンショットを撮ります。
 - Alt+Print Screen - 有効になっているアクティブウィンドウのスクリーンショットを撮ります。

「キーボードショートカット」設定ツールを使用すると、デフォルトのショートカットキーを変更できます。

- メニューバーから「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「スクリーンショットの取得」を選択します。
- 端末ウィンドウで、`gnome-screenshot` コマンドを入力します。`gnome-screenshot` コマンドは、画面全体のスクリーンショットを撮ってから、スクリーンショットを保存できるように「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示します。
`gnome-screenshot` コマンドには、次の表で説明するオプションがあります。

オプション	機能
-window	フォーカスのあるウィンドウのスクリーンショットを撮ります。
-delay=seconds	指定した秒数後にスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示します。スクリーンショットを保存する場合は「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用してください。
-include-border--	ウィンドウ境界を含むスクリーンショットを撮ります。
-remove-border--	ウィンドウ境界を含まないスクリーンショットを撮りません。
-border-effect=shadow--	スクリーンショットを撮り、その周囲に影のベベル効果を追加します。
-border-effect=border--	スクリーンショットを撮り、その周囲に枠効果を追加します。
-interactive--	スクリーンショットを撮る前に、オプションを設定するウィンドウを開きます。
-help	コマンドのオプションを表示します。

スクリーンショットを画像ファイルとして保存するには、スクリーンショットのファイル名を入力し、ドロップダウンリストから場所を選択し、「保存」をクリックします。「クリップボードにコピーする」を使用して画像をクリップボードにコピーしたり、ドラッグ&ドロップを使用して別のアプリケーションに転送したりすることもできます。

Yelp ヘルプブラウザの概要

Yelp ヘルプブラウザアプリケーションを使用すると、GNOME およびその他のコンポーネントに関するドキュメントをさまざまな形式で表示できます。これらの形式には、docbook ファイル、HTML ヘルプページ、マニュアルページ、info ページなどがあります(マニュアルページおよび info ページのサポートは、オプションでコンパイルされることがあります)。Yelp は、元のドキュメント形式とは関係なく、統一された見た目と使い心地を提供することを心がけています。

Yelp ヘルプブラウザは国際化されているため、さまざまな言語のドキュメントの表示がサポートされています。ドキュメントは、各言語にローカライズまたは翻訳されて、Yelp ヘルプブラウザで表示できるようにインストールされる必要があります。

Yelp ヘルプブラウザは次のいずれかの方法で起動できます。

- 「システム」 → 「ヘルプ」 を選択します。

- コマンド行で、「yelp」と入力します。

Yelp ヘルプブラウザのインタフェース

ブラウザペインには、目次またはドキュメントが表示されます。目次を使用して必要なドキュメントに移動します。

Yelp ヘルプブラウザには、次の表で説明する要素が含まれます。

メニューバー

ファイル	このメニューを使用して、新規ウィンドウを開いたり、「このドキュメントについて」ページを表示したり、現在のドキュメントを出力したり、ウィンドウを閉じたりします。
編集	このメニューを使用して、コピー、選択、検索したり、設定を行ったりします。
ジャンプ	このメニューを使用して、前後に移動したり、「ヘルプトピック」ページに移動したりします。docbookドキュメントを表示するときは、このメニューを使用して次のセクション、前のセクション、またはコンテンツページへ移動します。
ブックマーク	このメニューを使用して、ブックマークを追加または編集します。
ヘルプ	Yelp ヘルプブラウザ、およびプロジェクトの貢献者に関する情報を「情報」メニュー項目から表示します。このドキュメントは、「目次」メニュー項目から、またはF1を押すことで開きます。

ツールバー

戻る	ドキュメントの履歴を戻ります。
進む	ドキュメントの履歴を進みます。
ホーム	メイン目次に戻ります。
検索	特定の単語または語句について、すべてのデスクトップヘルプドキュメントを検索します。

Yelp の操作

Yelp を使用すると、次の操作を実行できます。

- ドキュメントを開きます
- ドキュメントを検索します
- ドキュメントの「このドキュメントについて」ページを表示します

- ページまたはドキュメントを出力します
- ドキュメントを操作するための設定を行います
- ブックマークを追加および編集します

▼ GUI を使用してドキュメントを開く方法

- 次のいずれかの方法を使用して、Yelp ヘルプブラウザでドキュメントを開きます。
 - アプリケーションで、「ヘルプ」→「目次」を選択し、目次を使用して目的のドキュメントに移動します。
 - DocBook XML ファイルをファイルマネージャーから Yelp ウィンドウまたはランチャーにドラッグします。
 - F1 を押します。

ヒント-現在開いている DocBook ドキュメントを読み込み直すには、Ctrl+R を押します。このキーの組み合わせを使用して、ドキュメントへの変更を行なっているときにそれらを表示できます。

ドキュメントの検索

このセクションでは、ドキュメントを検索する方法について説明します。

▼ 現在のページで検索する方法

- 1 「編集」→「検索」を選択するか、または Ctrl+F を押します。
検索バーは、ウィンドウの下部に表示されます。
- 2 検索バーの「検索」フィールドで、検索する単語または語句を入力し、Return を押します。
単語または語句がページで見つかった場合、最初のが強調表示されます。Return をもう一度押すと、次のものが強調表示されます。
- 3 (省略可能) 検索バーの「閉じる」をクリックすると閉じます。

▼ インデックスドキュメントを検索する方法

- 1 ツールバーの「検索」フィールドをクリックするか、または **Alt+S** を押します。
- 2 検索する単語または語句を入力し、**Return** を押します。
単語または語句が見つかったすべての一致ドキュメントのリストが表示されます。
- 3 ドキュメント名をクリックすると、一致するページが表示されます。
一致するページを表示したあとは、ツールバーの「戻る」ボタンをクリックすると検索結果のリストに戻ります。

▼ 新規ウィンドウを開く方法

- 1 「ファイル」 → 「新しいウィンドウ」 をクリックします。
- 2 **Ctrl+N** を押します。

▼ DocBook ドキュメントに関する情報を表示する方法

このオプションは、DocBook ドキュメントでのみ使用可能です。利用条件や商標およびドキュメント貢献者がこのセクションに一覧表示されます。

- 「ファイル」 → 「このドキュメントについて」 を選択すると、現在開いているドキュメントに関する情報が表示されます。

▼ 現在のページを出力する方法

- 「ファイル」 → 「このページの印刷」 を選択すると、現在表示しているページが出力されます。

▼ DocBook ドキュメントを出力する方法

このオプションは、DocBook ドキュメントでのみ使用可能です。

- 「ファイル」 → 「このドキュメントの印刷」 をクリックすると、ドキュメント全体が出力されます。

▼ ウィンドウを閉じる方法

- 次のいずれかの方法でウィンドウを閉じることができます。
 - 「ファイル」 → 「閉じる」を選択します。
 - **Ctrl+W**を押します

▼ 設定を行う方法

- 「編集」 → 「設定」を選択します。
この「設定」ダイアログでは、次のオプションを使用できます。
 - システム・フォントを使用する - Oracle Solaris デスクトップで使用されるデフォルトフォントを使用してドキュメントを表示します。ドキュメントを表示するために独自のフォントを選択するには、このオプションを選択解除し、「可変幅」または「等幅」の横にあるボタンをクリックします。
 - 可変幅 - 幅が静的なまたは固定されたフォントが必要ないときはこのフォントを選択します。
 - 等幅 - すべてのテキスト文字を同じサイズにする必要があるときはこのフォントを選択します。このフォントは、コマンド、プログラムブロック、またはこれらのカテゴリに含まれるその他のテキストを示すために使用されます。
 - キャレットモードで閲覧する - ドキュメントを参照しているときにカーソルで位置を示す場合はこのオプションを選択します。

▼ ブックマークを追加する方法

- 1 「ブックマーク」 → 「ブックマークの追加」を選択するか、または **Ctrl+D**を押します。
「ブックマークの追加」ウィンドウが表示されます。
- 2 「タイトル」フィールドで目的のブックマークを入力します。
- 3 「追加」をクリックすると、ブックマークが追加されます。

▼ ブックマークを編集する方法

- 1 「ブックマーク」 → 「ブックマークの編集」を選択するか、または **Ctrl+B**を押します。
「ブックマーク」ウィンドウが表示されます。次のオプションがあります。

- 開く - 新規ウィンドウで選択したブックマークを開きます。
- 名前の変更 - ブックマークのタイトルを変更します。
- 削除 - コレクションからブックマークを削除します。

2 「閉じる」をクリックすると、「ブックマーク」ウィンドウが終了します。

▼ ヘルプを表示する方法

- 「ヘルプ」 → 「目次」を選択すると、Yelp ヘルプブラウザのオンラインヘルプが表示されます。

Yelp ヘルプブラウザのナビゲーション

Yelp ヘルプブラウザ内は次のようにナビゲートできます。

- ドキュメント履歴を戻すには:
 - 「ジャンプ」 → 「戻る」を選択します。
 - Alt+ 左矢印キーを押します。
 - ツールバーの「戻る」ボタンを使用します。
- ドキュメント履歴を進むには:
 - 「ジャンプ」 → 「進む」を選択します。
 - Alt+ 右矢印キーを押します。
 - ツールバーの「進む」ボタンを使用します。
- ヘルプトピックにジャンプするには:
 - 「ジャンプ」 → 「ヘルプのトピック」を選択します。
 - Alt+Home を押します。
 - ツールバーの「ヘルプのトピック」ボタンを使用します。
- 前のセクションにジャンプするには:
 - 「ジャンプ」 → 「前のセクション」を選択します。
 - Alt+上矢印キーを押します。
- 次のセクションに移動するには:
 - 「ジャンプ」 → 「次のセクション」を選択します。
 - Alt+ 下矢印キーを押します。

コマンド行からドキュメントを開く

Yelp ヘルプブラウザは、コマンド行からドキュメントを開くことをサポートしています。次のように、いくつかの URI (Uniform Resource Identifier) を使用できます。

◆◆◆ 10

第 10 章

デスクトップの構成

この章では、設定ツールを使って Oracle Solaris デスクトップをカスタマイズする方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 133 ページの「設定ツールについて」
- 137 ページの「「ルック&フィール」設定」
- 147 ページの「インターネットおよびネットワークの設定」
- 151 ページの「キーボードの設定」
- 159 ページの「ハードウェアの設定」
- 163 ページの「セッションの設定」

設定ツールについて

設定ツールを使用して Oracle Solaris デスクトップの設定を変更できます。各設定ツールはコンピュータの特定の側面をカバーします。たとえば「マウス」設定ツールでは、マウスを左利き用や右利き用に設定したり、画面上のポインタの速度を変更したりできます。「ウィンドウ」設定ツールでは、マウスでウィンドウを選択する方法など、すべてのウィンドウに共通の動作を設定できます。

設定ツールを開くには、上部パネルで「システム」→「設定」を選択します。サブメニューからツールを選択します。

わずかな例外を除き、設定ツール内の設定に対して行なった変更は、設定ツールを閉じなくても有効になります。設定ツールのウィンドウを開いた状態のまま、変更を試みたり、必要に応じてさらに変更を加えたりできます。

アプリケーションやシステムコンポーネントによっては、独自の設定ツールがこのメニューに追加される場合があります。

注-設定ツールによっては、システムの重要な部分を変更できるため、管理アクセス権が必要な場合があります。設定ツールを開くときにダイアログボックスが表示され、パスワードが要求されます。これらのツールは「システム」→「管理」サブメニュー内にあります。このメニューには、システムを管理および更新するための、より複雑なユーティリティーアプリケーションも含まれています。

このセクションでは、設定できる設定について説明します。それらの設定は次のとおりです。

- 支援技術の設定
- キーボードショートカットの設定
- お気に入りのアプリの設定

支援技術

「支援技術」設定ツールは、Oracle Solaris デスクトップの支援技術を有効化します。「支援技術」設定ツールを使用して、支援技術に関係する設定を含むほかの設定ツールを開くこともできます。

- お気に入りのアプリでは、ログイン時に自動的に起動する支援技術アプリケーションを指定できます。[136 ページの「お気に入りのアプリ」](#)を参照してください。
- キーボードアクセシビリティでは、スティッキーキー、スローキー、バウンスキーなどのキーボードアクセシビリティ機能を構成できます。[155 ページの「アクセシビリティ」](#)を参照してください。
- マウスアクセシビリティでは、自動クリックなどのマウスアクセシビリティ機能を構成できます。[167 ページの「マウスのアクセシビリティの設定」](#)を参照してください。

Oracle Solaris デスクトップの支援技術を有効にするには、「支援技術を有効にする」を選択します。このオプションを有効にしたあと、このオプションを完全に有効にするにはログアウトしてから再度ログインしてください。

キーボードショートカット

デフォルトのキーボードショートカットをカスタマイズするには、「キーボードショートカット」設定ツールを使用します。

キーボードショートカットとは、キーまたはキーの組み合わせで、操作を実行するための標準手段の代替手段を提供します。キーボードショートカットの詳細や Oracle Solaris デスクトップで使用されるデフォルトショートカットの一覧については、[付録 B 「キーボードの使用」](#)を参照してください。

キーボードショートカットは次のようにグループ化されています。

- デスクトップ - ログアウトしたり、画面をロックしたり、パネルメニューバーを開いたり、Web ブラウザを起動したりなど、デスクトップ全体に関するタスクのショートカット。
- サウンド - ミュージックプレイヤーやシステム音量を制御するためのショートカット。
- ウィンドウ管理 - 現在のウィンドウを最大化または移動したり、別のワークスペースに切り替えたりなど、ウィンドウやワークスペースを操作するためのショートカット。これらの種類の操作の詳細については、[24 ページの「ウィンドウの操作」](#) および [29 ページの「ワークスペースの概要」](#) を参照してください。
- アクセシビリティ - スクリーンリーダー、拡大鏡、オンスクリーンキーボードなどの支援技術を開始するためのショートカット。
- 独自のショートカット - 「追加」ボタンで追加したショートカット。独自のショートカットがない場合、このセクションは表示されません。

▼ 独自のショートカットを追加する方法

- 1 「システム」 → 「設定」 → 「キーボードショートカット」を選択します。
- 2 操作領域の「追加」ボタンをクリックします。
- 3 新しいショートカットの名前とコマンドを入力します。
新しい独自のショートカットがショートカットリストに表示され、事前定義済みショートカットと同じ方法で編集できます。

注 - 独自のショートカットを削除するには、「削除」ボタンを使用します。

▼ キーボードショートカットを編集する方法

- 1 「システム」 → 「設定」 → 「キーボードショートカット」を選択します。
- 2 リスト内で操作をクリックするか矢印キーを使ってショートカットを選択し、**Return**を押します。
- 3 操作に割り当てる新しいキーまたはキーの組み合わせを押します。
ショートカットを消去するには、Backspace を押します。操作が「無効」としてマークされます。

注-ショートカットの割り当てをキャンセルには、ウィンドウ内のどこかほかの場所をクリックするか、Escを押します。

お気に入りのアプリ

アプリケーションを起動するときにOracle Solaris デスクトップが使用するアプリケーションを指定するには、「お気に入りのアプリ」設定ツールを使用します。たとえば、ほかのアプリケーション(電子メールクライアントやドキュメントビューアなど)でリンクをクリックしたときに起動する Web ブラウザアプリケーション (Epiphany、Mozilla Firefox、または Opera) を指定できます。

この設定ツールにアクセスするには、「システム」→「設定」→「お気に入りのアプリ」を選択します。

「お気に入りのアプリ」設定ツールの設定は、次の機能領域でカスタマイズできます。

- インターネット (Web、電子メール)
- マルチメディア (マルチメディアプレーヤ)
- システム (端末)
- アクセシビリティ (視覚、移動性)

お気に入りアプリケーションのカテゴリごとに、表示されるアプリケーションのリストから選択できます。リストは、コンピュータにインストールされているアプリケーションに依存します。

各カテゴリのメニューの末尾の項目(「その他」)を使って、特定の起動操作が発生したときにシステムで使用されるコマンドをカスタマイズできます。次の表に、「その他」を選択したときに選択できる各種オプションをまとめます。

表 10-1 「その他」コマンドオプション

ダイアログ要素	説明
コマンド	カスタムアプリケーションを起動するために実行するコマンドを入力します。Web ブラウザやメールリーダーアプリケーションでは、コマンドのあとに %s を含めることで、クリックした URL や電子メールアドレスをアプリケーションが使用するよう指示できます。正確なコマンド引数は個々のアプリケーションによって異なります。
端末内で起動する	端末ウィンドウ内でコマンドを実行する場合は、このオプションを選択します。実行時にウィンドウを作成しないアプリケーションの場合は、このオプションを選択します。

表 10-1 「その他」 コマンドオプション (続き)

ダイアログ要素	説明
起動オプション (端末のみ)	ほとんどの端末アプリケーションには、残りのコマンドラインオプションを実行コマンドとして扱うオプションが用意されています (端末の場合は -x)。このオプションはここで入力してください。たとえば、選択したタイプが「端末内で起動する」であるランチャーのコマンドを実行するときに、この設定が使用されます。
ログインしたら起動する (アクセシビリティのみ)	セッションの開始後すぐにコマンドを実行するときは、このオプションを選択します。ほかのアクセシビリティオプションについては、『Oracle Solaris 11 デスクトップのアクセシビリティガイド』を参照してください。

「ルック&フィール」設定

このセクションでは、「外観」設定ツールを使ってデスクトップを構成する方法について説明します。

外観

「外観」設定ツールでは、デスクトップのさまざまな側面を構成できます。

- テーマ
- デスクトップ背景
- フォント
- 視覚効果

テーマ設定

テーマとは、Oracle Solaris デスクトップの一部の視覚的外観を指定する、調整済み設定のグループです。テーマを選択することで Oracle Solaris デスクトップの外観を変更できます。テーマを選択するには「テーマ」タブを使用します。使用可能なテーマのリストから選択でき、アクセシビリティを必要とするユーザー向けのテーマもいくつか含まれています。

テーマには「テーマのカスタマイズ」ウィンドウ内の設定が含まれ、次のように Oracle Solaris デスクトップのさまざまな部分に影響します。

- コントロール - 「コントロール」タブのコントロール設定は、ウィンドウ、パネル、およびアプレットの視覚的外観を決定します。コントロール設定は、ウィンドウ、パネル、およびアプレット上に表示されるインタフェース項目 (メニュー、アイコン、ボタンなど) の視覚的外観も決定します。使用可能なコントロール設定オプションの一部は、特殊なアクセシビリティ要件のために設計されています。コントロール設定のオプションは、「テーマのカスタマイズ」ウィンドウの「コントロール」タブから選択できます。

- 色-テーマの色設定(「色」タブ)は、各種ユーザーインタフェース要素の色を決定します。

注-色の組み合わせは互いにコントラストが適切になるように選択してください。そうしないとテキストが読みにくくなる場合があります。

- ウィンドウフレーム-「ウィンドウの境界」タブのウィンドウフレーム設定は、ウィンドウ周囲のフレームの外観のみを決定します。
- アイコン-「アイコン」タブのアイコン設定は、パネル上やデスクトップ背景上のアイコンの外観を決定します。
- ポインタ-「ポインタ」タブのポインタ設定は、マウスポインタの外観とサイズを決定します。

▼ カスタムテーマを作成する方法

「テーマ」タブに一覧表示されるテーマは、コントロールオプション、ウィンドウフレームオプション、およびアイコンオプションのさまざまな組み合わせです。コントロールオプション、ウィンドウフレームオプション、およびアイコンオプションのさまざまな組み合わせを使用してカスタムテーマを作成できます。

- 1 「システム」→「設定」→「外観」を選択します。
「テーマ」タブを開きます。
- 2 テーマのリストからテーマを選択します。
- 3 「カスタマイズ」をクリックします。
「テーマのカスタマイズ」ダイアログが表示されます。
- 4 カスタムテーマで使用するオプションを選択します。
オプションの詳細については、[137 ページの「テーマ設定」](#)を参照してください。
- 5 「閉じる」をクリックして「テーマのカスタマイズ」ダイアログを閉じます。
- 6 「外観」設定ツールで「別名で保存」をクリックします。
「テーマを別名で保存」ダイアログが表示されます。
- 7 ダイアログでカスタムテーマの名前と短い説明を入力してから、「保存」をクリックします。
使用可能なテーマのリストにカスタムテーマが表示されます。

▼ 新しいテーマをインストールする方法

使用可能なテーマのリストにテーマを追加できます。新しいテーマは、アーカイブファイル .tar.gz (tar および zip 済み) である必要があります。

- 1 「システム」→「設定」→「外観」を選択します。
「テーマ」タブを開きます。
- 2 「インストール」をクリックします。
ファイルの選択ダイアログが表示されます。
- 3 場所エントリにテーマアーカイブファイルの場所を入力するか、ファイルリストでテーマアーカイブファイルを選択します。「開く」をクリックします。
- 4 「インストール」をクリックして新しいテーマをインストールします。

▼ テーマオプションを削除する方法

コントロールオプション、ウィンドウフレームオプション、またはアイコンオプションを削除できます。

- 1 「システム」→「設定」→「外観」を選択します。
「テーマ」タブを開きます。
- 2 「カスタマイズ」をクリックします。
「テーマのカスタマイズ」ダイアログが表示されます。
- 3 削除するオプションタイプのタブをクリックします。
- 4 削除するテーマオプションを選択します。
- 5 「削除」をクリックすると選択したオプションが削除されます。

注-システム規模のテーマオプションは削除できません。

デスクトップ背景設定

デスクトップ背景とは、デスクトップに適用される画像または色のことです。「外観」設定ツールの「背景」タブは、デスクトップを右クリックして「デスクトップの外観」を選択することで、または「システム」→「設定」メニューから開けます。

デスクトップ背景は次の方法でカスタマイズできます。

- デスクトップ背景の画像を選択します。画像は、デスクトップ背景色の上に重ねられます。透明な画像を選択した場合や、画像がデスクトップ全体より大きくない場合は、デスクトップ背景色が見えます。
- デスクトップ背景の色を選択します。単色を選択したり、2つの色でグラデーション効果を作ったりできます。グラデーション効果とは、1つの色がもう1つの色に徐々にブレンドする視覚効果のことです。

注-ファイルマネージャーの「背景とエンブレム」ダイアログから色やパターンをデスクトップにドラッグすることもできます。

次の表に、変更可能な背景設定の一覧を示します。

表10-2 デスクトップ背景設定

ダイアログ要素	説明
デスクトップ背景	デスクトップ背景を決定します。リストから画像を選択するか、「追加」ボタンを使ってコンピュータ上で画像を選択します。
スタイル	<p>画像の表示方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中央-デスクトップの中央に画像を表示し、画像の元のサイズを維持します。 ■ 画面いっぱいに拡大-デスクトップいっぱいに画像を拡大し、必要に応じて比率を変更します。 ■ 拡大-画像を画面の端まで拡大し、画像の比率を維持します。 ■ ズーム-画像の短辺を画面の端まで拡大します。画像の長辺は切り取られる場合があります。 ■ タイル状-元のサイズの画像を必要に応じて複製し、それらの画像を並べてデスクトップ全体を埋めるように出力します。
追加	「追加」をクリックしてコンピュータ上の画像を参照します。目的の画像を選択し、「開く」をクリックします。
削除	削除する画像を選択してから「削除」をクリックします。使用可能な壁紙のリストから画像が削除されます。ただし、コンピュータからは画像は削除されません。

表 10-2 デスクトップ背景設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
色	<p>色のスキームを指定するには、「スタイル」ドロップダウンリストのオプションと色セレクトボタンを使用します。</p> <p>次の色スキームを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「単色」は、デスクトップ背景の単一色を指定します。 色を選択するには、「色」をクリックして色を選択してから、「了解」をクリックします。 ■ 「横方向にグラデーション」は、画面左端から画面右端へのグラデーション効果を作ります。 左の色のアイコンをクリックし、左端に表示する色を選択します。 右の色のアイコンをクリックし、右端に表示する色を選択します。 ■ 「縦方向にグラデーション」は、画面上端から画面下端へのグラデーション効果を作ります。 上の色のアイコンをクリックし、上端に表示する色を選択します。 下の色のアイコンをクリックし、下端に表示する色を選択します。

フォント設定

デスクトップのさまざまな部分でどのフォントが使用され、画面上でフォントがどのように表示されるかを選択するには、「外観」設定ツールの「フォント」タブを使用します。

デスクトップの次の部分のフォントを選択できます。

- アプリケーション-アプリケーションのメニュー、ツールバー、およびダイアログボックスで使用されます。
- ドキュメント-アプリケーション内でドキュメントを表示するために使用されます。

注-一部のアプリケーションでは、アプリケーションの設定ダイアログでこの選択をオーバーライドできます。

- デスクトップ-デスクトップのアイコンラベルで使用されます。
- ウィンドウのタイトル-ウィンドウのタイトルバーで使用されます。
- 固定幅のフォント-端末アプリケーションとプログラミングに関するアプリケーションで使用されます。

▼ フォントを選択する方法

フォントの選択ボタンには、フォントの名前とポイントサイズが表示されます。名前は、太字、斜体、または標準書体で表示されます。

- 1 「システム」→「設定」→「外観」を選択します。
- 2 「フォント」タブをクリックします。
- 3 「フォントの選択」をクリックします。
「フォントの選択ダイアログ」が表示されます。
- 4 リストからフォントファミリー、スタイル、およびポイントサイズを選択します。
プレビュー領域に現在の選択が表示されます。
- 5 「了解」をクリックすると、変更が受け入れられてデスクトップが更新されます。

フォントレンダリング

画面上でのフォントの表示方法に関する次のオプションを設定できます。

- 描画の種類 - 画面上でのフォントのレンダリング方法を指定します。
 - モノクロ - フォントを黒と白だけでレンダリングします。場合によっては、文字がアンチエイリアスされていないために、文字の端がギザギザに表示されることがあります。(アンチエイリアスとは、文字がより滑らかに見えるように文字の端に適用される効果のことです。)
 - 最適なシェイプ - 可能な場合はフォントをアンチエイリアスします。このオプションは、標準のCRT (Cathode Ray Tube) モニターで使用します。
 - 最適なコントラスト - できるだけコントラストが強まるようにフォントを調整し、文字の端が滑らかになるようにフォントをアンチエイリアスします。このオプションによって、目の不自由な人が Oracle Solaris デスクトップを使用するときのアクセシビリティが向上する可能性があります。
 - サブピクセルのスムージング (LCD) - 個々の LCD (Liquid Crystal Display) ピクセルの特性を利用してフォントをレンダリングします。このオプションは、LCD (平面ディスプレイ) で使用します。
- 詳細 - 画面上にフォントをレンダリングする方法を決定します。
 - 解像度 (インチあたりのドット数) - 画面上にフォントをレンダリングするときに使用する解像度を指定します。
 - スムージング - フォントをアンチエイリアスする方法を指定します。
 - ヒント情報 - 小さいサイズおよび低い画面解像度でのフォントの品質を改善するフォントレンダリング手法です。ヒント情報をフォントに適用する方法を指定するオプションの1つを選択します。

- サブピクセルの順番 - フォントのサブピクセル色の順番を指定します。このオプションは、LCD(平面ディスプレイ)で使用します。

視覚効果

「外観」設定ツールの「視覚効果」タブでは、ウィンドウ、メニュー、およびワークスペースの操作時に表示されるアニメーションや半透明などの効果の種類を制御できます。これらの効果を使って、デスクトップの機能や視覚的外観を拡張できます。ただし、一部の効果にはハードウェアアクセラレーションをサポートするグラフィックスカードが必要になります。

次のプリセットレベルの視覚効果から選択できます。

- なし - 特殊視覚効果は適用されません。このオプションは、グラフィックスカードがハードウェアアクセラレーションをサポートしない場合のデフォルトで、Metacity ウィンドウマネージャーを使用します。
- 通常 - 一部の視覚効果が適用されます。このオプションは、グラフィックスカードがハードウェアアクセラレーションをサポートする場合のデフォルトで、Compiz ウィンドウマネージャーを使用します。
- 追加 - より多くの視覚効果が適用されます。このオプションを選択した場合は、Compiz ウィンドウマネージャーが使用されます。

注 - 「視覚効果」タブを使用しているときに、グラフィックスカードがサポートしていない効果を選択した場合、効果の以前の設定が復元されます。

▼ カスタマイズした視覚効果セットを有効にして構成する方法

- 1 「その他」ボタンを選択してから「設定」をクリックします。
「CompizConfig 設定マネージャ」ダイアログが表示されます。
- 2 「CompizConfig 設定マネージャ」ダイアログで、有効または無効にするボックスを選択または選択解除してから、設定を変更する効果の名前をクリックします。
- 3 「閉じる」をクリックして変更を保存します。

メニュー内にアイコンを表示

このオプションでは、アプリケーションメニューとパネルメニューの項目の横にアイコンが表示されます。すべてのメニュー項目にアイコンが表示されるわけではありません。

編集可能なメニューショートカットキー

このオプションでは、メニュー項目の新しいキーボードショートカットを定義できます。アプリケーションショートカットキーを変更するには、メニューを開き、変更するメニュー項目にマウスポインタを置いた状態で新しいキーの組み合わせを押します。ショートカットキーを削除するには、BackspaceまたはDelを押します。

注- この機能を使用するときに、コマンドに新しいショートカットキーを割り当てると別のコマンドから削除されることは警告されません。

コマンドの元のデフォルトキーボードショートカットは復元できません。

この機能はアプリケーションでの不整合を避けるために、すべてのアプリケーションに共通するショートカット(コピー用のCtrl+Cなど)には対応しません。

ツールバーボタンのスタイル

次のツールバーボタンラベルによって、アプリケーションのツールバーに何を表示するかを指定します。

- アイコンの下に文字 - 各ボタン上にテキストとアイコンが表示されたツールバーを表示します。
- アイコンの横に文字 - 各ボタン上にアイコンのみ、もっとも重要なボタン上にテキストが表示されたツールバーを表示します。
- アイコンのみ - 各ボタン上にアイコンのみが表示されたツールバーを表示する場合は、このオプションを選択します。
- 文字のみ - 各ボタン上にテキストのみが表示されたツールバーを表示します。

ウィンドウ

Oracle Solaris デスクトップのウィンドウ動作をカスタマイズするには、「ウィンドウ」設定ツールを使用します。

次の表に、変更可能なウィンドウ設定の一覧を示します。

表10-3 ウィンドウ設定

ダイアログ要素	説明
マウスが移動した先のウィンドウを選択する	ウィンドウがポイントされると、ウィンドウにフォーカスを渡します。別のウィンドウがポイントされるまで、ウィンドウはフォーカスを保持します。

表 10-3 ウィンドウ設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
マウスが移動した先のウィンドウを前面に出す	ウィンドウがフォーカスを受け取ったあと少しの時間、ウィンドウを前面に出します。
前面に出すまでの時間	フォーカスを受け取ったウィンドウを前面に出すまでの待機時間を指定します。
タイトルバーのダブルクリックで実行するアクション	<p>ウィンドウタイトルバーをダブルクリックしたときに発生する動作を決定します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 最大化する - ウィンドウを最大化します。 ■ 縦方向に最大化する - ウィンドウを縦方向に最大化します (幅は変更しません)。 ■ 横方向に最大化する - ウィンドウを横方向に最大化します (高さは変更しません)。 ■ 最小化する - ウィンドウを最小化します。 ■ 巻き上げる - タイトルバーのみが表示されるようにウィンドウを巻き上げます。 ■ なし - 何もしません。 <p>ウィンドウがすでに最大化または巻き上げられている場合、タイトルバーをダブルクリックすると通常の状態に戻ります。</p>
ウィンドウをつかんで移動する際に使用する修飾キー	ウィンドウをドラッグしてウィンドウを移動するときに押したままにするキーを指定します。

注 - キーボード上の Control、Alt、および Super キーの位置は、「キーボード・レイアウトのオプション」ダイアログで変更できます。詳細は、[153 ページ](#)の「キーボード・レイアウトのオプション」を参照してください。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーとは、画面が使用されていないときに画面上の画像を置き換えるアプリケーションのことです。Oracle Solaris デスクトップのスクリーンセーバーアプリケーションは、XScreenSaver です。以降のセクションでは、XScreenSaver アプリケーションの設定を行う方法、およびスクリーンセーバーで使用可能な表示を変更する方法について説明します。

このセクションでは、スクリーンセーバーの設定を行う方法について説明します。このセクションでは、スクリーンセーバーで使用可能な表示を変更する方法に関する情報も提供します。

スクリーンセーバーの設定

デフォルトのスクリーンセーバー設定

は、`/usr/share/X11/app-defaults/XScreenSaver` ファイルに格納されます。「スクリーンセーバー」設定ツールを起動するには、`/usr/bin/` ディレクトリから `xscreensaver-demo` コマンドを実行します。「システム」メニューから「スクリーンセーバー」設定ツールを起動するには、「システム」→「設定」→「スクリーンセーバー」を選択します。

すべてのユーザーのデフォルトスクリーンセーバー設定

すべてのユーザーのデフォルトスクリーンセーバー設定を行うには、`XScreenSaver` ファイルを変更します。または、`XScreenSaver` ダイアログを使って `$HOME/.xscreensaver` ファイルを作成してから、`XScreenSaver` ファイルの場所にファイルをコピーします。

ユーザーのデフォルトスクリーンセーバー設定の復元

ユーザーのデフォルト設定を復元するには、ユーザーのホームディレクトリから `$HOME/.xscreensaver` ファイルを削除します。`$HOME/.xscreensaver` ファイルがない場合は、システムは `XScreenSaver` ファイル内のデフォルト設定を使用します。

注 - `XScreenSaver` アプリケーションのデフォルト表示動作は、空の画面を表示することです。

スクリーンセーバー設定への変更を有効にするには、次のコマンドを使ってスクリーンセーバー設定を再読み込みします。

```
# xscreensaver-command -restart
```

スクリーンセーバー設定の変更

スクリーンセーバーアプリケーション設定を変更するには、「スクリーンセーバー」設定ツールを使用できます。スクリーンセーバー設定を変更すると、設定はユーザーのホームディレクトリの `$HOME/.xscreensaver` ファイル内に格納されます。

スクリーンセーバーのルック&フィールの変更

`XScreenSaver` ファイルと `$HOME/.xscreensaver` ファイルには、スクリーンセーバー表示のリストが含まれています。スクリーンセーバーアプリケーションでは、1つ以上のスクリーンセーバー表示を選択できます。

▼ スクリーンセーバー表示を追加する方法

- 1 表示の実行可能ファイルを `/usr/lib/xscreensaver/hacks/` ディレクトリにコピーします。
- 2 スクリーンセーバー表示用のコマンドを `XScreenSaver` ファイルまたは `$HOME/.xscreensaver` ファイルに追加します。
スクリーンセーバー表示をウィンドウ内ではなく画面全体で実行するには、適切な引数を含めてください。たとえば、スクリーンセーバー表示が画面全体で表示する場合は、`-root` オプションを含めることができます。

スクリーンセーバー表示の無効化

Sun Ray クライアントのすべてのユーザーのスクリーンセーバー表示を無効にするには、次のコマンドを入力します。

```
# pkg uninstall 'desktop/xscreensaver/hacks*'
```

注 - XScreenSaver アプリケーション用の PAM (Pluggable Authentication Modules) サービス名は、`dtssession` です。この名前は、以前のアプリケーションとの互換性のために使用されています。

インターネットおよびネットワークの設定

このセクションでは、設定可能なインターネットおよびネットワーク構成について説明します。

ネットワーク

Oracle Solaris では、ネットワーク構成プロファイル (NCP) がシステムのネットワーク構成を管理します。システム上で一度にアクティブにできる NCP は、1 つだけです。Oracle Solaris でサポートされる NCP は 2 種類あります: リアクティブと固定です。アクティブな NCP のタイプによって、システムのネットワーク構成がリアクティブ、固定のいずれであるかが決まります。

デフォルトでは、Oracle Solaris はリアクティブネットワーク構成 (NWAM) と呼ばれる機能を使って、ネットワーク構成を簡素化します。この機能は「ネットワーク」設定ツールを使って構成できます。

リアクティブネットワーク構成機能は、有線および無線ネットワークを自動的に構成および管理することで、基本ネットワーク構成を簡素化します。NWAM は、基本的な Ethernet および無線構成を処理し、さまざまなネットワークタスク (起動時に有

線または無線ネットワークに接続したり、新しい有線または無線ネットワークを構成したりなど)を実行できます。NWAM機能は、システム規模のネットワーク構成など、より複雑なネットワーク構成も簡素化します。さらにこの機能は、ネットワーク接続の現在のステータスやネットワーク全体の健全性に関する情報メッセージを表示します。

ほかに次の機能があります。

- 複数の同時ネットワーク接続
- ホットプラグイベントの検出
- ネットワーク修飾子のサポート、仮想プライベートネットワーク (VPN) クライアントアプリケーションなど。

ネットワーク構成は、目的のプロパティ値をプロファイルの形で保存することで、管理されます。NWAMは、現在のネットワーク状況に基づいてその時点でどのプロファイルをアクティブにすべきかを判断してから、そのプロファイルをアクティブにします。

2つのプライマリプロファイルタイプは、「ネットワークプロファイル」(個々のネットワークインタフェースの構成を指定)と「場所」(システム規模のネットワーク構成を指定)です。ネットワークプロファイルを構成する個々のコンポーネントは、ネットワーク接続と呼ばれます。このアプリケーションを使って、両方のタイプのプロファイルを構成および管理できます。

NWAMの使用方法的詳細については、『[Oracle Solaris 11.1でのリアクティブネットワーク構成を使用したシステムの接続](#)』を参照してください。

ネットワークプロキシ

ネットワークプロキシ設定では、システムがインターネットに接続する方法を構成できます。

プロキシサーバーに接続するようにOracle Solaris デスクトップを構成し、プロキシサーバーの詳細を指定できます。プロキシサーバーとは、別のサーバーへのリクエストを中継し、そのリクエストを可能であれば自身で処理するサーバーのことです。プロキシサーバーのドメイン名またはインターネットプロトコル (IP) アドレスを指定できます。ドメイン名は、ネットワーク上のコンピュータの一意英字識別子です。IPアドレスは、ネットワーク上のコンピュータの一意数値識別子です。

場所ごとに異なるプロキシ構成を使用する必要がある場合があるため、ネットワークプロキシ設定では、プロキシ構成を個別に定義してウィンドウ上部の「場所」設定で切り替えることができます。新しい場所のプロキシ構成を作成するには、「新しい場所」を選択します。場所を削除するには、選択してウィンドウ下部の「場所の削除」ボタンをクリックします。

ネットワークプロキシ設定について、次の表で説明します。

表10-4 ネットワークプロキシ設定

ダイアログ要素	説明
インターネットに直接接続する	プロキシサーバーなしでインターネットに接続する場合は、このオプションを選択します。
手動でプロキシを構成する	<p>プロキシサーバー経由でインターネットに接続し、プロキシ設定を手動で構成する場合には、このオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ HTTP プロキシ - HTTP サービスをリクエストするとき使用するプロキシサーバーのドメイン名またはIPアドレス。プロキシサーバー上のHTTPサービスのポート番号を「ポート」フィールドに入力します。HTTP プロキシサーバーが認証を必要とする場合は、「詳細」ボタンをクリックしてユーザー名とパスワードを入力します。 ■ SSL プロキシ - セキュア HTTP サービスをリクエストするとき使用するプロキシサーバーのドメイン名またはIPアドレス。プロキシサーバー上のセキュア HTTP サービスのポート番号を「ポート」フィールドに入力します。 ■ FTP プロキシ - FTP サービスをリクエストするとき使用するプロキシサーバーのドメイン名またはIPアドレス。プロキシサーバー上のFTPサービスのポート番号を「ポート」フィールドに入力します。 ■ Socks ホスト - 使用するSOCKSホストのドメイン名またはIPアドレス。プロキシサーバー上のSOCKSプロトコルのポート番号を「ポート」フィールドに入力します。
自動的にプロキシを構成する	<p>プロキシサーバー経由でインターネットに接続し、プロキシサーバーを自動的に構成する場合には、このオプションを選択します。</p> <p>自動プロキシ構成は、PACファイル(ブラウザがWebサーバーからダウンロード)に基づいて実行されます。PACファイルのURLを「自動設定するURL」エントリに指定しない場合、ブラウザは自動的に見つけようとしません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自動設定するURL - PACファイル(プロキシサーバーを自動的に構成するために必要な情報が含まれる)のURL。

プロキシなしで直接インターネットに接続すべきホストを使用する場合は、「無視するホスト」タブの「無視するホストの一覧」に追加してください。これらのホストにアクセスするときは、プロキシなしで直接インターネットに接続されます。

デスクトップの共有

「デスクトップの共有」設定ツールでは、Oracle Solaris デスクトップセッションを複数のユーザーで共有したり、セッション共有設定を行ったりできます。

次の表に、設定可能なセッション共有設定の一覧を示します。これらの設定は、システムのセキュリティーに直接影響します。

表10-5 セッション共有設定

ダイアログ要素	説明
他のユーザが自分のデスクトップを表示できる	リモートユーザがセッションを表示することを許可します。リモートユーザからのキーボード、ポインタ、およびクリップボードイベントはすべて無視されます。
他のユーザがデスクトップを操作できる	ほかのユーザがリモート場所からセッションにアクセスして制御することを許可します。
セキュリティー	<p>ユーザがセッションを表示または制御しようとするときのセキュリティー方式を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ このマシンへの接続を毎回確認する - ユーザが自分のデスクトップに接続しようとするときに、確認ダイアログを表示します。自分が自分のデスクトップにリモート接続する場合は、このオプションの選択を解除します。 ■ パスワードの入力を要求する - 自分のデスクトップにアクセスするリモートユーザがパスワードを入力する必要があることを指定します。デスクトップにパスワードを設定する必要があります。 ■ 他から接続できるように自動的にネットワークを構成する - ユーザがインターネット経由で自分のデスクトップにアクセスすることを許可します。このオプションが選択されていない場合は、ユーザはローカルネットワーク経由でのみデスクトップにアクセスできます。

表 10-5 セッション共有設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
通知領域	<p>デスクトップパネルの通知領域に「リモートデスクトップ」アイコンをいつ表示するかを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 常にアイコンを表示する - デスクトップを共有できるときには常にアイコンを表示します (リモートユーザーが接続していない場合を含む)。 ■ 誰かが接続した時にのみアイコンを表示する - リモートユーザーがデスクトップに接続しているときにのみ、アイコンを表示します。 ■ アイコンを表示しない - アイコンを表示しません (1人以上のリモートユーザーが接続しているときを含む)。

キーボードの設定

このセクションでは、キーボードオートリピート速度、レイアウト、さまざまな言語で入力する場合のレイアウトと入力方式、および Oracle Solaris デスクトップのキーボードアクセシビリティ機能を構成する方法について説明します。

キーボードレイアウトやキーボード型式など、「キーボードレイアウト」設定を構成できます。2つの主要領域です。

- インพุットメソッド (IM) - 文字数が多いまたは文字が複雑な言語で入力することが多い場合は、この方法を選択します (たとえば、中国語、日本語、韓国語などの一部のアジア言語)。
- GNOME キーボードレイアウト設定 - 文字数の少ない言語で入力することが多い場合は、この方法を選択します。たとえば、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語など、ラテン文字に従う言語です。

IM は文字を作成するためにメカニズムが複雑ですが、ラテン言語にも使用できます。同様に、GNOME キーボードレイアウト設定もラテン言語以外に使用できます。

キーボード

キーボード設定(キーボード型式、レイアウト、バリエーションなど)を設定およびカスタマイズするには、「キーボード」設定ツールを使用します。オートリピート設定や一休み設定など、高度な追加キーボードオプションをカスタマイズすることもできます。

「キーボード」設定ツールを表示するには、「システム」→「設定」→「キーボード」を選択します。

キーボード設定はデフォルトでアクティブになっています。複数のキーボードレイアウトが選択されている場合は、キーボード表示器アプレットがパネルの右隅に自動的に表示されます。このアプレットの詳細については、[GNOME Keyboard Indicator Manual](#)を参照してください。

全般

一般的なキーボード設定を行うには、「全般」タブを使用します。次の表に、変更可能なキーボード設定の一覧を示します。

表 10-6 キーボードの設定

ダイアログ要素	説明
キーが押されたままにされたらリピートされたものとする	キーボードリピートを有効にします(キーを押したままにすると、キーに関連付けられた操作が繰り返し実行される)。たとえば、文字キーを押したままにすると、文字が繰り返し入力されます。
間隔	キーを押したときから操作が繰り返されるときまでの間隔を設定します。
速度	操作が繰り返される速度を設定します。
テキストフィールドでカーソルを点滅させる	フィールド内やテキストボックス内でカーソルが点滅します。
速度	フィールド内やテキストボックス内でカーソルが点滅する速度を指定します。
設定の確認	キーボード設定が入力時の表示にどのように影響するかを確認できるように、対話型インタフェースを提供します。テスト領域にテキストを入力すると、設定の効果がテストされます。

レイアウト

キーボードの言語を設定したり、使用しているキーボードの製造元や型式を設定したりするには、「レイアウト」タブを使用します。

次の設定を使用することで、キーボード上の特殊メディアキーを利用したり、キーボードの言語に適した文字を表示したりできます。

- キーボードの型式 - 別のキーボード製造元や型式を選択するには、「参照」ボタン(現在選択されているキーボード型式のラベルが表示されている)を使用します。
- ウィンドウ毎にグループ化する - このオプションを選択すると、ウィンドウごとにキーボードレイアウトが割り当てられます。別のレイアウトに変更した場合、現在のウィンドウだけに影響します。

たとえば、ワードプロセッサでロシア語キーボードレイアウトを使って入力してから、Web ブラウザに切り替えて英語キーボードレイアウトで入力できます。

- 選択したレイアウト - 入力時にキーボードが作り出す文字を変更するために、選択した複数のレイアウト間で切り替えることができます。

キーボードレイアウトを切り替えるには、キーボード表示器パネルアプレットを使用します。

選択したレイアウトのリストにレイアウトを追加するには、「追加」ボタンをクリックします。表示されるレイアウトの選択ダイアログで、国または言語別にレイアウトを選択します。レイアウトは4つまで選択できます。レイアウトを削除するには、選択して「削除」をクリックします。

すべてのキーボードレイアウト設定を初期状態のシステムとロケールに戻すには、「デフォルトに戻す」をクリックします。

「オプション」ボタンをクリックすると、「キーボード・レイアウトのオプション」ダイアログが開きます。

注 - ログイン時にキーボードレイアウトを選択できます。詳細については、[18 ページの「異なるキーボードレイアウトを使用する方法」](#)を参照してください。

注 - `setxkbmap` コマンドを使用することで、X サーバーのすべてのキーボードレイアウト設定をコマンド行から設定およびカスタマイズできます。詳細は、`setxkbmap(1)` のマニュアルページを参照してください。

キーボード・レイアウトのオプション

「キーボード・レイアウトのオプション」ダイアログでは、キーボード修飾キーや特定のショートカットオプションの動作を設定できます。

太字のラベルは、そのグループ内のオプションがデフォルト設定から変更されたことを示しています。

注- このダイアログに表示されるオプションは、使用している X ウィンドウシステムによって変わります。システムによっては、一部のオプションが表示されなかったり動作しなかったりする場合があります。

次の表では、キーボードレイアウトオプションについて説明します。

表 10-7 キーボード・レイアウトのオプション

ダイアログ要素	説明
特定のキーにユーロ記号を追加する	特定のキーにユーロ通貨記号 -b\$ を第 3 層文字として追加します。この記号にアクセスするには、第 3 層を選択するキーを割り当てる必要があります。
Alt/Win キーの動作	UNIX の修飾キー Super、Meta、および Hyper の動作をキーボードの Alt および Windows キーに割り当てます。
Caps Lock キーの動作	Caps Lock キーの動作を決定します。
Compose キーの位置	2 つのキー押下を組み合わせて 1 つの文字を作成することでアクセント付き文字 (キーボードレイアウトにない場合がある) を作成できます。たとえば、Compose+'e と押すと、e アクセント文字が入力されます。
Ctrl キーの位置	古いキーボードのレイアウトと一致するように Ctrl キーの位置を設定します。
グループ Shift/Lock の動作	押されたときにキーボードレイアウトを切り替えるキーまたはキーの組み合わせを決定します。

表 10-7 キーボード・レイアウトのオプション (続き)

ダイアログ要素	説明
その他の互換性に関するオプション	<ul style="list-style-type: none"> ■ テンキーの Shift の動作を MS Windows と同様に - NumLock がオフのときに Shift とテンキーのキーを一緒に使用すると、現在の選択が拡張されます。 このオプションの選択が解除されている状態で、Shift とテンキーのキーを一緒に使用すると、そのキーの現在の動作の逆が行われます。たとえば、NumLock がオフになっている場合、8 キーは上矢印として動作します。8 を入力するには、Shift+8 を押しします。 ■ サーバーで取り扱われる特殊キー (Ctrl+Alt+<key>) - 特定のキーボードショートカットが、GNOME では処理されず X ウィンドウシステムに渡されます。
第 3 層を選択するキー	<p>第 3 層を選択するキーでは、キーから第 3 層文字が入力されます。Shift とキーを一緒に押しすると、キーだけを押しした場合と異なる文字が入力されるのと同じです。</p> <p>第 3 層修飾キーとして動作するキーを選択するときは、このグループを使用します。</p> <p>第 3 層キーと Shift を押しすると、キーから第 4 層文字が入力されます。</p> <p>「キーボード表示器レイアウトビュー」ウィンドウには、キーボードレイアウトの第 3 層文字と第 4 層文字が表示されます。</p>
キーボード LED を代替配列を表すために使用する	<p>キーボード上のライトインジケータの 1 つが代替キーボードレイアウトが使用されていることを示すことを指定します。選択したキーボードライトは標準の機能を示さなくなります。たとえば、Caps Lock ライトは Caps Lock キーに反応しなくなります。</p>

アクセシビリティ

「アクセシビリティ」タブでは、間違っしてキーが押されることを排除したり、いくつかのキーを一度に押し続けなくてもショートカットキーを使用できるオプションを設定できます。これらの機能は AccessX とも呼ばれます。

このセクションでは、設定可能な各設定について説明します。キーボードアクセシビリティのタスクに関する詳細については、Oracle Solaris デスクトップのアクセシビリティガイドを参照してください。

次の表に、変更可能なアクセシビリティ設定の一覧を示します。

表 10-8 アクセシビリティ設定

ダイアログ要素	説明
キーボードからアクセシビリティの機能を切り替えられるようにする	アクセシビリティ機能にすばやくアクセスできるアイコンを通知領域に表示します。
同時にキーを押下した状態を模擬する	キーを順番に押すことで、複数のキーを同時に押す操作を有効にします。代わりにスティッキーキー機能を有効にするには、Shift を 5 回押します。
二つのキーが同時に押下されたらスティッキーキーを無効にする	2つのキーを同時に押すと、キーを順番に押して複数のキーを同時に押す操作を実行できなくなることを指定します。
長いキー押下のみ受け入れる	キーが受け入れられるには一定時間押し続ける必要があることを指定します。代わりにスローキー機能を有効にするには、Shift を 8 秒間押し続けます。
間隔	キーが受け入れられるために押し続ける必要のある時間を指定します。
重複したキーを素早く押下した場合は無視する	キーボードのキーリピート特性を制御します。
間隔	最初にキーを押してから押したキーが自動的に繰り返されるまでの待機時間を指定します。
設定の確認	キーボード設定が入力時の表示にどのように影響するかを確認できるように、対話型インタフェースを提供します。テスト領域にテキストを入力すると、設定の効果がテストされます。

サウンドフィードバック

キーボードアクセシビリティ機能のサウンドフィードバックを構成するには、「サウンドのフィードバック」ボタンをクリックします。「キーボードアクセシビリティのサウンドフィードバック」ウィンドウが表示されます。

次の表に、変更可能なサウンドフィードバック設定の一覧を示します。

表10-9 サウンドフィードバック設定

ダイアログ要素	説明
アクセシビリティ機能の ON/OFF を切り替えたらビープ音を鳴らす	スティッキーキーやスローキーなどの機能を有効または無効にしたことが聞いてわかるように、音を鳴らします。
トグルキーを押下したらビープ音を鳴らす	トグルキーが押されたことが聞いてわかるように、音を鳴らします。トグルキーがオンになると、ビープ音が1回聞こえます。トグルキーがオフになると、ビープ音が2回聞こえます。
修飾キーを押下したらビープ音を鳴らす	修飾キーを押したことがわかるように、音を鳴らします。
警告音を視覚的なフィードバックで表現する	アプリケーションが警告を示すビープ音を鳴らしたときに、画面の一部が点滅します。
ウィンドウのタイトルバーを点滅させる	アプリケーションがビープ音を鳴らしたときに、警告が発生したウィンドウのタイトルバーが少しの間点滅します。
画面全体を点滅させる	アプリケーションがビープ音を鳴らしたときに、画面全体が少しの間点滅します。
何かキーを押下したらビープ音を鳴らす	キーが押されたときに、聞いてわかるように音を鳴らします。
キー押下が受け入れられたビープ音を鳴らす	キーが受け入れられたときに、聞いてわかるように音を鳴らします。
キーの押下が拒否されたらビープ音を鳴らす	キーが拒否されたときに、聞いてわかるように音を鳴らします。

マウスキー

キーボードをマウスの代わりとして構成するときは、「マウスキー」タブのオプションを使用します。

次の表に、変更可能なマウスキー設定の一覧を示します。

表10-10 一休み設定

ダイアログ要素	説明
キーボードでポインタを制御できるようにする	テンキーを使ってマウス操作をエミュレートできます。キーおよびそれらのキーボードショートカットの一覧については、『Oracle Solaris 11 デスクトップのアクセシビリティガイド』の「キーボードを使用してマウスをエミュレートするには」を参照してください。

表 10-10 一休み設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
加速	ポインタが最大速度まで加速するまでにかかる時間を指定します。
速度	ポインタが画面を移動するときの最大速度を指定します。
間隔	キーが押されてからポインタが動くまでに経過する必要のある時間を指定します。

一休み

キーボードやマウスを長時間使用したあとは休憩を取ることを忘れないように、一休み通知を設定できます。一休み中は、画面はロックされます。

次の表に、変更可能な一休み設定の一覧を示します。

表 10-11 一休み設定

ダイアログ要素	説明
一休みに入ったら強制的に画面をロックする	一休みの時間になったら画面をロックします。
一休みの警告を出すまでの時間	一休みが発生するまでの作業できる時間を指定します。
一休みする時間	一休みの長さを指定します。
一休みの延長を許可する	一休みを延期することを許可します。

キーボードとマウスの使用を停止している時間が一休み時間設定と等しくなると、現在の作業時間がリセットされます。

入力方式セレクト

入力方式 (IM) を使用することで、文字数の多い言語や複雑な文字を使用する言語 (中国語、日本語、韓国語など) で入力が容易になります。

Oracle Solaris デスクトップには、さまざまな IM フレームワーク (システムにインストールされているもの、またはリポジトリからインストールできるもの) が用意されています。Oracle Solaris デスクトップのメイン IM フレームワークの 1 つが、IBus (Intelligent Input Bus) です。

IBus フレームワークは次の機能を提供します。

- ほとんどのアジア言語を処理できる完全なエンジン。

- EMEA (欧州、中東、アフリカ) を含む多くの地域でキーボードレイアウトエミュレーションをサポート。
- 仮想キーボードと X キーボードデータエミュレーションをサポート。

デフォルトでは、IM は次の言語を使ってログインしたときのみ有効になります。

- 日本語
- 中国語
- 韓国語
- タイ語
- インド諸語

その他の言語の場合、IM はデフォルトで有効になっていません。入力方式フレームワークセレクトアを使って手動で有効にする必要があります。

▼ IM を有効または無効にする方法

- 1 「システム」 → 「設定」 → 「入力方式セレクトア」を選択します。
「入力方式フレームワークセレクトア」ウィンドウが表示されます。
- 2 「入力方式フレームワークの有効化」オプションを選択し、リストから優先する入力方式フレームワークを選択します。
- 3 「了解」をクリックします。

ハードウェアの設定

このセクションでは、設定可能なモニターおよびサウンド構成について説明します。

「モニター」設定ツール

コンピュータが使用するモニターを構成するには、「モニター」設定ツールを使用します。

注-ほとんどのラップトップキーボードでは、「モニターの設定」を起動することなく、キーの組み合わせ Fn+F7 を使っていくつかの標準モニター構成を切り替えることができます。

「モニター」設定ツールを表示するには、「システム」 → 「設定」 → 「モニター」を選択します。

モニターの配置方法を設定するには、ウィンドウの左上部分でモニターのグラフィカル表現をドラッグします。「モニターの設定」には、どの四角形がどのモニターに対応しているかを見分けやすいように、各モニターの左上隅に小さいラベルが表示されています。

「モニターの設定」で行う変更は、「適用」ボタンをクリックするまで適用されません。変更を確定しない場合は、設定は以前の設定に戻ります。これは、不正なディスプレイ設定によってコンピュータが使用できなくなるのを防ぐためです。

次の表では、モニター設定について説明します

表 10-12 モニターの設定

ダイアログ要素	説明
すべてのモニターで同じ画像	このオプションを選択すると、デスクトップ全体が1つのモニターにいっぱいになり、すべてのモニターにデスクトップの同じコピーが表示されます。選択しない場合は、デスクトップは複数のモニターにまたがって表示され、各モニターにはデスクトップ全体の一部だけが表示されます。
モニターの検出	最近追加またはプラグインされたモニターを検索します。
モニターをパネルに表示する	「モニター」設定ツールを開かずに特定の設定をすばやく変更できるアイコンをパネルに追加します。

次のリストでは、モニターごとに設定可能なオプションについて説明します。現在選択されているモニターは、グラフィカル表現が太字の黒い枠線で囲まれています。セクションラベルの背景色によっても示されます。

- 有効/無効 - 個々のモニターは、「無効」を選択することで完全に無効にできません。
- 解像度 - 現在選択されているモニターで使用する解像度を決定します。解像度とは、画面のピクセル寸法のことです。解像度が高いほど画面に収まる項目の数も増えますが、すべてが小さくなります。
- リフレッシュレート - 現在選択されているモニターで使用するリフレッシュレートを決定します。リフレッシュレートによって、コンピュータが画面を再描画する頻度が決まります。リフレッシュレートが低すぎると(60未満)、モニターがちらつき、視覚的な不快感を感じる場合があります。LCDディスプレイでは、この問題があまり目立たなくなります。
- 回転 - 現在選択されているモニターの回転を決定します。このオプションは、すべてのグラフィックスカードでサポートされているわけではありません。

「サウンド」設定ツール

「サウンド」設定ツールでは、サウンド入力および出力のデバイスや音量を制御できます。特定のイベントが発生したときにどのサウンドが再生されるかを指定することもできます。

「サウンド」設定ツールを表示するには、「システム」→「設定」→「サウンド」を選択します。

次の機能領域の設定をカスタマイズできます。

- 再生
- 録音
- サウンドテーマ

ほとんどのコンピュータには、サウンドの録音と再生の両方を制御するオーディオデバイスが1つだけ含まれています。コンピュータに複数のオーディオデバイスがある場合は、ウィンドウ上部の「デバイス」ドロップダウンリストを使用することでそれらを切り替えることができます。

再生の設定

サウンド出力の設定を行うには、「再生」タブを使用します。次の表に、変更可能な録音設定の一覧を示します。

表 10-13 再生の設定

ダイアログ要素	説明
音量	全体的な出力音量を制御します。
スライダのリンクボタン	すべてのスライダを同じ値に設定し、どれか1つのスライダが動いたときにそれらを一緒に動かします。
「ミュート」ボタン	現在の音量レベルを変えずに、すべてのサウンドを一時的に抑制します。

注 - スピーカアイコン(パネルの通知領域に表示)を使って出力音量を制御することもできます。

コンピュータのサウンドカードや接続されているデバイスによっては、サウンド出力を制御できるほかのスライダ、チェックボックス、またはリストが「再生」タブに表示されることもあります。「設定」ボタンをクリックすることで、どのコントロールをタブに表示するかを選択できます。

録音設定

サウンド入力の設定を行うには、「録音」タブを使用します。次の表に、変更可能な録音設定の一覧を示します。

表10-14 録音設定

ダイアログ要素	説明
録音	サウンド入力レベルを制御します。
ゲイン	録音入力に適用される増幅量を制御します。
スライダのリンクボタン	すべてのスライダを同じ値に設定し、どれか1つのスライダが動いたときにそれらを一緒に動かします。
「ミュート」ボタン	現在の入力レベルを変えずに、すべての入力を一時的に抑制します。

コンピュータのサウンドカードや接続されているデバイスによっては、サウンド入力の制御を可能にするその他のスライダ、チェックボックス、またはリストが「録音」タブに表示されることもあります。「設定」ボタンをクリックすることで、どのコントロールをタブに表示するかを選択できます。

サウンドテーマ設定

サウンドテーマとは、ダイアログを開いたり、ボタンをクリックしたり、メニュー内の項目を選択したりなど、さまざまなイベントに関連付けられたサウンド効果の集まりのことです。もっとも重要なイベントサウンドの1つは、キーボード入力エラーを示すために再生されることの多いシステム警告サウンドです。サウンドテーマを選択したりベルサウンドを変更したりするには、「サウンド」設定ツールの「サウンドのテーマ」タブを使用します。

次の表に、変更可能なサウンド効果設定の一覧を示します。

表10-15 サウンド効果設定

ダイアログ要素	説明
サウンドテーマ	サウンドテーマを決定します。 すべてのイベントサウンドをオフにするには、「なし」を選択します。
「警告音を選択してください」リスト	システムベル用のサウンドを決定します。 リスト要素を選択すると、サウンドが再生されます。

表 10-15 サウンド効果設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
ウィンドウとボタンの音を鳴らす	ウィンドウ関連イベント(ダイアログやメニューの表示)やボタンクリックのサウンドを聞く必要がない場合は、このオプションの選択を解除します。

アプリケーションサウンド設定

個々のアプリケーションで再生されるサウンドの音量を制御するには、「アプリケーション」タブを使用します。現在サウンドを再生している各アプリケーションは、名前とアイコンで識別されます。

セッションの設定

「自動起動するアプリ」設定ツールでは、セッションを管理できます。セッション設定を行ったり、セッション開始時にどのアプリケーションを起動するかを指定したりできます。Oracle Solaris デスクトップ上のアプリケーションの状態を保存して、別のセッションを開始するときに状態を復元するように、セッションを構成できます。この設定ツールを使って複数の GNOME セッションを管理することもできます。

次の機能領域の設定をカスタマイズできます。

- セッションオプション
- 自動起動するプログラム

複数のセッションを管理したり、現在のセッションの設定を行ったりするには、「オプション」タブを使用します。次の表に、変更可能なセッションオプションの一覧を示します。

表 10-16 セッションオプション

ダイアログ要素	説明
ログアウト時に実行中のアプリを自動的に記憶しておく	ログアウトするときにセッションマネージャーがセッションの状態を保存する場合は、このオプションを選択します。ログアウトするときに、セッションが管理するアプリケーションのうち開いているものと、セッションが管理するそれらのアプリケーションに関連付けられた設定をセッションマネージャーが保存します。セッションを次回開始する際に、保存された設定を使ってアプリケーションが自動的に起動します。

表 10-16 セッションオプション (続き)

ダイアログ要素	説明
現在実行中のアプリを記憶しておく	セッションマネージャーがセッションの現在の状態を保存する場合は、このオプションを選択します。セッションが管理するアプリケーションのうち開いているものと、セッションが管理するそれらのアプリケーションに関連付けられた設定をセッションマネージャーが保存します。セッションを次回開始する際に、保存された設定を使ってアプリケーションが自動的に起動します。

起動アプリケーションの構成

セッションが管理しない自動起動するアプリケーションを指定するには、「自動起動するアプリ」設定ツールの「自動起動するプログラム」タブを使用します。起動アプリケーションとは、セッション開始時に自動的に起動するアプリケーションのことです。セッションが管理しないアプリケーションを実行するコマンドは、「自動起動するプログラム」タブで指定します。コマンドはログインすると自動的に実行されます。

セッションが管理するアプリケーションも自動的に起動できます。詳細については、163 ページの「[セッションの設定](#)」を参照してください。

起動アプリケーションを追加、編集、または削除できます。

- 起動アプリケーションを追加するには、「追加」ボタンをクリックします。「自動起動するプログラムの追加」ダイアログが表示されます。アプリケーションの名前を「名前」フィールドに入力します。次に、アプリケーションを起動するコマンドを「コマンド」フィールドに入力します。「コメント」フィールドにコメントを指定することもできます。
- 起動アプリケーションを編集するには、起動アプリケーションを選択してから「編集」ボタンをクリックします。「自動起動するプログラムの編集」ダイアログが表示されます。起動アプリケーションのコマンドや起動順を変更します。
- 起動アプリケーションを削除するには、起動アプリケーションを選択してから「削除」ボタンをクリックします。



マウスの使用

この付録では、マウス操作およびさまざまなマウスポインタについて説明します。内容は次のとおりです。

- 165 ページの「マウスボタンの表記規則」
- 169 ページの「マウスポインタ」

マウスとは、画面上でマウスポインタを動かようにするポインティングデバイス的一种です。マウスポインタは小さな矢印で、画面上のオブジェクトをポイントするために使用します。押すボタンによって、マウスポインタが置かれているオブジェクトで特定の処理が実行されます。

マウスボタンの表記規則

マウスボタンの表記規則を次に示します。

- マウスの左ボタン - マウスデバイスの左側にあるボタン。マウスの左ボタンは、選択、有効化、ボタン押下などで頻繁に使用されます。「クリック」と言うときは、マウスの左ボタンでクリックします。
- マウスの中ボタン - マウスデバイスの中央ボタン。スクロールホイールを備える多くのマウスデバイスでは、スクロールホイールを押し込むことでマウスの中ボタンのクリックにすることができます。
- マウスの右ボタン - マウスデバイスの右側にあるボタン。多くの場合、このボタンはポインタの下にあるオブジェクトのコンテキストメニューを表示します。

一部のマウスデバイスには、中ボタンがありません。2 ボタンマウスデバイスの場合には、左右同時押しを使用してマウスの中ボタンをシミュレーションできるようにシステムが構成されている場合があります。左右同時押しが有効になっている場合は、マウスの左ボタンと右ボタンを同時に押すことで、マウスの中ボタンがシミュレーションされます。

マウスデバイスの向きを反転するときは、「マウス」設定ツールを使用します。その場合は、このガイドで使用されているマウスボタンの表記規則を反対にする必要があります。

「マウス」設定ツール

「マウス」設定ツールでは、次の設定を決めることができます。

- マウスを右利き用または左利き用に構成します
- マウスの動きの速度および感度を指定します
- マウスのアクセシビリティ機能を構成します

「システム」 → 「設定」 → 「マウス」を選択して、「マウス」設定ツールを表示します。

全般的なマウスの設定

「全般」タブを使用して、マウスボタンを左利き用と右利き用のどちらに構成するかを指定したり、マウスの速度や感度を構成したりします。

次の表に、変更できる全般的なマウスの設定を示します。

表 A-1 マウスボタンの設定

ダイアログ要素	説明
右利き	マウスを右利き用に構成します。マウスの左ボタンが第1ボタン、マウスの右ボタンが第2ボタンです。
左利き	マウスを左利き用に構成します。マウスの左ボタンと右ボタンの機能が入れ替わります。
[Control] キーを押下したらポインタの位置を通知する	Ctrl キーを押して離れたときにマウスポインタのアニメーションを有効にします。この機能は、マウスポインタの検出に役立ちます。 注- キーボードの Ctrl キーの位置は、「キーボード・レイアウトのオプション」ダイアログで変更できます。詳細は、 153 ページの「キーボード・レイアウトのオプション」 を参照してください。
加速	マウスを動かしたときに、マウスポインタが画面上を移動する速度を指定します。
感度	マウスポインタがマウスの動きに追従する感度を指定します。

表A-1 マウスボタンの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
しきい値	移動操作がドラッグ&ドロップ操作として解釈されるまでに項目を移動する必要がある距離を指定します。
間隔	<p>スライダを使用して、ダブルクリックするときをクリック間に経過できる時間を指定します。1回目と2回目のクリックの間隔が指定された時間を超える場合、その操作はダブルクリックとして解釈されません。</p> <p>電球アイコンを使用してダブルクリックの感度を確認してください。クリックの場合は電球が短く点灯し、ダブルクリックの場合は点灯したままになります。</p>

マウスのアクセシビリティの設定

「アクセシビリティ」タブを使用して、ポインタを正確な場所に置いたりマウスボタンを押したりするのが難しい人を支援できる、アクセシビリティ機能を構成します。

- 第1マウスボタンをクリックしたままにすることでコンテキストメニューを開きます。この設定は、1つのボタンだけを操作できるユーザーに便利です。
- さまざまな種類のマウスボタンクリックをソフトウェアで実行します。この設定は、ボタンをまったく操作できないユーザーに便利です。実行できるクリックの種類は次のとおりです。
 - シングルクリック - 第1マウスボタンのシングルクリック。
 - ダブルクリック - 第1マウスボタンのダブルクリック。
 - ドラッグクリック - ドラッグ操作を開始するクリック。
 - 第2のクリック - 第2マウスボタンのシングルクリック。

次の表に、変更できるマウスのアクセシビリティの設定を示します。

表A-2 マウスの動きの設定

ダイアログ要素	説明
第1ボタンを押したままにすると第2のクリックとみなす	第1マウスボタンを長く押すことで、シミュレーションされた第2のクリックを有効にします。
「第二のクリックの模擬」セクションの「遅延」スライダ	第2のクリックをシミュレートするために第1ボタンをどのくらい押す必要があるかを指定します。

表 A-2 マウスの動きの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
ポインタの移動を停止してクリックを始める	マウスが停止したときの自動クリックを有効にします。クリックの種類がどのように選択されるかを構成するときは、「自動クリック」セクションの追加設定を使用します。
「自動クリック」セクションの「遅延」スライダ	自動クリックがトリガーされる前に、ポインタがどのくらい静止したままである必要があるかを指定します。
「ジェスチャーのしきい値」スライダ	ポインタがまだ静止しているとみなされるためにどのくらい移動する必要があるかを指定します。
予めクリックの種類を選択しておく	ウィンドウまたはパネルアプレットから実行するクリックの種類を決定します。
種類を表すウィンドウを表示する	このオプションが有効な場合、さまざまな種類のクリック(シングルクリック、ダブルクリック、ドラッグクリック、または第2のクリック)をウィンドウで選択できます。 注-ウィンドウの代わりに「自動クリック」パネルアプレットを使用できます。
マウス・ジェスチャでクリックの種類を選択する	マウスを特定の方向に動かすと、クリックの種類が決まります。さまざまな種類のクリックに方向を割り当てます。各方向で使用できるのは、クリックの種類1つのみです。

注- これらのアクセシビリティ設定を有効にするには、システム管理者が `gnome/accessibility/mousetweaks` パッケージをインストールする必要があります。

マウスボタンは次の処理を実行します。

マウスボタン	処理
マウスの左ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ■ テキストを選択します ■ 項目を選択します ■ 項目をドラッグします ■ 項目を有効にします
マウスの中ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ■ テキストを貼り付けます ■ 項目を移動します

マウスボタン	処理
マウスの右ボタン	マウスの右ボタンを使用して、項目のコンテキストメニューを開きます。ほとんどの項目では、項目を選択したあとに、Shift+F10 キーボードショートカットを使用してコンテキストメニューを開くこともできます。

たとえば、ファイルマネージャーでファイルを表示するときは、マウスの左ボタンをクリックしてファイルを選択し、マウスの左ボタンでダブルクリックしてファイルを開くことができます。マウスの右ボタンをクリックすると、そのファイルのコンテキストメニューが表示されます。

注-ほとんどのアプリケーションでは、マウスの左ボタンを使用してテキストを選択し、マウスの中ボタンを使用して別のアプリケーションに貼り付けることができます。この処理はプライマリ選択ペーストと呼ばれ、通常のクリップボード操作とは独立して機能します。

複数の項目を選択するには、Ctrl キーを押したまま複数の項目を選択するか、または Shift キーを押したまま連続した範囲で項目を選択します。項目の周囲にある空白領域で四角形にドラッグして複数の項目を選択することもできます。

マウスポインタ

マウスポインタの外観を変更できます。ポインタの外観は、特定の操作、場所、または状況に関するフィードバックを表します。マウスが画面のさまざまな要素上を通るときに、次のマウスポインタが表示されます。

注-使用するマウス設定によっては、マウスポインタがここに示すものと異なることがあります。

表 A-3 マウスポインタの説明

マウスポインタ	説明
 標準ポインタ	通常のマウス使用中に表示されます。
 実行中ポインタ	タスクを実行中のウィンドウ上で表示されます。マウスを使用してこのウィンドウに入力を渡すことはできませんが、別のウィンドウに移動してそこで作業することはできます。
 サイズ変更ポインタ	コントロールをつかんでインタフェースの一部をサイズ変更できることを表します。このポインタは、ウィンドウ境界上、およびウィンドウ内のペイン間にあるサイズ変更ハンドル上で表示されます。矢印の向きは、サイズ変更できる向きを示します。

表 A-3 マウスポインタの説明 (続き)

マウスポインタ	説明
 ハンドポインタ	たとえば Web ページのハイパーテキストリンク上にマウスを置いたときに表示されます。このポインタは、新規ドキュメントを読み込んだり処理を実行したりするためにリンクをクリックできることを示します。
 I ビームポインタ	選択または編集できるテキスト上にマウスがあるときに表示されます。クリックするとテキストを入力する位置にカーソルが置かれ、ドラッグするとテキストが選択されます。
ファイルまたはテキストの一部などの項目をドラッグするときは、次のマウスポインタが表示されます。これらは、マウスボタンを離すと、移動しているオブジェクトがドロップされることを表します。	
 移動ポインタ	オブジェクトをドロップすると、古い場所から新しい場所へ移動されることを示します。
 コピーポインタ	オブジェクトをドロップすると、ドロップした場所にオブジェクトのコピーが作成されることを示します。
 シンボリックリンクポインタ	オブジェクトをドロップすると、オブジェクトをドロップした場所にオブジェクトへのシンボリックリンクが作成されることを示します。シンボリックリンクは、別のファイルまたはフォルダを指している特別な種類のファイルです。シンボリックリンクの作成の詳細は、98 ページの「ファイルまたはフォルダへのシンボリックリンクの作成」を参照してください。
 確認ポインタ	オブジェクトをドロップすると、選択肢が表示されることを示します。実行する操作を選択できるメニューが表示されます(たとえば、シンボリックリンクを移動、コピー、または作成できます)。
 使用不可ポインタ	現在の場所にはオブジェクトをドロップできないことを示します。マウスボタンを離しても、効果はありません。ドラッグしたオブジェクトは、元の場所に戻されます。
 パネルオブジェクト移動ポインタ	パネルまたはパネルオブジェクトをマウスの中ボタンでドラッグするときに表示されます。パネルの詳細は、第4章「デスクトップパネルの使用」を参照してください。
 ウィンドウ移動ポインタ	ウィンドウをドラッグして移動するときに表示されます。ウィンドウの移動の詳細は、24 ページの「ウィンドウの操作」を参照してください。

キーボードの使用

マウスで実行できるほとんどのタスクについて、キーボードを使用して同じタスクを実行できます。ショートカットキーを使用して、Oracle Solaris デスクトップの一般的なタスクを実行したり、パネルやウィンドウなどのインタフェース項目を操作したりできます。アプリケーションでショートカットキーを使用することもできます。ショートカットキーをカスタマイズするには、「キーボードショートカット」設定ツールを使用します。キーボードショートカットの構成の詳細は、134 ページの「キーボードショートカット」を参照してください。

キーボードアクセシビリティ機能を使用するように Oracle Solaris デスクトップ設定を変更することもできます。キーボードアクセシビリティ機能の詳細は、155 ページの「アクセシビリティ」を参照してください。Oracle Solaris デスクトップで使用可能なキーボードナビゲーション機能の詳細は、『Oracle Solaris 11 デスクトップのアクセシビリティガイド』を参照してください。

この付録の内容は次のとおりです。

- 171 ページの「グローバルショートカットキー」
- 172 ページの「ウィンドウショートカットキー」
- 173 ページの「アプリケーションキー」
- 174 ページの「アクセスキー」

グローバルショートカットキー

グローバルショートカットキーでは、現在選択されているウィンドウまたはアプリケーションでのタスクではなく、デスクトップ関連のタスクを実行するためにキーボードを使用できます。次の表に、グローバルショートカットキーの一部を一覧表示します。

表B-1 グローバルショートカットキー

ショートカットキー	機能
Alt+F1、Ctrl+Esc	「アプリケーション」メニューを開きます。
Alt+F2、Meta+R	「アプリケーションの実行」ダイアログボックスを表示します。アプリケーションを実行する方法の詳細は、123 ページの「アプリケーションの実行」を参照してください。
Print Screen	デスクトップ全体のスクリーンショットを撮ります。スクリーンショットを撮る方法の詳細は、124 ページの「スクリーンショットを撮る」を参照してください。
Alt+Print Screen	現在フォーカスのあるウィンドウのスクリーンショットを撮ります。
Ctrl+Alt+矢印キー	指定した方向にワークスペースを切り替えます。複数のワークスペース操作の詳細は、29 ページの「ワークスペースの概要」を参照してください。
Ctrl+Alt+D	すべてのウィンドウを最小化し、デスクトップにフォーカスを与えます。
Alt+Tab	ウィンドウ間を切り替えます。選択できるウィンドウのリストを表示します。キーを離すとウィンドウが選択されます。Shift キーを押すと、ウィンドウを逆順に切り替えることができます。
Alt+ Esc	ウィンドウ間を切り替えます。キーを離すとウィンドウが選択されず。Shift キーを使用すると、ウィンドウが逆順に切り替わります。
Ctrl+Alt+Tab	フォーカスをパネルとデスクトップの間で切り替えます。選択できる項目のリストを表示します。キーを離すと項目が選択されます。Shift キーを押すと、項目を逆順に切り替えることができます。

ウィンドウショートカットキー

ウィンドウショートカットキーでは、現在フォーカスのあるウィンドウでタスクを実行するためにキーボードを使用できます。次の表に、ウィンドウショートカットキーの一部を一覧表示します。

表B-2 ウィンドウショートカットキー

ショートカットキー	機能
Alt+Tab	ウィンドウ間を切り替えます。選択できるウィンドウのリストを表示します。キーを離すとウィンドウが選択されます。Shift キーを押すと、ウィンドウを逆順に切り替えることができます。
Alt+Esc	ウィンドウ間を切り替えます。キーを離すとウィンドウが選択されず。Shift キーを使用すると、ウィンドウが逆順に切り替わります。
Alt+F4	現在フォーカスのあるウィンドウを閉じます。

表B-2 ウィンドウショートカットキー (続き)

ショートカットキー	機能
Alt+F5	現在のウィンドウが最大化されている場合は最小化します。
Alt+F7	現在フォーカスのあるウィンドウを移動します。このショートカットを押したあとで、マウスまたは矢印キーを使用してウィンドウを移動できます。操作を完了するには、マウスをクリックするか、またはキーボードの任意のキーを押します。
Alt+F8	現在フォーカスのあるウィンドウをサイズ変更します。このショートカットを使用すると、マウスまたは矢印キーを使用してウィンドウをサイズ変更できます。操作を完了するには、マウスをクリックするか、またはキーボードの任意のキーを押します。
Alt+F9	現在のウィンドウを最小化します。
Alt+F10	現在のウィンドウを最大化します。
Alt+スペースバー	現在選択されているウィンドウのメニューを開きます。ウィンドウメニューでは、最小化、ワークスペース間の移動、閉じるなど、ウィンドウでの操作を実行できます。
Shift+Ctrl+Alt+矢印キー	現在のウィンドウを指定した方向にある別のワークスペースに移動します。複数のワークスペース操作の詳細は、29 ページの「ワークスペースの概要」を参照してください。

アプリケーションキー

アプリケーションショートカットキーでは、アプリケーションのタスクを実行できます。次の表に、アプリケーションショートカットキーの一部を一覧表示します。

表B-3 アプリケーションショートカットキー

ショートカットキー	処理
Ctrl+N	新規のドキュメントまたはウィンドウを作成します。
Ctrl+X	選択したテキストまたは領域を切り取り、クリップボードに置きます。
Ctrl+C	選択したテキストまたは領域をクリップボードにコピーします。
Ctrl+V	クリップボードの内容を貼り付けます。
Ctrl+Z	直前の操作を取り消します。
Ctrl+S	現在のドキュメントをディスクに保存します。
F1	アプリケーションのオンラインヘルプドキュメントを読み込みます。

これらのショートカットキーに加えて、すべてのアプリケーションはユーザーインタフェースに関連付けられた一連のナビゲーションキーおよび操作をサポートします。これらのキーを使用すると、マウスで実行できる操作を実行できます。次の表に、インタフェース制御キーの一部について説明します。

表 B-4 インタフェース制御キー

キー	処理
矢印キーまたは Tab	インタフェースのコントロール間、またはリストの項目間を移動します。
Return または スペース バー	選択項目を有効化または選択します。
F10	アプリケーションウィンドウでもっとも左にあるメニューを有効にします。
Shift+F10	選択項目のコンテキストメニューを有効にします。
Esc	メニュー項目を選択しないでメニューを閉じるか、またはドラッグ操作を取り消します。

アクセスキー

アクセスキーは、操作を実行するために使用できるメニューバー、メニュー、またはダイアログ内の下線付き文字です。

メニューを開くには、Alt キーを押したままアクセスキーを押します。メニューが表示されているときにメニュー項目を選択するために、メニュー項目のアクセスキーを押してもかまいません。

たとえば、ヘルプアプリケーションで新規ウィンドウを開くには、Alt +F を押して「ファイル」メニューを開き、次に N を押して「新しいウィンドウ」メニュー項目を有効にします。アクセスキーを使用して、ダイアログ内の要素にアクセスすることもできます。特定のダイアログ要素にアクセスするには、Alt キーを押したままアクセスキーを押します。